

## 目次

カモーンカレッジ(カナダ) .....	1
マギル大学(カナダ) .....	41
マンチェスター大学(イギリス) .....	67
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院(イギリス) .....	115
梨花女子大学校(韓国) .....	131
開南大学(台湾) .....	159
フランス語研修(フランス) .....	171





## カモーンソンカレッジ（カナダ）

研修期間：2023年8月1日～8月31日（4週間）

滞在：ホームステイ

研修内容：英語学習、キャリアワークショップ、文化体験イベントや  
課外活動

Ochamomizu University		CBA121		Aug 2-Aug 30		12 students		Elizabeth West	
	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri				
		1	2	3	4				
AM		Welcome to Victoria!	10:00-11:30 CHW341 Orientaton <b>Welcome lunch</b>	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class				
PM			1:00-3:00 CBA121 English class	<i>Comosun &amp; BC College system Overview</i>	1:00 Down Town Tour, Scavenger Hunt				
	7	8	9	10	11				
AM	Holiday	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class				
PM		1:00 Beacon Hill/Ogden Point	1:00-3:00 CBA121 English class	1:00 Hiking, Mount Tomlie	Instructor led activity				
	14	15	16	17	18				
AM	Innovation Lab, Jack White Building	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class				
PM		1:00 BC Museum	1:00-3:00 CBA121 English class	1:00 Sherri Bell Hall WT Pizza with CC students	1:00 Level Ground Site Visit				
	21	22	23	24	25				
AM	IECC Lansdowne, Na'tsa'maht	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	CSEE PISE				
PM		1:00 Dragon Boat	1:00-3:00 CBA121 English class	1:00 Chek News-site visit					
	28	29	30	31	1				
AM	9:00-12:00 CBA121 English class	9:00-12:00 CBA121 English class	surprise!						
PM	1:00 Willows Beach/Picnic	12:00 Closing Lunch							

\* Lunch provided Aug 2, Aug 17, Aug 29

\* English Classroom, CBA121, Interurban Campus (19 on the map)

\* Aug 14-Innovation Lab workshop, Jack White building, Interurban Campus (13 on the map)

\* Aug 17-Pizza with Comosun Students, Wilna Thomas, Lansdowne Campus ( 9 on the map)

\* Aug 21-IECC Workshop, Na'tsa'maht, Lansdowne Campus ( 20 on the map)

\* Aug 25-CSEE Workshop, PISE, Interurban Campus ( 22 on the map)

\*Aug 18-Level Ground, 1757 Sean Heights, Victoria, BC V8M 0B3

\*Aug 24- Chek News, 780 Kings Rd, Victoria, BC V8T 5A2

## 多文化共生と英語への意識

文教育学部 言語文化学科

2年 梶山 真帆

### 事前に準備したこと

私はホームステイだったので、英語で日常生活をしなくてはならず、もともと受験やテストなど用の語彙が多く日常会話の語彙が少なかったので、生活面で使うような語彙を増やしました。また、カナダについての情報や知識をほとんど持っていなかったのではどのような国なのか、どのような食事をするのか、洗濯などの習慣などについて調べました。さらに、他のホームステイ経験者の話などを聞いたり、調べたりして何が必要なのか、どのような生活をするのかなどについても調べたりしました。

### 研修プログラムの内容

現地の大学では、平日の午前中に英語の授業があり、午後はカナダの文化を勉強、体験しに行きました。私にとっては授業を含め、全ての活動が楽しく、とても有意義な時間を過ごすことができました。授業は実践的なもので、洋楽、劇、早口言葉などを通じて発音やイントネーション、リズムなどにも焦点を当てた練習や、YouTube Exchange という動画を見て要点をまとめ小グループで発表し、質疑応答し合うという活動を通して、英語で見て、聞き、まとめ、考え、話し、コミュニケーションをとるといってすべてを英語でこなす練習などがありました。このアクティビティによって必然的にリスニングの時間をとることができるだけでなく、各人が選んだ動画の内容自体が興味深く、そういった興味のある分野や内容のものを英語で学ぶことができるので、それに応じた語彙も身に着けることができとても楽しんで取り組むことができました。同様にプレゼンテーション、特に自分の興味のある分野についてのファイナルプレゼンテーションでは、私はカナダのバイリンガリズムについてまとめたのですが、日本語で習ったことや得た知識を英語でまとめ直すことはとても意義がありました。さらに、発音などの練習は日本の英語の授業ではやらないようなことであったり、全体的に、日本の英語の授業と比べてやったことがそのまま実生活に直結していたりで、やっていてとてもやりがいがあり、熱心に取り組めました。授業のほかにイノベーション、先住民族、エクササイズについての3つのワークショップがあり、座学ではなく実践的な学習で、内容もこれまでやったことがないものでも興味深かったです。例えば、イノベーションのワークショップでは、小グループで活動を通じて、イノベーションをするうえでクライアントの求めていることを理解して、何度も話し合い、問題点を見つけ、改善するというサイクルの重要性を学ぶことができたり、先住民族についてのワークショップでは、先住民族の文化や考え方だけではなく、先住民族の重要性、かわりあい方を知ることができたり、そこから他文化を受け入れることとはどういうことなのかを理解することができたりとどのワークショップもとても有意義でした。また、午後のアクティビティに関しては、ドラゴンボート、ハイキン

グ、ビーチや公園の散歩など現地ではできないことを体験したり、BC Museum に行ったり、chek news や level ground へ行き職場見学や仕事内容などの説明を聞きキャリアデザインをしたりしました。どれもとても楽しむことができ、現地の人々がどのような生活をしているのかを体験することができるとても良い機会でした。私は BC Museum が最も印象的でした。博物館の展示内容そのものもとても面白く興味深かったのですが、何よりも当たり前ではあるものの展示がすべて英語で語彙もなじみのないものであったり、展示の量的にすべて読むことが大変だったりと外国で生きるとはどういうことなのかを体感することはできたり、反対に博物館など内容量の多いところでは複数言語での表記の難しさなど言語面について認識することができたり、そのような問題があることを知ることができたからです。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

現地学生だけでなく、大学のボランティアの方々も午後のアクティビティやワークショップのときに来てくださって案内をしてくださったりおすすめの場所やお店、商品などを教えてくださったりと交流の機会は多かったです。アクティビティ場所へはバスで移動していたのですが、その移動中もたくさん話しかけてくださったりどんな質問をしても丁寧に答えてくださったりととても親切で、またホストファミリーよりも年齢に近いこともあり、気軽に話しかけることができ、文法のミスなどを考えることなく思いのままに友達とするような内容の会話ができるとても良い機会、ボランティアの方々と会話を通して気軽に英語で話すことができるようになりました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私が今回の研修で学んだことは、第一の研修目的でもあった文化についてです。具体的には二つあります。一つ目は多文化についてです。カナダでは本当に様々な人種の方が住んでおり、行われる祭りもギリシャやメキシコなど多様で日本のフェスティバルまで開催されていました。ホストファミリーからこれは、自分の文化をより多くの人に知ってもらうためやその魅力をアピールするために開催されているのだということを知りました。しかし、これだけ多種多様な文化が混在していても文化間に上下関係や影響力の強さなどがなくほとんどの人がすべての文化を尊重していることが印象的でした。カナダに来る前、私は文化の尊重を考えると逆に文化を意識しすぎていて本当の共存は特に意識して受け入れようとするのではなくただその文化を理解することなのではないかと多文化共生について見直すきっかけとなりました。また、フェスティバルに参加するなどしてただその文化に触れて親しむなど、そのような姿勢を持つことだけでも十分異文化を受け入れるということになるのかもしれないという新しい多文化尊重の考え方を持つことができました。

二つ目は、BC はイギリスの文化を強く受けていたのですが、ホストファミリーから地域によってその影響源は異なることを聞きとても興味深いと思うと同時にそれだけの文化の相違を理解できるほど他文化への理解や知識がないことに気が付きました。そのため、私は今後まず読書や異文化交流などを通じて、英語圏に限らず他文化への知識を増やすために努力をしつつ、知るだけではな

くその文化への理解を深めたいと思います。また、異文化の背景を持つ多くの人と関わるときも「文化」に固執して関わるのではなく個人としてのかかわりを持ち、そのかかわりの中で文化への理解を深めるといったように焦点を変えていこうと思います。そして、最終的には在学中に深めた多くの文化の理解や多文化の中で生きることへの理解を社会に出た後、グローバル化が進む中で異なる背景を持つ人との交流や相互理解に役立てたいと思います。

#### 最後に(感想)

この短期研修を通じて、文化について新しい視点を持つことができたことや BC の文化を学ぶことができてとても良かったことに加えて英語へのかかわり方が変わったこともあります。研修前は、正しい文法で話さなくてはという意識があったり、自分の英語に自信なく声が小さくなってしまったり、反対に発音に関してはあまり意識していない部分があったりしたのですが、研修に行き多くの人との交流、英語の授業を通し、文法よりも伝わるように話すこと、伝えられるように様々な言い方をすること、英語を話すことに自信を持つことができるようになりました。また、発音の重要性も学び、ネイティブの方が発音をととても重要視していることから話すときにより発音を意識するようになりました。さらに、教科書英語や文語ではない自然な英語の使い方や語彙などを身に着けることができたのもとても良かったです。短期研修でも自分の望み方次第では語学力を上げることは十分可能で、多少の語学の上達も見られ、文化を学ぶこともでき、何より英語を話すことに対する自信をつけること、英語が使えることでより多くの人と話せて自分の世界が広がる楽しさを学ぶことができるとても良い機会だったと思います。

以上

## カモーンソンカレッジ短期研修を終えて

理学部 情報科学科

1年 浅野 みゆ

### 研修に参加した動機

英語ができるようになるべく留学を考えていたので、2ヶ月もある夏休みを利用して英語力を向上させたいと思ったからです。

### 事前に準備したこと

サマプロ運営委員をしたりして英語を使う機会を設けることを心がけていました。OSSMA の保険に入りました。Android だったため WIFI レンタルを申し込みました。バスの乗り換えアプリが wifi なしでも使えたのと、普段外であまりスマホを使わないので 500MB くらいしか使わずに終わりました。抹茶味のお菓子をお土産として持っていきましたが、ホストマザーはそういうのを食べない方でした。日差しが強いのでサングラスや帽子があると良いです。あと寒いので防寒具は必須です。乾燥していたので現地で保湿剤を買いました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

9:00-12:00 までお茶大生 12 人みんなで授業を受けました。初めて知った単語を英語で教えあったり、ted や bbc ニュースから好きな記事を選び、内容について発表したりしました。

他には、

- ・ビクトリアで驚いたことや体験したことを共有
- ・先生が持ってきた英語の歌をみんなで考察
- ・自分のリーダーシップや力を発揮した経験を軽くプレゼンするなどがありました。

最後の授業では各自が選んだ題材についてプレゼテーションを行いました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

午後は現地のボランティアの学生達とビクトリアを観光したりアクティビティを行いました。みんなでバスで移動してダウンタウンに行ったり、一緒にご飯を食べたりしました。

ビクトリアは街並みがレンガ風な建物で港もあり綺麗な街でした。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

ホストファミリーはインド出身の方々で、マザーが一人で住んでいるところに夏休みとしてマザーの兄弟と一緒に暮らしていました。洗濯は週一回です。シャワーは 8 時までという制限があったため 9 時過ぎには寝て 6 時に起きるといふ小学生のような生活でした。



ファミリーはご飯はチャパティというナンのようなカレーをほとんど毎日食べていました。私はカレーの日もあれば、マザーが麺やチキンナゲットなど私用に作ってくれたものを食べていました。1階に自分の部屋があり、2階がリビングなのですが自分の部屋に籠るのは良くないと思い、犬と触れ合ったり水筒やお昼ご飯の容器を洗いに行くなどして2階に行く理由を作っていました。地域のパンジャビ祭りに参加するなどパンジャビの文化を体感できました。最後の5日間のみステイ先を変更しなければならず、マザー1人のお家に移ったのですが、そこではウクライナの家族と夜ご飯を食べたり、同じくカモーンに来ていた盛岡の子と一緒にいたりして、それはそれで貴重な体験ができました。前のマザーよりもたくさん私と会話してくださる方だったのでどちら家もとても素敵な方達だったのですが、英語の観点でいうとこちらのマザーの方がありがたかったです。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

カナダは移民を受け入れているが家が足りていないとマザーが言っていて、一方で日本は全然移民を受け入れていないなど国の在り方について、また前のマザーはインドでは授業が英語で行われていると言っていて日本もそうすべきなのかと考えさせられました。お茶大生みんな仲良くなり楽しかったのですが、どうしても日本語の環境になるので、日本語なしで生き抜きたいんだという方は大学のプログラムではなく自分で何かしら探す必要があるのかなと思いました。私は前期の授業で週一しか英語の授業をとっていませんでしたが、それでは英語が上達するわけがないと日本でもっと英語に触れる機会を増やそうというモチベーションを持つことができました。長期留学も考えているので今は英語の試験勉強を頑張りたいです。

以上

## カモーンソカレッジ研修を終えて

生活科学部 心理学科

2年 今 さくや

### 研修に参加した動機

私は将来公認心理師としてここに悩みを抱える人々の支援をしたいと考えている。近年はグローバル化が進み日本にも多くの外国の方が住んでいるため、私は日本人だけでなくそのような人々も支援していきたい。そんな中で、英語の能力は必要不可欠なものである。実際に現地での生活の中で英語にふれあい、学習することは私の英語力を伸ばすチャンスであると思いこの研修に応募した。

### 事前に準備したこと

まず準備したことは、英単語力をつけることだ。さまざまな留学の体験談を聞く中で、単語力が重要なことを知ったので単語力をつけることから始めた。大学受験以降、英語の学習を怠っていたので出国してから勉強の時間が足りなかったと痛感した。そのため、留学を考えている方はプログラムに申し込みをする前から継続的に英語学習をすることをおすすめする。2 つ目は、英語のリスニング力をつけることだ。留学先の生活に少しでもスムーズに適応するために英語に耳を慣らそうと考えた。そこで海外の YouTube や英語のポッドキャストを毎日聴いた。実際にこれは留学先でとても役に立ったことであった。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は、このプログラムに参加したお茶の水女子大学の生徒 12 人で受けた。コミュニケーションやプレゼンテーションなど英語を話す機会が多く設けられており、実践的なものだった。日本の大学での英語の授業では、読み・書きが中心だったのでとても価値のある体験だった。授業はアットホームな雰囲気、楽しく行われたので英語が苦手な私でも気楽に受けることができた。難しかったり、わからなかったりしても先生や友人が助けてくれるので安心できる。簡単な数分間のプレゼンテーションが 2、3 回行った。英語の勉強をしながら、有効なプレゼンテーションの仕方も学ぶことができた。他にも、単語帳に乗っていない、日常単語やことわざを学ぶこともできた。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

課外活動では、ビクトリアの代表的な観光地やビクトリアの歴史・文化を知ることができた。また、地元のテレビ局やコーヒーカンパニーにも訪問しビクトリアの地元の生活を支える一部を知ることができた。私が課外活動で 1 番印象に残っていることは、ホエールウォッチングだ。野性のシャチや鯨、アザラシを実際に見ることができてとても興奮した。また、船に乗りながらビクトリアの大自然を

感じる事ができた体験だった。学習だけでなく、このような課外活動があったため学習に追い詰められることなく、リフレッシュしながら学習を楽しめた。また、プログラムの参加者とも仲を深める機会になり、授業の受けやすさにもつながったと感じる。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

はじめに天候については、湿気が少なく気温も低めなのでとても過ごしやすかった。雨の日は2日間ほどしかなく天候に左右されることなく課外活動や週末の観光を実行できたのがとても良かった。食事については、ビクトリアが移民の国ということもあり、ホームステイ先では世界中の料理を作ってくれた。味が独特ということもなく、日本人の口にも合うものだったので食事には困らなかった。留学先の担当者さんや参加者と連絡をいつでも取れる状況だったので、何かあった時にすぐに相談できるということが心強かった。そのため初めての留学でも安心できると感じた。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

これまで英語を話すことに抵抗があった。しかしこの研修を通して、とにかく話して英語でコミュニケーションをとることが大切だと気づくことができた。発音が変でも間違っているでも頑張って伝えようとすればコミュニケーションをとることができるので、英語を話すことに対するハードルが下がった。研修で学んだことを活かして、これからも英語力を伸ばすためにもっと英語に触れる機会を持つと思う。

以上

## カモーンソンカレッジ研修を終えて

文教育学部 言語文化学科 グローバル文化学環

2年 秋間 咲穂

### 研修に参加した動機

私は高校時代に短期でホームステイをする予定だったが、コロナの影響で行くことができなかつたため、大学で短期留学をするとその時から決めていた。カモーンソンカレッジの研修は今回がお茶大としての初めての研修先だったため、他の大学のように報告書がなくギリギリまで迷ったのだが、治安も比較的安全で人柄も優しいと言われているカナダで、プログラムも充実しており、コミュニケーションを積極的に取れるホームステイの研修だったためカモーンソンを選んだ。多文化共生に興味があったため肌で異文化を感じたいと思ったことと、自分の英語力を試してみたいと思い研修に参加した。

### 事前に準備したこと

SIM カードと保険は大学で紹介されたものを選び、スーツケースは自分で調べてレンタルにした。持ち物はネットの情報や『地球の歩き方』を参考にし、ホームステイ先へのお土産はネットで調べたものとカナダに留学中の友達に聞いて購入した。(何人も留学生を受け入れたことがあるホームステイ先では箸や扇子はもう貰っている可能性が高いから、食べ物系を多めに持っていった。)またホームステイ先にメールをして、気候について、洗濯の頻度などを前もって聞いておいた。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業はお茶大生 12 人のクラスに 1 人の先生で、講義形式ではなく英語を話すことがメインの授業だった。文法も少し触れたが、途中で授業のフィードバックのアンケートが何度か取られ、多くの人が英語を話すことに力を注ぎたいと考えていたため、英語を話すことがメインだったと思う。週末に何をしたか、課外活動はどうだったかなどを最初に一人一人が話したり、新しく学んだ単語をみんなで共有したり、洋楽をきいて歌詞の意味について考えてみたり、自分が気になるニュースを選んで紹介したりなど、面白い授業内容で充実していた。ホームステイだったため新しく学ぶ単語が多く、どのような状況でその単語を聞いたのかも併せて他の人から学ぶことができ、新しい単語の共有は自分のためになったと感じた。プレゼンテーションをしたり、企業訪問をしたりなど実践的な経験もすることができた。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

水曜日以外は基本、午前が授業で午後が課外活動だったため、多くの場所を回ることができた。具体的にはダウントウンツアー、ハイキング、コーヒーカンパニー訪問、ドラゴンボート、テレビ局訪

間、ウェールウォッチングなどである。観光目的での海外旅行では企業に訪問することはないと思うので、研修ならではの経験ができたと思う。課外活動ではボランティアの方が何人かついてくださったので、安心して観光することができた。また先住民の方々との交流もあり、自文化を大切にしながらもオープンな態度で私たちに文化の説明をしてくださったのが印象的だった。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

ビクトリアは自然豊かで、治安も日本と同じ感じだったためとても過ごしやすかった。21 時ほどまで明るく日が長かったため、帰り道が 1 人でも安心だった。ダウンタウンに大麻を吸っている人やホームレスはいたが、向こう側から何か話しかけてくるようなことはなかった。気候は日本と違って湿度が低い上に気温も低いので、朝は寒いくらいだったが過ごしやすかった。ホームステイ先を何個か移動することになったのだが、カモーンソンのスタッフさんで日本人の方がいたので、その方が間に立って対応をしてくださり安心して過ごすことができた。一つ目のホームステイ先は、自分の部屋も綺麗で専用のバスルームもあり、外には大きなプールもあるなど家の環境はとても良かったのだが、「4 日間外泊するから 1 人でこの家で過ごしてほしい。」、「先生には言わなくて良い。」、「安全だから大丈夫だ。」などと言われ、流石に知らない地を 1 人で過ごすのは不安だったので、ホームステイのコーディネーターへ変えてほしいと連絡をし移動先が決まったのだが、直前にそのホームステイ先がキャンセルとなったため、臨時で一つ目のホームステイ先の友人に預けられることになった。この友人の家は一軒家ではなくアパートで狭かったことと、若夫婦だったためにあまり話しかけてこず、過ごしにくく息苦しかった。この家に今後もステイするか、新しいところを探すかと言われたので、新しいところを探してもらった。その時はいきなり色々起こりすぎて混乱し、移動するのも疲れていたため、もうここに残りの期間もステイしようかと思ったのだが、せっかくカナダに来たのだから色々な家を経験してみようと思い、3 つ目の家に移動した。3 つ目の家は環境もよく、ホストファミリーもとても優しかった。買い物に連れて行って食べてほしいものを買ってくれたり、バンクーバーの船乗り場まで、他の友人の家によってピックアップし、まとめて車で送り迎えをしてくれたり、この家なら 1 年間の留学でもできると思えるほど素敵なファミリーだった。週末は友達とバンクーバーに一泊旅行に行くなど、計画を立てて観光地を多く回ることができた。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

カナダはさまざまな国の人が集まっているため、ボランティアのかたもホストファミリーも違うバックグラウンドを持っていたが、英語という言語で意思疎通が取れるということに楽しさを感じた。飲食店に入ると日本人が働いていることも少なくなかった上、カナダはとても過ごしやすかったので、海外で働くことも具体的に考えるようになった。日本との違いを感じることも多く、多文化理解、多文化共生についてより興味が深まった。今後も積極的に自分がやりたいと思ったこと、知らない世界に飛び込んでいきたい。

以上

## カモーンソンカレッジ研修プログラムを通して

文教育学部 言語文化学科

4年 小芝 華夏

### 研修に参加した動機

研修に参加した主な動機は2つありました。

1つは異なる文化圏での長期間での生活を体験したいという気持ちです。もともと異文化交流に興味があった為、大学1、2年次に短期留学プログラムや海外研修のある講義を受講していましたが、新型コロナウイルスの影響で渡航がキャンセルとなり全てオンラインでの開催となりました。大学卒業後に長期的に海外に滞在することができる可能性は大学在学中の今よりも小さくなると感じ、大学生活最後の年に自分のやりたかった海外短期研修に参加しようと思いました。

もう1つは英語能力の向上です。研修参加を決めた頃、就職活動を終了し、海外案件の多い企業で働くことが決まりました。自分も積極的に海外事業に携わるキャリアを考えており、在学中に将来必要となる語学スキルを伸ばしたいと考え、研修参加を決めました。カモーンソンカレッジ研修は特にスピーキングとリスニングに重点が置かれており、苦手分野であるこの2技能のレベルアップに努めたいと思い、本研修を選択しました。

### 事前に準備したこと

事前に準備したことは3点あります。

1点目は、カナダについての事前調査です。今回が自分にとって初めての1か月以上の海外滞在でした。そのためまずはカナダで生活するうえでの不安を解消しようと気候や食文化等を調べました。更に、充実した生活ができるようにアクティビティ等を調査し、事前にカナダでどのような経験がしたいか十分考えたうえで研修に臨みました。

2点目は、英語のスキルアップです。今回はホームステイだったので、ホストファミリーと沢山話ができるように会話で使えるフレーズや自分や家族について説明できるような語彙を自分の中に貯めていきました。

3点目は、危機管理です。国外に行くのが6年振りだったので改めて日本を出てからの危機管理について、持ち物や生活の仕方等を事前に確認しました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

カモーンソンカレッジの研修では、リスニングとスピーキングに特化した授業を受講しました。具体的な授業内容としては以下のようなものがありました。

- ・他の学生と出されたお題について話す。例) 週末何をしたか、好きな映画のジャンルは
- ・気になった英語の語彙を交換する
- ・洋楽を聞いて歌詞の分析を行う
- ・早口言葉
- ・動画や記事を見て自分の気に入ったものについて調べ、その動画や記事についてディスカッションを行う。
- ・パワーポイントを使ったプレゼンテーション  
例) 将来について、自分の学部について
- ・ラボでの実験
- ・カナダの先住民とその文化



特に楽しかったものは、洋楽の歌詞分析と動画や記事のディスカッションです。歌詞の意味を分析し、様々な英語の表現を楽しんで学ぶことが出来ました。動画や記事のディスカッションは自分が気になった英文の記事をじっくり読むことができると共に、他の人の記事に関する発表から新しい語彙や表現を吸収することが出来ました。また、ディスカッションの中で英語のスピーキング能力が特に伸びたように感じました。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

研修は課外活動が多くとても充実したものでした。具体的な活動は以下のようなものです。

- ・フェアトレードコーヒー会社の見学
- ・テレビ局の見学
- ・ダウンタウン
- ・ハイキング
- ・ドラゴンボート体験



課外活動はインストラクターの方や学生ボランティアの方々がサポートしてくださいました。学生ボランティアの方と移動時間やアクティビティの中で積極的にコミュニケーションをとることが出来たのでリスニングやスピーキングの力は伸びたように感じます。ビクトリアは自然豊かな地域で、様々な課外活動を通して自然の素晴らしさを感じ取ることが出来ました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

研修はホームステイだった為、授業以外はホストファミリーと多くの時間を過ごしました。ホストファミリーは気さくな方々で、買い物に行ったり、川に泳ぎに行ったり、ピザを食べながらクイズ番組を見たりと楽しい時間を過ごすことが出来ました。会話の中では発音を向上させたいという私の為に発音を教えてくださいました。食事に関しても、パスタやピザ、ハンバーガーといった料理以外にも

中華や日本食、メキシコ料理等様々なレストランがありました。基本的にホストファミリーと食事を共にし、ホストファザーが料理を振舞ってくれるのですが、とてもおいしかったです。

先程述べたように、ビクトリアは自然がとても豊かで穏やかな地域でした。その為自然に関わるアクティビティが多かったです。同じ研修メンバーとジップラインをしたり海に行ったりと自然にたくさん触れ、エネルギーを吸収することが出来ました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムを通して学んだことは大きく2点あります。

1 点目は積極性の大切さです。研修に参加する際、積極的に発言の機会を作り、英語を使っていくことを目標に掲げていました。そして授業の際は主体的に英語で話すことを意識し、日常生活でも積極的に人と話すことを心掛けました。その結果、プログラム参加前よりも発音が良くなったと共に、長く英語で会話ができるようになりました。英語を話すことに対する不安、緊張が積極的に話す機会を設けたことで減りました。自分の殻を破り積極的に挑戦することが成長につながることを強く実感しました。

2 点目は文化の多様性です。カナダでの生活を通して先住民族の方々の文化や他国から影響を受け進化した文化等、様々な文化に触れることが出来ました。日本の文化に似ている点もあれば異なる点もあり興味深かったです。文化を学び、吸収し、お互いに認め合うカナダの文化はとても印象的でした。

今回の研修で得た積極性は会社で働く際にも大切にしていこうと思っています。また、英語に関してもオンライン英会話や英会話カフェに積極的に参加し、生活の中で使っていこうと考えています。

以上



## カナダ留学を通して学んだこと

文教育学部 人文科学科

2年 植田 葵

### 研修に参加した動機

私は海外に行った経験がないため、大学生の夏休みという時間があるときに留学の経験をしておきたいと思ったため、この研修に参加しました。また、私はグローバル文化学環というコースに所属しているので、国際交流や多文化共生の授業を受けることが多く、授業を通して海外に行ってマイノリティとして生活してみたい、海外の方ともっと深く関係を築いてみたいと思いました。そして、ホームステイという居住形態も、より現地の人と交流できると感じ、この研修に参加したいと思った理由の一つです。初めはホームステイ先に馴染めるかななどの不安もありましたが、経験してみたいと思い、ホームステイができるカナダへの留学を決断しました。

### 事前に準備したこと

事前に準備したことはあまりないのですが、情報収集は事前におきました。例えばどのような気温なのか、生活する上で気を付けるべきこと、食べ物や観光地のおすすめなどをインターネットや人に直接聞くなどしてたくさん調べておきました。また、ホストファミリーと連絡を取り合って、わからないことは質問しておきました。そして、ホストファミリーへのお土産も日本で買っておいなのですが、とても喜んでくれたので、準備しておいて良かったと感じています。また、ホームステイ先の方やカナダで出会った方は日本に興味を持ってくださる方が多かったので、もう少し日本を紹介できるようなものを持参していてもよかったなと少し後悔しました。また、留学に行く前に、あまり英語を使う機会を持つことができなかったのもう少しスピーキングやリスニングの練習をしておけば、もっと苦勞せずに英語での会話ができたと感じています。

### 研修プログラムの内容(授業について)

月曜から金曜の9時から12時までと、水曜日の13時から15時までは英語の授業が行われました。英語の授業はお茶の水女子大学の生徒と、カモーンカレッジの英語教師とで行われ、現地の生徒はいませんでした。スピーキングとリスニングがメインの授業で、全て英語で行われました。しかし、先生の英語はとて聞き取りやすく、わからない単語があっても先生に直接聞いたり自分で調べたりできたので、難なく授業を受けることができました。また、将来について考える時間が設けられたり、自分のこれまでを振り返って自分の強みを理解し、それに関してプレゼンをしたりしました。このように、自分の将来に直接良い影響をもたらすことができそうな取り組みに重点が置かれた授業が行われました。宿題はほとんどなかったので、授業内に英語の勉強をして、他の時間は色々なところに行ったりホストファミリーと話したりする時間に当てることができました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

月、火、木、金曜の午後にアクティビティがありました。ダウンタウンに遊びに行ったり、公園、ビーチ、美術館に行ったり、ドラゴンボートをしたりと様々なことをしました。その際には毎回スチューデントボランティアの方がついてきてくださり、色々なおすすめのショップやカフェも教えてくださいました。スチューデントボランティアの方々には本当に優しく、たくさん話すことができました。スチューデントボランティアの方は色々な年代・国籍の方がいて、英語で会話をしました。そのため、その人の地元について質問してみたり、これまでの経験について質問してみたりすることを通して、とても学びを深めることができました。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

ホームステイ先では、朝ごはんは自分で準備し、夜ご飯は家族全員で食べるという形式でした。この形式はホームステイ先によって様々で、昼ごはんは夜ご飯は作ってもらえるという家庭もありました。夜ご飯を食べた後は一緒にドライブに行ったり、映画を見たりして過ごしました。ホストファミリーは本当の家族のように受け入れてくださって、たくさん話をすることができました。日本についても興味を持ってくださって、これは日本語でなんていうの、と聞いてくださったり、日本食のこれはどういう味なの、日本はどのような気候なの、などとたくさん質問をしてくださったりしました。また、カナダについてもたくさん教えてくださいました。週末は一緒に過ごすこともありましたが、別々に過ごすこともありました。生活面に関しては、ホストファミリーがこれまでにたくさん生徒を受け入れていて経験が豊富だったり、困ったときはカモーションカレッジの日本語を話せる方に日本語で相談したりすることもできたので、日本との差で困ることはほとんどありませんでした。バスが1時間に1本しかなかったため、平日の朝がとにかく早かったり、色々なところに行くのに時間がかかったりはしました。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

このプログラムを通して、積極的に人と関わることの大切さを学びました。1ヶ月でビクトリアを去ることが事前にわかっていたため、その短い期間で色々な人と関わりたいという思いから、日本にいたとき以上に積極的に会話をするように意識していました。すると、本当に色々な学びがあったり、良い関係を築けたりしました。そのため、日本でもそのように積極的に人と関わっていきたくと思うようになりました。また、様々なことに挑戦してみたいと思うようになりました。私は英語が苦手なので、初めは留学に行くことを悩みましたが、実際に留学を経験して今は挑戦して本当に良かったと思っていますし、ホームステイという居住形態も初めはとても不安だったのですが、たくさん学びがあったので、本当に良かったと思っています。何事も失敗を恐れず挑戦していきたいと思っています。また、留学のプログラムで職場体験にも行かせてもらって、自分の好きなことを仕事にして、仕事に全力を注ぐということに憧れを持ったので、自分もそこで出会った方々のように興味を持っていることを仕事にできるように今努力したいと思いました。また、英語の授業内やカナダで生活す

る中で自分の将来を考える時間が多かったので、それを活かして自分の将来についてもっと真剣に考えていきたいと思いました。

以上

## カモーション大学夏季研修報告書

理学部 情報科学科

1年 森脇 花楓

### 事前に準備したこと

事前準備として、英語のリスニングの強化のために、洋楽を聞いてタイピングをするというゲームを行ない(そういうサイトがあります)、洋画を積極的に見るなどして、聞き取る能力の向上を図りました。

### 現地での授業について

現地での授業は、ネイティブの先生が英語で全ての授業を行なっていました。授業の流れとしては、はじめに、昨日の様子はどうだったか先生と英語で話すところから始まりました。みんな大体、放課後に友達とどこへ行ったかや、ホームステイ先でどのように過ごしたかについてお話ししました。それが終わったら授業内容に入っていきます。

#### <日常学習>

- ・単語交換：自分が日常生活で新しく知った言葉を2~4つカードに書いて、英語で説明できるようにする。そして、それをクラス全員で共有する。
- ・ことわざ:英語のことわざを1人1つランダムで配られ、そのことわざについて理解し、説明できるようにする。そして、クラス内で共有する。
- ・質問大会：1人1つ、会話に関するお題を考え、質問も考える。そして、それをシャッフルし、そのお題についてクラス全員と話す。
- ・記事ディスカッション(パターン1)：記事を1人1つ読み、それについてのディスカッションを行う。例えば、環境問題に取り組んでいる企業について3種類の記事が配られるので、3人グループで1人1つ読み、どのような内容だったかの質問に答えられるようにし、最終的に環境問題についてどのように考えるか話し合った
- ・記事ディスカッション(パターン2)：記事を全員で読み、その内容についてディスカッションを行った。たとえば、ジェンダーについての記事を読み、どのようなことが問題として考えられるか、そして日本とカナダの違いについて話し合った。
- ・文化学習：ホームステイ先の人や、ボランティアの人にインタビューを行うことで、カナダについて理解を深めようというもの。3人グループで一つテーマを決めてこの活動を行なった。スポーツ、生活、ジェンダー様々なテーマがあった
- ・英語の記事・動画の概要をまとめ発表：自分の興味を持ったトピックについての短めの記事や動画を見て、その内容をまとめ、小さいグループ内で発表を行い、質疑応答をするというもの。理系分野から文系分野、時事関連のものなど、内容が多岐にわたっていた。

### <プレゼン関連>

- CamStar：自分の経験したことについて話し、それが今自分のどのような能力につながっているのかを発表するもの。みんなの前ではなく、個々にそれぞれ聞きに行く、というものでした。いろいろな人のいろいろな経験を聞くことができました。
- Final Presentation：英語で自分の興味のあることや、自分の学んでいる分野について、自分の将来についてなどいろいろなテーマから一つ選び、発表を行いました。これについては1人5分で全員+ゲストの前で発表を行いました。英語での質疑応答などもあり、とても勉強になりました。

### 課外活動について

課外活動では、ボランティアの方と一緒にいろいろなところを巡りました。ビクトリアについて多くのことを教えてもらえたとともに、英語を使う機会がたくさんあってよかったです。また、とても良い運動になったとともに、バスの使い方から、いいお土産屋さんまで多くのことを教えてもらえたと思います。

### 生活全般について

放課後は課外活動の後、ボランティアの人たちに案内してもらって街巡りをしたり、ホストファミリーと一緒に過ごしました。ホストファミリーとは、バンクーバーアイランドのビクトリアから離れた上の方のビーチや農場やガーデン、美味しいレストランなどに連れて行ってもらいました。家の中では、ホストファミリーとお菓子作りをし、洋画を一緒に見て感想を共有しました。また、家の裏庭には家庭菜園があり、そこで果物を摘んで食べました。お菓子は、コーンケーキ、クッキーパイなど様々なものを手作りしていて、カナダの伝統的な料理も食べさせていただきました。とても楽しい生活でした

### 同プログラムを終えて、今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回の留学では自分に自信をつけたとともに、自分に何が足りないかを明確に知ることができました。英語に1ヶ月も囲まれたことが今までの人生で無く(幼少期を除く)、とても不安でしたが、自分の想像以上に英語が通じたことは私の自信につながりました。ですが、自分の語彙力や聞き取る能力の低さを自覚する機会にもなりました。先輩方がさりげなく支えているイディオムや、日常生活に必要な単語がすらすら出てこないことも多くありました。このことを通し、自身の英語力をどういった観点から見直していけば良いかをもう一度考えることが必要だと感じました。また、ホームステイ中に自身の大学の課題をやっていたところ、それをホストブラザーが教えてくれるという機会がありました。しかし、それらについて英語でなにも理解することができませんでした。英語で自分の専門分野を学ぶということは、日常生活を過ごすということと少し違う力が必要だと感じました。今後、自分が海外で自身の専門分野について学びたいと考えたときに、それが実現できるように専門分野に関する英語力も上げていくことができたら良いと感じました。

そして、今回海外のボランティアの人たちと過ごし、ホームステイをすることで、多くの文化に接することができました。カナダの先住民のことや、政治のこと、料理のこと、いろいろなことをすることができました。その一方で、日本文化を伝えることは難しいと感じました。私のホストファミリーは、海産物や出汁が苦手で、日本の料理はあまり喜ばれませんでした。そういったときに他にどんな文化が伝えられるか考えていこうと思います。

以上

## 人間的にも成長できた短期研修

文教育学部 言語文化学科

2年 村山 佳穂

### 研修に参加した動機

私が研修に参加した動機は、自身がグローバル文化学環に所属しており、日本語教育についてくわしく学んでいこうと考えていたため、約 4 週間の研修でホームステイをしながら現地の英語にふれることで自身の英語能力を高め、第二言語として日本語を学ぶ人たちに英語を使いながら日本語を教えるためのスキルを身につけたいと思ったからだ。また、生で触れることでしか感じられないカナダ文化という異文化の魅力を体感し、自分が興味を持っている異文化理解・異文化共生への関心をさらに深めたいと考えた。数あるプログラムの中からこのカモーズン研修を選んだ理由は、この研修がホームステイであったこと、また授業だけでなくアクティビティにも力を入れていたために、先ほど述べた文化体験をより味わえると考えたからである。

### 事前に準備したこと

私は短期留学に向けて、まず事前に BBC ラジオや英会話風のリスニングの投稿などを活用し、リスニングの勉強をすることを心がけた。現地で生活していく上で、相手が何を言っているかを理解することは何よりも大切だと思ったからだ。高校までで聞いてきたテスト用のリスニングではなく、より生に近い、カジュアルな話し方のリスニング勉強をすることは、実際にカナダに行った後にもかなり役立ったと感じる。

また、生活面として、カナダの生活や文化についてもある程度調べた。どのような気候なのか、何を食べているのか、宗教面で気をつけなければいけないことはあるかなど、留学生である以前にカナダで生活をする 1 人の人として知っておくべきことをあらかじめ調べておいたことが、特に不自由のない充実した留学生活に繋がったと思う。

### 研修プログラムの内容(授業について)

研修中は、実践的で英語力上達につながるだけでなく、今後の自分の人生にも役立つような授業を受けることができた。授業内では 4 技能全てに着目した活動を行ったが、その中でも私が印象に残っているのはスピーキングの授業である。単なる発表形式でスピーキングの練習をするのではなく、会話やディスカッションをメインにしてインフォーマルかつ実践的にスピーキングをすることで、「英語を話す」ということへのハードルが下がり、プログラム参加前よりも自然に、緊張せずに英語を話せるようになった。また、授業が 12 人と少人数制であったこと、定期的に授業フィードバックを行っていたことから、発音の仕方やどうすれば流暢に話せるようになるかなど、今授業を受けている学生が伸ばしたい、学びたいと思っているところに焦点を当て、ピンポイントでやりたいことをやれたと

ころもこのプログラムの大変よかったところであると思う。さらに、発表をする際には、Camstar に基づいて自分の長所を考えたり自分が興味を持っていることをまとめたり、単なる英語学習というよりも、大学の勉強や就活にも使えるような、多方面で意味のある学びや経験を得ることができた。プログラム全体として、全てが今後の自分に生きてくるような、大変充実した学習をすることができたように思う。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

研修中の課外活動では、ダウンタウン巡りや放送局訪問、ミュージアム探検にドラゴンボート体験、ハイキングといった文化的活動や、ラボの実験体験や先住民の方との交流といった学部や人種を超えた交流活動など、本当に様々なアクティビティを行った。どの課外活動も大変興味深かったが、その中でも特に印象に残っているのは先住民の方との交流である。今回交流した先住民の親子は「先住民だから」といって特別な振る舞いをするわけではなく、普通に仕事をし、学校に行き、部活をし、そして先住民の文化を継承するというスタイルで生活していた。私は、このように先住民かそうでないかに関わらず、それぞれが融合しつつもそれぞれの文化を守るという生き方がとても大切だと思う。そのことを改めて実感できた今回の交流は私にとってとても刺激のあるためになるものになった。

また、どのアクティビティにもスチューデントボランティアの方が同行し、私たちが学びあるかつ楽しい活動を行えるよう手助けをしてくださったことで、アクティビティがより充実したものになった。アクティビティ中に年齢層が近いスチューデントボランティアの方と英語で会話をすることで、日常会話としての英語のスキルも上達したうえ、他国の人と友達になれるという非常に貴重な経験を得ることができたと思う。全てのプログラムが新鮮で、私の生きる糧になった。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

カナダでの生活は、涼しい気候やカロリーが高めの食生活、チップ制度など、さまざまところで日本のものと大きく違っていた。特に気候とチップ制度に関しては、日本で過ごすのと同じ感覚でいるとかなり寒さを感じたりかなりお金を取られた気分になったりと、なかなか慣れなかった。だが、慣れてくるとそのどれもに「カナダらしさ」を感じ、新鮮でとても興味深いものになった。また、カナダで生活するために用意していったよかったものが、2枚のクレジットカードである。私はカナダに行き少しして、いつも使っていたクレジットカードが不正利用により止まってしまった。一応念のために持っていた予備のクレジットカードがとても役立つため、海外に行く際には念には念を入れるべきなのだと学んだ。

ホームステイに関しては、とても優しく、かつ私たちの英語力が上達するよう気遣ってくれたホストファミリーや人懐こい犬のおかげで大変満足のいく楽しい生活ができた。英語の発音を上手にしたいといった相談からあそこに行きたい、あれが食べたいといった軽い頼み事まで全てを快く引き受けてくれたホストファミリーには本当に感謝しかない。また、休みの日には観光名所や川に連れて



行ってくれ、彼らと一緒に遊んだことは私のとても素敵で大切な思い出になった。1ヶ月のホームステイを経て第二の家族ができたような、そんな充実した日々だった。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私は研修プログラムを通して、英語だけでなく、様々な文化を持つ人との共生の仕方、慣れない土地でも生きていくための術、言葉に頼りきらないコミュニケーションなど、本当にさまざまなことを学べた。この学びは、私の英語力のみならず人間性をも成長させたと思う。私の当初のプログラム参加目的は英語力の上達とカナダ文化に触れること出会ったが、この1ヶ月の研修でその当初の目的よりはるかにたくさんのことを学び、感じられたため、本当にこの研修に参加してよかった。また、私は今大学で多文化理解・多文化共生について学んでいるが、今回の学びはその学習に大きく生きてくると考える。カナダの人たちのさまざまな文化を許容し、人種で区別せず皆で共に生きていこうとする姿勢やアットホームな空気感はグローバル化が進む今の時代にとっても重要であるし、日本も見習わなければいけないということを、講義で聞くよりもより強く実感した。そして、私はこの研修を通してグローバルな職業に就くことに関心をもつようになった。私は今まで日本国内で就職することしか考えていなかったが、日本国内にとどまらず、世界に目を向けてグローバルに働いていくことは、大きな力にはならなくとも、今回私が重要性を実感した多文化共生を進めていくための少しの促進力にはなると思う。私は、今強く感じているグローバル化への関心を忘れることなく、今後の学習やキャリア生かしていきたい。

以上

## 留学経験を経て得たもの

文教育学部 言語文化学科

2年 竹下 ことみ

### 研修に参加した動機

私は今まで留学をしたことがなかったので、まず短期留学をして自分の語学力を試してみたいというのがこの研修に参加した第一の目的です。他にイギリスのマンチェスター大学も選択肢にありましたが、カナダの人々は穏やかで優しい人柄であるということを留学担当の方から聞き強くお勧めされたので、この研修に参加することに決めました。またホームステイというのも、現地の人とコミュニケーションを取る機会が増えると思い、魅力的に感じました。

### 事前に準備したこと

交通機関や気候のような、暮らしていくうえで必要な情報をインターネットで調べました。しかし滞在先であるビクトリアの情報がインターネット上に少なく、実際はオンラインでカモーンカレッジの現地の教員や学生と話す機会があったので、その際、おおまかな生活面の情報を入手しました。また、現在カナダに留学している知人がいたので、その人から役立つアドバイスをもらいました。その一つに日本のドライヤーやヘアアイロンは電圧が合わない場合が多く、カナダの電圧に合わせた新品を購入した方が電圧変換プラグを買うより安く済むというものがあります。他にはイギリスに留学をしたことがある友人に携帯電話のインターネット利用のことや、現金をどれほど持っていくかなどを相談しました。周りの頼れる人に聞きまくり、少しでも心配事を減らそうとしました。お茶大の語学カフェ等に通うことで少しでも語学力を上げようと思いましたが普段の生活で忙しく、行く暇がありませんでした。ですから、語学力をあげることは諦め、代わりに、出発2週間前から、就寝前に英語のラジオやドラマを聞き流して、耳に英語を慣れさせようと思いました。ホームステイ先には事前に質問のメールを送りましたが、相手側から返信がなく、少し不安になりました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業の内容は難易度がそこまで高くなく、先生がゆっくり英語を話してくださったので授業の内容についていけなくなる、ということは基本的になかったです。洋楽の歌詞の聞き取りや、自分の興味のある分野のプレゼンテーションなど、楽しい内容が多かったです。また授業がお茶の水女子大学生、12人だけだったのでこぢんまりとした空間で、穏やかに進んだイメージです。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

水曜日以外は午後にアクティビティがありました。ダウンタウンを散策したり、海で船を漕いだり、

博物館に行ったりしました。課外活動ではボランティアの現地学生と交流できたのが良かったです。研修前に面識がなかったお茶大生とも仲良くなりました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

ホームステイ先は女性一人と犬一人という家庭でした。当然家には数々のルールがあり、9 時までシャワーを浴びる、8 時以降は食事の禁止、洗面台で髪を乾かしてはいけない等のルールが週ごとに追加されました。またホストマザーが環境問題に関心が高い方だったので野菜の保存にプラスチックのラップを使おうとすると怒られました。他のホームステイ先でも同じようなルールがあったので特別厳しいわけではないです。実際、カモーンカレッジの先生に相談すると、ホストマザーは良い人だから大丈夫との返信が来ました。ですが、ホームシックやカルチャーショックも相まって、時々辛くなりバスや公道で号泣しました。私の場合、似た境遇の友人と悩みを共有することで乗り越えました。

休日はホストマザーと観光名所に出かけたり、友人とバンクーバーへ小旅行に出かけたり、楽しく過ごしました。

#### 研修プログラムを通して学んだこと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回、多くの人に助けられました。ホームシックやカルチャーショックで悩んでいる時、家族や友人に何度も相談に乗ってもらいました。レンタルしたSIMカードが使えず困っていたら、ホストマザーがスマートフォンを貸してくれました。多くの場面で、多くの人にお世話になりました。海外か日本かということをお問はず、他者の助けというものには有難いものですが、今回不慣れな海外生活と言うこともあり、本当に有難いということが身に沁みました。

また、私は人見知りで、基本的に足踏みしてしまうことが多いのですが、今回の留学をきっかけに新しいことに挑戦することのハードルが下がりました。自分の足で、知らない場所に行くのはとても勇気のいることですが意外と大丈夫です。助けを求めれば、親身になってくれる人は意外と多数派です。これからの大学生活はあと2年半残っていますが、悔いがないよう学び、まだチャレンジしていないことに挑戦したいと思います。

以上

## カモーンソンカレッジでの学び

生活科学部 食物栄養学科

2年 畠田 翔子

### 研修に参加した動機

英語が昔から好きな科目でずっと使ってみたいと思っていたので、今回は腕試しのつもりでこの研修に参加した。日本ででの学習の成果を使って、どれほど海外で通用するのか、何が足りないのかということを知りたいと思っていた。

### 事前に準備したこと

語学力向上のためにやったことは二つある。私は塾で英語の講師をしているのでその予習復習に力を入れたこと、そして Ocha Tandem に参加したことである。Ocha Tandem のほうは、学内で英語を話す練習や異文化交流ができるのでおすすめだ。

生活面では、カナダ西部に特化した地球の歩き方を買って、気温や現地の文化などの基本的な情報を頭に入れるようにした。ガイドブックによれば、半そでではなく長袖を持っていくように書いてあったので、ダウンコートと厚いパーカー、長袖を一枚ずつ持参した。現地では、寒さをどうしのぐかということのみに頭を使うほど寒かったのでこれは非常に役に立った。

### 研修プログラムの内容(授業について)

お茶大生 12 人だけの非常に小さいクラスだった。授業での使用言語は基本的に英語で、先生に質問はしやすい雰囲気である。お茶大の ACT を想像してもらえとしくりくると思う。ただ、休み時間も英語で話していると先生と英語で話せることがあるので、なるべく休み時間も英語を話すようにしていた。

授業の内容は、新しく知った語彙を教えあったり、英語の歌の歌詞について考えたりと様々な種類があった。プレゼンテーションは、おもしろいと思った英語の動画を共有するもの、自身のキャリアを視野に入れて自分の能力を考察するもの、最終プレゼンテーションの 3 種類あった。どれも授業内でスライドを作る時間が与えられるため、家での準備はそれほど大変ではない。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

午前中は英語の授業、午後は課外活動という日が多い。午後のアクティビティには 2~3 人の学生ボランティアの人がついてくれて、観光名所や博物館、マリンスポーツなどを行った。ボランティアの人は固定ではなく、アジア系を中心として様々な国籍の人がいた。ボランティアの人数は、お茶大生に比べると非常に少ないので、自分から英語を話そうという積極性がないと話す機会を失う。私は、ボランティアの人の近くについて話題に入れるように努力し、日本人同士であっても英語で会

話するように気を付けていた。なまりが強い英語を聞き取るのに苦労したこともあったが、ボランティアの人は何回も同じことを言ってくれたり辛抱強く待ってくれたりするので、基本的には会話できた。英語で話していくにつれて、だんだん英語の引き出しが増えて会話が続くようになっていくのを実感したのはとても良い経験だった。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

私はベトナム系カナダ人の家にホームステイをした。家族構成は夫婦と男兄弟二人。ホストファミリーは非常にやさしくしてくれて、自分の部屋も用意されていた。洗濯は週 2 回で、自分の部屋とトイレの掃除、朝昼の食事の用意は自分でしていた。夕食は家族全員でとり、後片付けには毎回参加していた。食洗器にお皿をつめていると、ホストファミリー(主にホストマザー)が話しかけてくれることが多いのでうれしかった。ホストファミリーが忙しそうにしているのを見たら、何か手伝えることはありますかと聞くようにしていた。

3 回ほど日本食(カレー、すし、うどん、フレンチトースト、オムライス)を作ってふるまったのを喜んでもらえたのはうれしかった。特に、カリフォルニアロールは子どもたちに人気があった。フレンチトーストを知らないようだったので、日本食に抵抗がある家にホームステイしたらおすすめかもしれない。

ビクトリアでの交通手段は基本的にバスなのだが、このバスが遅れたり早く来たり来なかったりして困ることがあった。家から学校までがうまくいっても 1 時間 20 分くらいかかり遠かったので、乗り継ぎが悪くともっとかかることもあった。日没後は人がいなくなるので治安の面を考えて夜は外に出ないようにしていた。

私のホストファミリーはキャンプが好きだったので、ソルトスプリングアイランドとトフィーノの二か所に連れて行ってくれた。どちらも夜は非常に冷え込んだので、ダウンジャケットとカイロを持ってきて本当に良かったと思った。ほかにも、週末は友達とブッチャードガーデンに行ったり映画を見たり、ダウンタウンに行ったりして遊んだ。バンクーバーに一泊で旅行したのもいい思い出である。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

英会話と異文化交流がぎっしり詰まった非常に濃い意味のある 1 か月であった。日本にいたときは、自分の英語力がどれくらいのものか、海外で通用するのかといった不安があり自信を持てなかったのだが、この研修を通して大きく自信をつけることができた。今までは日本語を話す仕事だけを進路に考えていたが、もっと英語を勉強して世界のいろいろな国の人とかかわる仕事をしていきたいと思えるようになった。今後も、日本でできる国際交流や英語学習を続けて、世界に広がりを持つ人間になりたい。

以上

## 2023 年短期留学報告書

生活科学部 心理学科

2 年 木下 恵琳

### 研修に参加した動機

私がこの研修に参加した理由は 2 つあります。1 つ目は大学生のうちどこかで海外留学を経験したかったからです。留学をできるのは時間のある大学生だけだと思います。仕事を中断させ留学に行くこともできますが、私の性格からしてそこまでの行動力はないと思ったので学生のうちに行きたいとずっと思っていました。しかし、何か行動するわけでもなく、過ごしているうちに大学 1 年は終わり、大学院に進まない場合海外留学に行けるのは、現在の 2 年か 4 年のどちらかになると思い焦って留学センターに相談に行きました。そこで、短期留学の説明会があることを知り参加しました。留学に少しでも興味があるけどまだ行動できてないと思っている人は留学センターに行って相談してみるのが初めのいいと思います。2 つ目は、単位認定があるからです。留学に行くにあたり、別に大学からのプログラムでなくてもいいなと思っていましたが、カモーンカレッジの留学のプログラムは単位認定がされるため、このプログラムに参加することを決めました。

### 事前に準備したこと

事前に準備した事も 3 つに分けて説明します。まず 1 つ目は書類関連です。パスポートの用意や保険、SIM カードの契約、海外で何かあったときに対応してくれるサービスの契約等を行いました。これらは全てお茶の水大学での短期留学説明会で説明してもらうことができるので、説明会に参加すれば、そこまで難しい作業ではないと思います。2 つ目は持って行く物の荷物の準備についてです。洋服等は週に何回洗濯ができるかをホストファミリーにメールで確認して必要な分だけを持っていきます。私のホームステイ先では、週に 1 回の洗濯でした。ホームステイ先に、私が使った良いシャンプーやボディーソープは置いてなかったので、もっていくかメールで確認することをおすすめします。もちろん現地で買うこともできますが、肌荒れなどが心配なら持って行ったほうがいいと思います。また、すごく日差しが強いので、日焼け止めやサングラスも持って行ったほうがいいです。私は日焼け止めが足りなくなり、現地で購入しましたが、肌に合わずあまり使うことができませんでした。3 つ目は英語の勉強面です。留学までにせめて日常会話はできるようになろうと思い、本屋で日常会話に特化した本を買いましたが、テストやレポートが忙しい時期で事前に読むことはできませんでした。私のように英語が苦手な留学先での英語に不安を持っている人は多いと思いますが、拙い英語でも聞き取ってくれ、理解しようとしてくれるので、どちらかと言えばリスニングに力を入れて勉強するべきだったと感じました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業はお茶大生 12 人と現地の大学の先生が 1 人という集団授業の形で行われました。日常で知った新しい単語の意味を共有したり、洋楽を聴きその意味を考えたり、興味がある英語の記事を読みそれを共有するなどがありました。プレゼンテーションなども何回もあり、英語に苦手意識を持つ私にとっては少し、抵抗がありました。英語での生活を続けているうちにファイナルプレゼンテーションでは初めの方ほど抵抗感は薄れていました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

課外活動は基本的に午前中英語の授業を受けたあと、カモーンカレッジに通う現地生のボランティアの人に付き添ってもらいビクトリアの街を巡ったり、ハイキングをしたり、先住民の文化を学んだりしました。課外活動はほぼ毎日あったので、すごくたくさんの経験をすることができました。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

カナダの留学先での 1 ヶ月の生活はホームステイでした。ホームステイの良い点はホームステイ先の家族と話すことで、より日常で使う英語を学ぶことができる点、一方悪い点もあると思います。それは、ホームステイ先によって留学生の生活が大きく異なってしまいます。寮の生活などは同じプログラムに参加する全員が同じ寮に住み同じ生活をします。しかし、ホームステイは毎週の週末どこかに連れて行ってもらえる人もいれば、そのようなことが全くない人もいます。このようにホームステイ先の当たり外れが大きいと感じました。私のホームステイ先は同じ学科の友人と同じで、週末などは 2 人で出掛けました。ご飯は美味しかったが、ホストファミリーは女性 1 人で、ご飯の時以外は、あまり一緒に時間を過ごすことはなく各自部屋で何かをしている感じでした。1 度ケーキを作りたいと言った時は一緒に作ってくれたので、もっと一緒に時間を過ごして英語力を上げたいという気持ちが強ければ、それを言う方が良いと思います。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私は、留学を通して苦手なことにチャレンジするチャレンジ精神を養うことができたと感じます。私は心配症で、苦手意識があることだけでなく、少しでも不安なことがあるとチャレンジしない性格でした。しかし、今回の留学先では苦手な英語を 1 ヶ月話さなくてはいけない上に慣れない環境に飛び込むのはすごく勇気が必要でした。留学を終えて、不安なことがあっても努力すればなんとかなると思えるようになりました。この経験を踏まえて、私は不安だから、苦手だから、という理由でやりたいこと、興味を持ったことに挑戦しない選択をするという考えを変えることができました。この留学を通じた考え方の変化は私のこれからの人生において大きな影響を与える出来事をもたらしてくれると思います。

以上

## カモーンカレッジでの研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 楡木 あかり

### 研修に参加した動機

私が所属している学部の影響もありますが、元々海外での学習に興味を持っていました。夏季短期派遣プログラムについての説明会で、1か月という比較的短い期間の海外での学習プログラムへの参加が可能なることを知って、参加を決めました。ホームステイをできるというのが、この研修における私にとって最も大きな魅力でした。研修に参加するための書類の提出期限が、説明会が開催されたその日の夕方、参加を決断するまでに時間がありませんでした。費用や自分の英語の能力など様々な懸念点がありましたが、ここで決断しなければ絶対に後悔すると考えて参加を決めました。正直に言うと、もし、書類の締め切りがもう少し後で考える時間がもっとあったら参加を見送っていたかもしれなかったです。その点では、自ら決断するという個人的な能力の成長にもつながったと感じます。

### 事前に準備したこと

研修にあたっての準備は、大きく分けて 3 つです。1 つ目は、書類の準備です。パスポートの期限が切れていたのを更新したり、海外保険に加入したり、海外にいても問題に対応してくれるサポートシステムに加入したりしました。これらの手続きは、ほとんど全て事前の研修で説明があるので、難しい作業ではなかったです。また、クレジットカードの上限を上げるといった時間のかかるような手続きは、余裕をもって進めるべきだと思います。2 つ目は、持ち物です。必要なものがどんどん増えていくので、早い段階から持ち物のリストを作っておくとおススメです。現地でも買えるものがほとんどですが、使い慣れた物を持っていくのも、生活に早く慣れるポイントの 1 つだと思います。3 つ目は、課題です。出国直前まで授業やテスト、レポートに追われるので、全ての課題を提出してから出発することはできませんでしたが、できる限り終わらせる努力をするべきだと実感しました。1 か月あるから現地でやろうというスタンスでいるのはあまり良くないです。実際、私を含めて何人かは現地でギリギリまでレポートに悩まされていました。最後に、英語の勉強について気になる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はやろうやろうと思って、何もせずに出発の日を迎えてしまいました。研修を終えてみて、事前に学習しておくに越したことはありませんが、私はあまりその部分で悩む必要はないのではないかと思います。

### 研修プログラムの内容(授業について)

到着して次の日から授業がスタートしました。授業は一緒に行ったお茶大生 12 人と現地の学校



の先生 1 人で行われました。新しく学んだ語彙やインターネット上で見つけた興味のある英語の記事について紹介したり、洋楽の歌詞について考えたりしました。学習したことをその場で使ってみるのが身に付くための最適な方法であるというのが先生の考え方で、学んだ時制で英作文を書くこともしました。最後に全員の前でプレゼンテーションをする機会が設けられ、パワーポイントのスライドを活用して 5 分ほどのプレゼンテーションをしました。内容を伝えるための話し方をするのはもちろん、質問にその場で答える必要がありました。予想していなかった質問もあり、即興で考えて英語で答えることはとても難しく感じましたが、あまりそのような機会がなかったので、私にとってスピーキングの学習という面で良い経験になりました。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

課外活動では、1 か月という短い期間であったとは信じられないくらいたくさんの活動をさせていただきました。課外活動がある日は、基本的に午前中に英語の授業を受け、午後から様々な場所に出かけるというスケジュールでした。ほとんど毎日何かしら課外活動で様々な場所に出かけたので、それもこの研修を楽しめた要因の 1 つであると思います。景色の良い丘を登ったり、博物館を見学したり、街を巡ったりする観光メインの活動もあれば、カナダの先住民族の方々に直接話を聞いたり、ローカル企業を訪問したり、イノベーションについて学んだりするワークショップにもたくさん参加したりしました。課外活動を通して、1 か月滞在したビクトリアがどんな場所かについてはもちろん、さらに将来のキャリアについても考えるきっかけになりました。どの活動にもボランティアの生徒や職員の方が同行してくれたので、安心かつスムーズに進みました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

学校から支給された学生証を使えば、平日休日問わず大体どこでもバスが自由に使えたので、それがありがたかったです。交通費のことを考えず放課後や休日に遊びに行くことができたので便利でした。しかし、路線によっては本数が多くなかったり、時間通りに来なかったりするので時間に丁度良いバスが見つかることはそこまで多くなかったです。休日は一緒に研修に参加したお茶大生と観光をしたり、ホストファミリーに様々な場所に連れて行ってもらったりして過ごしました。素敵なホストファミリーに恵まれたこともあり、生活の中で特に困ったことはなかったです。ホストファミリーは料理がすごく好きだったので、ギリシャやベトナム、イタリア、他にもたくさんの国の料理を作ってくれました。夜ご飯の準備を家族全員でやって、全員でご飯を食べるという習慣がある家庭だったので、私も日々その一員になることができました。逆に日本料理を振る舞ったときには喜んで食べてくれました。ちなみに、肉じゃが、オムライス、ラーメンを作りました。日本の食材や調味料などが売っている店があったり、スーパーにも日本のものが売っていたりするので、比較的材料は揃いやすかったです。ホームステイをしてみてよかったことの 1 つは、日常生活の中での自然な英語を学ぶことができた点です。日本にいるとあまり聞かない単語や使い方があって、私にとって大きな学びでした。分からない単語は、ホストファミリーがいつも分かりやすく言い換えてくれたり、画像を見せてく

れたりしました。滞在の最後の方になってくると、永遠にステイしてほしいとか、次はいつここに戻ってくるのかとか、そのような言葉を毎日かけてくれました。家族も夏休み中だったので、他の親戚の人に会いに行っていたり、家族の誰かしらが家にいない期間があったりして、もっと家族と一緒に過ごせる時間があったらなとも思いましたが、1 か月という短い期間だったのに、そこまで深い愛情を注いでくれたことが何よりも嬉しかったです。

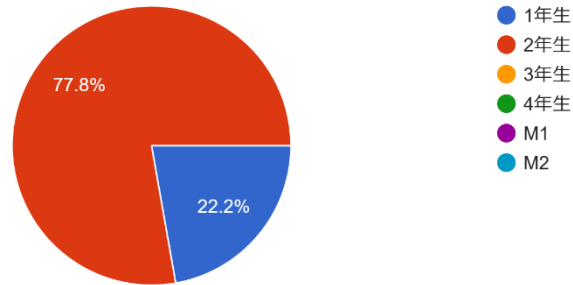
#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修を通して、伝えようという気持ちがあれば言語が拙かったり間違っていたりしても伝わるということを改めて学びました。1 回では言いたいことが伝わらなかったり、間違っただけで解釈されてしまったりすることも多かったですが、それでもその場で流してしまうのではなく、伝えたいことを伝えられるように努力しました。日常生活の中で英語を話すことへの抵抗感が少なくなったことが大きな収穫であると感じています。将来のキャリアについてもこの研修期間に少し考え始めることができ、自分のはっきりとした道は決まっていなかったものの、今回の研修を通して、何らかの形で英語や海外とのつながりのある職業に就くことを 1 つの目標にしようと考えようになりました。海外で 1 か月間過ごしたことで、自分の中で自信になったし、忘れられない、充実した 1 か月であったと胸を張って言える経験になりました。今後、夏季短期派遣プログラムへの参加を考えている人がいたら、是非カナダのカモーンカレッジでの研修に参加してみしてほしいと思います。

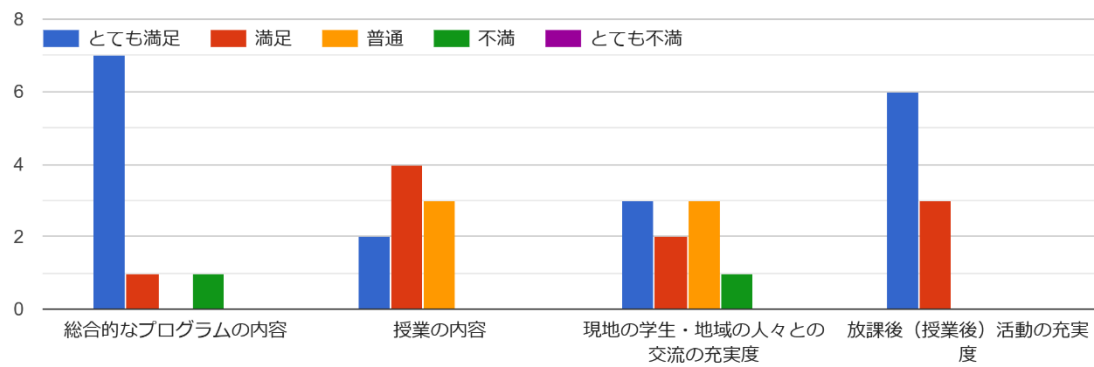
以上

### 研修参加時の学年

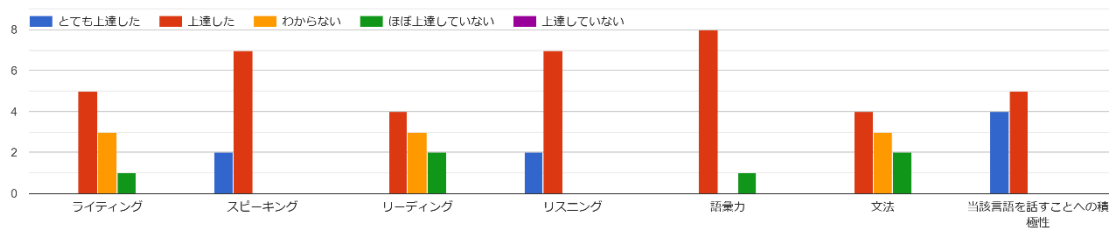
9件の回答



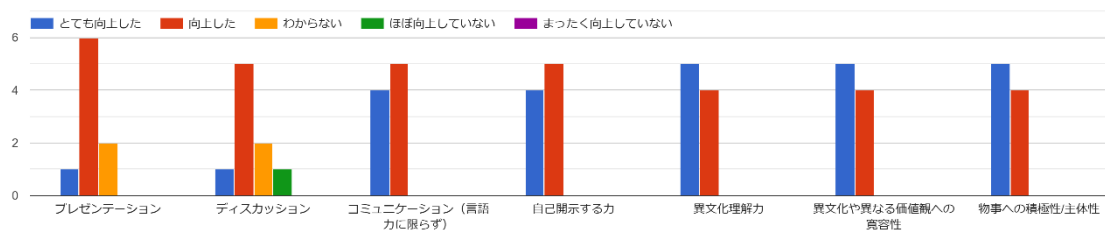
### 参加したプログラムの満足度について



### 海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・放課後のアクティビティが充実していたことです。
- ・英語の授業がとても実践的であったことや、多様なワークショップに参加できたことに加えて、午後にアクティビティがたくさんあったことでカナダの文化をたくさん経験できたことです。また、ホームステイであったことで現地の人の生活や文化をより身近に感じる事ができたのもとても良かったです。
- ・多くのボランティアがいたこと。ホームステイだったこと
- ・他学生と話す機会がしっかり設けられていた点、少人数制だった点。
- ・ボランティアの方々が積極的に話しかけてくれるので英語で話す機会がまあまあある点。
- ・アットホームな授業で気楽に受けられた点。アクティビティが充実していた点。

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください

- ・少人数であること。毎日英語の授業がある点。
- ・発音や語彙、イントネーション、リズムなどに焦点を当てていてそれらがスピーキング力の向上に役立っていたように感じました。また、英語の資料を読んでそれをまとめて小グループで話すことで読み、理解、話す力が求められるのでとても良かったです。さらに、You Tube Exchange という課題があったのですが、動画や記事を見てまとめて発表するというもので動画を選ぶことで必ずリスニングをしなくてはならないのでそのような課題を通じて英語を聞く機会を確実に増やすことができたのはとても良かったです。
- ・生徒主体の授業となっていた
- ・先生がネイティブなところ
- ・発言回数が多い。生徒が発言しやすい雰囲気が先生によって作られている。
- ・あまり違わない。
- ・英語で話す機会が日本の授業よりも圧倒的に多いのと、みんな話しに来ているので恥ずかしさがなかった。上手く言えなくても先生が汲んでくれたり、良い環境だった。また、日本の授業では帰国子女の方がいると先生もその子に積極的に話しかける上に、こちらも緊張してしまうのだが、今

回のプログラムは同じようなレベルの人が集まっていて話しやすかった。

- ・会話の機会が多い。
- ・スピーキング、コミュニケーションが充実しているところ。

語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください

- ・目的意識を持つ
- ・ホームステイの場合は日常生活における語彙力を持っておくと良いと思いました。
- ・スピーキングを鍛えた方がいいと思います
- ・自分の大学で学んでいることを英語で説明できるようにする。
- ・聞き慣れるために、ラジオとかドラマを聞き流す。
- ・日常の会話
- ・リスニング力、単語力

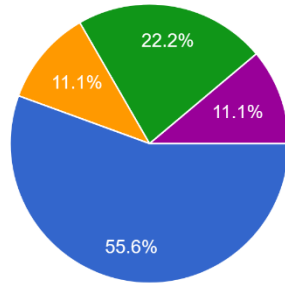
渡航先に持って行った方がいいものを教えてください

- ・厚着、英語のやる気、イヤホン、USB
- ・カナダ(BC)の場合夏でもかなり寒いのでヒートテックなど冬に近い服装をした方が絶対いいです。
- ・ハンガーと洗濯バサミ
- ・ドライヤー、厚手の服
- ・日本の薬。風邪の引き始めに効く薬を持っていったので、少し体調が悪くなったらすぐに飲むようにしていた。
- ・お米、味噌汁(ドライ)
- ・寒かったので分厚めのパーカー
- ・折りたたみ傘、トレーナー(寒い時があるから)

渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください

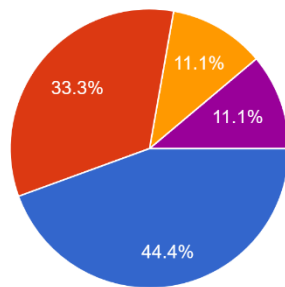
- ・大学の募集要項
- ・留学した友達に聞いた
- ・インスタ、ネット、世界の歩き方
- ・インターネットのブログなど
- ・外務省、ホームステイ先とのやりとり
- ・ネット。事前研修。

ホームステイ先の家族構成を教えてください  
9件の回答



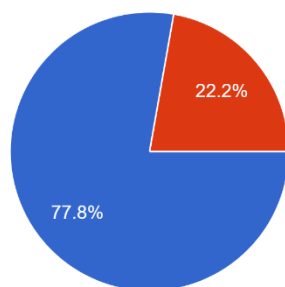
- Single Female
- Single Mom + Children
- Couple no Child
- Couple + Children
- Coupleで子供はいましたが、もう大人でたまに会ってました。

ホームステイの満足度について  
9件の回答



- とても満足
- 満足
- 普通
- やや不満
- とても不満

ホームステイ先周辺の安全について  
9件の回答



- とても安全である
- 安全である
- 普通
- 安全ではない
- 全く安全ではない

#### ホームステイでよかったこと

- ・その国の食事を知れる、ホストファミリーと仲良くなれる。
- ・ずっと英語を話さなくてはいけない環境に身を置けることと日常生活における英語力が身についたことです。また、休日などにいろいろなところに連れて行ってくれるので、現地の人が実際にしている生活を体験することができ、文化を学ぶことができたところです。
- ・スピーキングの機会が増えた
- ・とてもホームステイ先の方が親切でした。そして、家の場所も最高でした。
- ・ご飯が美味しい。ダウンタウンに近い。
- ・ホームステイ先を何個か移動したのですが、最後のところはたくさん食べ物も飲み物も出してくれて優しかった。学校から帰ってきてもらってたくさん英語を話すことができて良かった。
- ・放課後も英語を話す機会があった点。研修が終わっても関係性を続けられるコネクトができたこと。

#### ホームステイで不便だったこと

- ・部屋の電気が暗いこと
- ・ホストファミリーの寝る時間が早く、それに合わせる必要がある

#### 「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・丁寧、電車が発達している、ビルばかり
- ・交通の便がとても便利だと思いました。電車がなくバスのみだったのですが、本数も少なく、時間通りに来なかったり、バス停にもバス停名や行き先の看板がなかったり、バス内での次のバス停名のアナウンスがなかったりと交通面において不便なことが多く日本の便利さに気が付きました。
- ・几帳面で時間に対してきっちりしている
- ・日本は何人なのかの言う点において寛容ではないと思いました。
- ・日本人は礼儀正しいと言われるが、それは自分に関係する人にものみであると感じた。カナダではバスを降りる際に全員が感謝をバスの運転手に伝えていた。
- ・日本ではコミュニケーションをする機会が圧倒的に少ないと思いました。それは相手の言いたいことを察する能力が求められやすく、なおかつ知り合い以外には友好的な態度を示さないのが一般的だからだと考えます。
- ・交通機関が時間通りに来る。
- ・安全で暮らしやすい。丁寧。「察する」という文化。
- ・日本の移民の少なさ

#### 「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・いろいろな国出身の人がいる、車社会
- ・とても寛大な人が多く社交的な人が多いように感じました。近所の人との人付き合いや道中で出

会った他人とでも会話しているところなどです。また、特に印象的だったのは終点まで 40 分かかるバスに乗っていた時運転手が乗客に近くに座っている人と 3 つ会話をするゲームをしようと提案したことがあってそのこと自体衝撃だったのに加え、実際にそのゲームに参加している人がかなりいたことが驚きでした。個人主義と人付き合いが必ずしも比例していないことを実感しました。

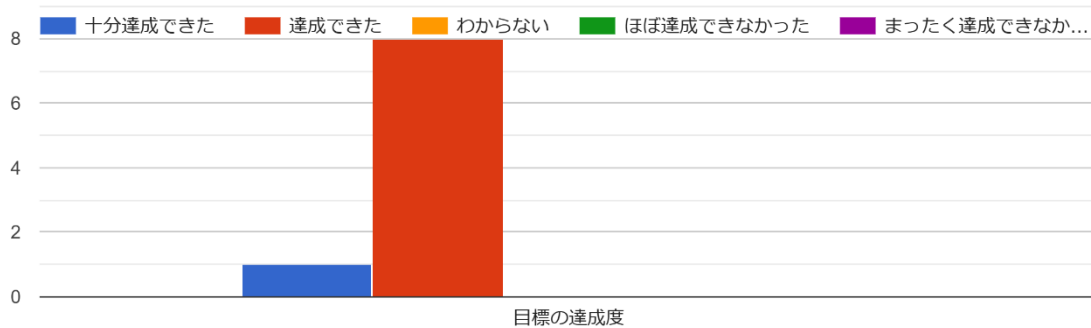
- ・非常に異文化に対して寛容で暮らしやすい
- ・みんな親切で、留学生だと伝えると、ゆっくり話してくれます。
- ・ダウンタウンなどにゴミ箱が多い。ゴミの分別が徹底している。
- ・カナダでは、知り合いでなくても短い会話を交わすことが多く、他者へのよそよそしさが日本よりないことに気づきました。例えば店員が客の気分を尋ねたり、ホストマザーがスーパーマーケットや観光地で見ず知らずのひとと友人のように会話していました。
- ・みんなオープンで優しかった。
- ・国の多様性だけでなくジェンダーや障がいに関しても多様性が当たり前のこととして受け入れられている。
- ・移民の多さ、多様性

「自分」(コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など)について気づいたことを教えてください。

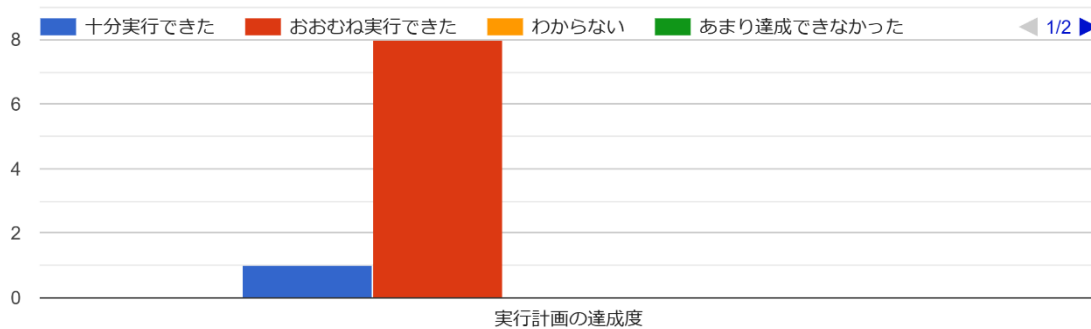
- ・異文化理解力はかなり高い方のような気がしました。異なることへの適応力が高く新しいことや自分の常識や理解とは異なることにぶつかってもそれを受け入れることができました。
- ・誰かがやらなくてはならないことに対して、積極的に自分から行動を起こせるタイプの人間だということに気づいた
- ・私はなんでもチャレンジしてみたいと思う人なので、カナダの雰囲気合っていると思いました。
- ・自分の行動を選択する際に他者の目を気にしなくなった。
- ・他者に対してあまりにも自分の考えや思いを察して欲しいという配慮を無意識に期待していたということに気づきました。
- ・英語を話すのは楽しかったが、どう伝えればいいのか難しいものもあり、語彙力のなさを感じた。海外でもここまで治安がいいところがあるのだと驚いた。
- ・やろうと思えば積極的な発言や行動ができる。
- ・他の国でもあまり不安ではなかったこと



海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



今回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・海外での暮らしをしいたことです。
- ・多文化がどういうことなのか、異文化理解とはどういうことなのかを理解することができたことは私の中でとても大きかったです。これらのことを理解できたことで文化そのものへの興味がさらに膨らみました。また、私の個人的な目標として英米語の違いを文化の面から考察することがあるのですが、それをするのに十分なだけの双方の文化への理解、知識がないことに気が付くことができたことも大きく、大学生活でよりこれらの知識を増やすことができたらと思いました。
- ・英語が完全で完璧に喋ることができなかったとしても、相手のことを理解しようと言う気持ちを持って話せば伝わること

- ・沢山のひととお話したこと、会社見学
- ・自分の苦手分野に飛び込む行動力は今後の人生に活かせると感じた。
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・海外で働くという考えが曖昧だったが、選択肢として考えられるようになった。バスしか使えなかったのも、自分で調べて知らない場所に行く力が身についた。
- ・即興で英語を話す力。伝えようとする気持ちの重要性。
- ・プレゼンテーション力



# McGill



## マギル大学（カナダ）

研修期間：2023年8月7日～8月25日（3週間）

滞 在：大学寮

研修内容：英語研修、カナダ文化学習

**Week 1 – August 6 to 12**

Time	Sunday – 6	Monday – 7	Tuesday – 8	Wednesday – 9	Thursday – 10	Friday – 11	Saturday - 12
8:00 – 9:00	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	
9:30 – 11:30	Arrive on Saturday, August 5  Settle in at EVO  Get OPUS card (metro passes)  Get Blue Cross Health Insurance Card	<b>Welcome Orientation</b> On Campus – Rm 1041&1047  Morning Class	<b>Morning Class</b>	<b>Morning Class</b>  Canadian Animals	<b>Morning Class</b>  Biodome Task	<b>Morning Class</b>  Mini Presentations – Canadian Animals	Ottawa Day Trip 7:00 AM Departure  Parliament Hill & Walkabout   Byward Market Lunch Canadian Museum of History   Dinner at EVO
11:30 – 1:00		Lunch & Free Time	Lunch & Free Time	Lunch – Montreal Bagels 	Lunch & Free Time	Lunch & Free Time	
1:00 – 4:00		Get student ID card <b>Outing McGill Campus</b> tour 	<b>Outing Mount Royal</b>  	<b>Classroom Pronunciation Clinic</b> 1:00-3:00    3:00-4:00 <b>Monitor's Choice</b>	<b>Outing Biodome</b>  	<b>Outing Old Montreal</b> Notre-Dame Basilica  	
4:00 – 6:00		Free Time	Free Time	Free Time	Free Time	Free Time	
Evening Activities (optional and may require extra fees)		Dinner Free Time	Dinner Evening Activity TBA	Dinner Free Time	Dinner Evening Activity <b>Bowling</b> 	Dinner Free Time	
				Free Time Evening Activity <b>Fire works</b> 			

**Week 2 – August 13 to 19**

Time	Sunday - 13	Monday – 14	Tuesday – 15	Wednesday – 16	Thursday – 17	Friday – 18	Saturday - 19	
8:00 – 9:00		Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	
9:30 – 11:30	<b>FREE DAY</b>	<b>Morning Class</b>	<b>Morning Class</b>	<b>Morning Class</b>	<b>Morning Class</b>	<b>Morning Class</b>  Survey for Student Choice Options	Quebec City Day Trip 7:00 AM Departure    Parc Des Chutes Lunch  Upper and Lower Town     Dinner at EVO	
11:30 – 1:00		Lunch	Lunch	Lunch – Montreal Smoked Meat 	Lunch	Lunch		
1:00 – 4:00		Activity <b>Amazing Race</b> 	<b>Outing Jean-Talon Market</b>  	<b>Classroom Pronunciation Clinic</b> 1:00-3:00    3:00-4:00 <b>Monitor's Choice</b>	<b>Outing Old Port Boat Tour</b>  	<b>Outing Murals /Plateau / Mile End Discovery</b>  		
4:00 – 6:00		Free Time	Free Time	Free Time	Free Time	Free Time		Poutine in the Park Dinner 
Evening Activities (optional and may require extra fees)		Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner		Free Time
	Free time	Evening Activity <b>Movie night</b> 	Free Time	Free Time	Evening Activity <b>Laser Quest</b> 	Free Time	Bowling but I absent	



## マギル大学での 3 週間

文教育学部 人文科学科

2 年 石倉 日花里

### 研修に参加した動機

日本での生活では日常的にはあまり英語を話す機会がないと感じていたので一度、英語を話すしかない空間に入ってみたいと思い、自分の英語力を試すため、特に英語を話したり聞いたりする能力を身につけるために参加した。より実践的な本場の英語に触れたいと考えた。また、普段日本で普通に生活しているだけでは世界の多様な文化や考え方などに触れることがあまりできないと感じていたので広い世界の文化や自然を実際に目で見て知り、感じて、自分の視野を広げたいと思い参加した。授業などで日本は世界と比べて何が遅れているというような話をよく聞いていたので、日本と他国と具体的にどんなところが違うのか知りたいと考えた。

### 事前に準備したこと

飛行機のチケットの手配や、乗り継ぎのためのアメリカへの入国とカナダ入国のためのオンライン手続きをした。SIM カードやスーツケースのレンタルもした。また、マギル大学から送られてきたオンラインのクラス分けテストを受けた。勉強面では、耳を慣らすために英語のポッドキャストなどを時間のあるときに少しだけ聞いておいた。現地でプログラムに集中できるようにお茶大の前期の授業の最終レポートの課題などは、出発より前に頑張って終わらせておいた。レポートに時間をとられていたので、行きたい場所を調べる、英語の勉強などの事前準備はあまり出来なかった。

### 研修プログラムの内容(授業について)

午前中に 2 時間授業があった。カナダの食べ物や動物について、宗教、歴史についてなどを学んだ。先生の話聞くよりも会話やディスカッション形式で学ぶことが多く、他の参加者と 1 対 1 や 3~5 人のグループで話す機会が多かった。スピーキングやリスニングに重点が置かれていて、文法やライティングについてはほとんどやらなかった。最後の週には、2 回ほど担当の先生が呼んだゲストがいらっやっって移民の経験について、カナダの差別の歴史などの話を聞いた。一週間に 2 回ほど 2 分間くらいの短いスピーチを録音して提出する課題があった。毎週水曜日には午後に発音の授業があり、日本人には難しいとされる発音の特訓もしてもらった。一人一人の発音を確認する時間があり、先生に見てもらえた。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

午後は課外活動の時間で、旧市街やノートルダム大聖堂、マーケットなどの主要な観光地に出かけた。6 人くらいで 1 グループになって現地の大学の方(モニター)が 1 人ついて案内してくれた。

モニターさんは行きたいところや、やりたいことの希望をよく聞いてくれて親切だった。ガーデンや教会などのいくつかの選択肢の中から自分が行きたい所を選べる日も何日かあったが、希望者の人数に偏りがあって人数の多いときはほとんどモニターの方とは話せなかった。夕食のあとも希望者は花火を見に行ったりボウリングに行ったりする活動に連れて行ってもらった。課外活動の時間が長いので毎日たくさん歩き回ったが一日一日が充実していた。土曜日には参加者全員でオタワとケベックシティにバスで一日出かけて観光した。自由時間が割と長く、好きに見て回れた。大学のあるモンリオールとは建物の雰囲気が違ったりして興味深かった。日曜日は丸一日何をしても良い日で、主におみやげを買いに行った。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

寮に滞在した。寮から大学までは歩いて 20 分強くらいだった。寮から大学までほぼ真っ直ぐ進めば着いたので道に迷うことがなくて良かった。食事は朝食と夕食はプログラムに入っていて寮で食べられた。昼食は自由で、大学の近くの飲食店で食べた。Google マップで様々な店を調べたのが便利だった。レートのこともあり、思っていたよりも値段が高いことが少なからずあった。朝食は 2 種類の同じメニューが繰り返し出された。夕食は美味しい日もあれば量が少ないような日もあったが、自分で食料を調達しなくて良いのは楽でありがたかった。寮の部屋は、広さはちょうど良かったが、電気が少なく夜は少し暗かった。大きいタンスが 1 人 1 個あったので衣服などを収納しておくのに良かった。2 人で 1 部屋だが、ベッドに大きい仕切りがついていたのであまり気にならなかった。風呂とトイレは部屋についていて、シャワーの温度調節が難しかった。寮の中で洗濯が出来たり、水が無料でくめたりしたのが便利だった。基本的には日本よりも涼しく過ごしやすい気候だった。急に雨が降ったり、太陽が出てきたりと天気の移り変わりが激しく、太陽が出ているときと曇っているときとで気温が違ったので上着が必要だった。体調を崩している人が多く、私は軽症だったのでよかったが、薬を持って行くなど病気への対策はしておく必要があると思った。スリなどの被害に遭っているのは見かけず、基本的には治安は良いと思った。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

聞かれていることは理解できてもそれに対して話すことが思いつかないことがあり、当たり前だが、日本語でも上手く考えられないようなことは英語でも話せないと感じた。様々なことに対する自分の知識を増やしたり、意見を考えてみたりしてまずは日本語でも自分の考えを上手に、早くまとめられるように学んでいきたい。また、話したり聞いたり実際に使ってみることで語学は上達すると感じたので、教科書などで学ぶだけでなく実際に声に出して実践することが重要だと考えた。語学以外のことで頭の中だけで分かった気になったり出来た気になったりすることなく、学んだことを実行してみることを大切にしたい。モンリオールでは、英語とフランス語の両方が使われているなど様々なバックグラウンドを持つ人々が受け入れられながら暮らしているように感じた。日本では日本人、日本語というのが大多数で、そうではない人は目立つように感じる。そうした生活環境が多様性に対

する制度の遅れなどに繋がっているのではないかと考えた。これからの生活では文化、言語など様々な違いを気にしすぎず、宗教など配慮の必要な所は気にしながら、様々な人を受け入れて、人々と交流していきたいと思う。このプログラムを通して、実際に3週間海外で生活することで自分の様々な能力と向き合えたり、他の価値観を知れたりと貴重な経験が出来た。ここで見つけた自分の課題や成長をこれからの大学生活やその後に活かしていきたい。

以上



## マギル大学短期留学成果報告書

生活科学部学部 心理学科

4年 阿部 江里子

### 研修に参加した動機

自身の英語力を上げるためと同時に英語で話すことに抵抗をなくすために参加を決意した。英語力を上げたい理由としては、英語を話すことができるようになれば、自身の将来の仕事の幅を広げることができると考えたため。また、コミュニケーションを取ることが好きなので、英語力を上げることで様々なバックグラウンドを持った方々とコミュニケーションを取りたいと考えたため。

### 事前に準備したこと

#### ・フライト

自身でのフライト手配が必要だった。アメリカ乗り継ぎの便を手配することになったが、5月の段階で席はほぼ埋まっていたので早めに取りの方が良い。

#### ・eSIM

SIMカードも便利だが、カードを変える必要のないeSIMを使用した。AiraloやThreeという会社のものを使用した。問題なく使えた。

#### ・esta/etaの取得

#### ・語学面

TOEICの点数を800点まであげた。日常生活で使えるフレーズに関する本を読み、フレーズをできるだけ頭に入れた。

### 研修プログラムの内容(授業について)

月曜から金曜の9時半から11時半まで、授業があった。第一週はカナダの動物や食べ物や午後に訪れる場所の事前学習のような授業が多かったが、二週目三週目は自国の宗教や文化や政治、カナダの歴史に関して様々な人とディスカッションをして自身の意見を言う場面が多かった。授業最終日にグループでプレゼンテーションがあった。週に二、三回カナダでの生活や週末何をしたかを話すスピーキング形式の課題があった。また、授業内容や課題はクラスごとによりかなり違うようだったため、一概には言えない。このプログラムには日本人・メキシコ人・中国人・韓国人が参加していたため、クラスにいる間の会話は日本人同士であっても必ず英語で、と注意された。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

授業が終わり、一時間の昼休憩を挟んだ後、モントリオール内の様々な場所にグループ(6人程度)ごとに出かける。グループには一人のCP(Conversation Partner)がつき、英語で会話をするこ

とが求められる。また、ただの外出ではなくオリエンテーリング形式のものなどが用意されていた。交通系 IC が配られ、それを使い地下鉄で移動をすることもある。一日休みの際は、全体でオタワやケベックシティに遠出する。日曜日は完全にフリー。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在先であるモントリオールの EVO は学生寮であり、二名一室だったがプライバシーに配慮された形になっており、安心できた。ほとんどホテルのようなものであり、週に一回清掃が入った。ビュッフェ形式の朝晩の食事がついており、大学からは徒歩 20 分程度。キッチンもついており、そこで調理や洗い物ができる。洗濯部屋は混み、壊れている機械が多かった。アプリで支払いを済ませる形だった。寮の近くにはスーパーがあるのでそこで様々なものが調達できる。日常生活で英語を使うことが必須なので、日常で使える英語を気になればその都度調べて、使ってみることが楽しかった。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムはただ英語力を上げるだけでなく今一度自国や自分自身について深く考えるいい機会になった。たとえ英語が流暢に話せたとしても自分の意見がなければ意味がないということも学んだ。プログラムの初めの方は他国の友人から日本や自分について聞かれても「わからない」「なんとなく」「なんでもいい」など曖昧な答えで返すことが多かったが、それではこのプログラムの意義がないと思い、自分の意見をはっきりと持ち、それを拙い英語でも伝えようとする姿勢を見せた。コミュニケーションとは語学力だけで成り立つものではない、話をしたいという姿勢や相手の意見を受け止める気持ちも必要であると改めてわかったため、この気づきは今後何語であっても役立つと考える。また、英語を話すことに躊躇いがなくなったと考える。そして今後キャリアの中で英語を使うことがあると考えるが、その時に臆さずに話せるようになったと思う。

以上

## マギル大学 2023 年度夏季海外短期研修

理学部 化学科

1年 町田 千優

### 研修に参加した動機

かねてより留学や海外生活というものに漠然とした興味を抱いていたので、一度実際に行ってみようと思ったから。

物価高かつ円安の状況下でありながら留学を応援してくれた家族や、奨学金を支給してくださった大学に対して、改めて感謝申し上げます。

### 事前に準備したこと

- ・プログラムの申し込み, 航空券の手配 : 協定校主催のため各自で行う必要があった。いずれも 5 月中には完了した。
- ・海外旅行保険, SIM : 大学で紹介されたサービスに加入した。問題なく利用できた。
- ・服装 : 日本の夏の服装と羽織もの数枚を持参したが、不十分だった。8 月のモントリオールは、日中は 25°C 程度だが、朝晩は 15°C 程度にまで冷え込む。1 週目の週末に現地で厚手のパーカーを購入したものの、時すでに遅く、体調を崩した。また、行きも帰りも飛行機内が極寒だったので、やはり日本から厚手の上着を 1 枚持って行くべきだった。
- ・医薬品 : 多めに持って行くことを推奨したい。私は 1 週目に体調を崩し(高熱・喉の痛み)、日本から持って行った風邪薬を使い切った。現地の薬局で薬剤師に相談し、薬を追加購入したものの、自分の身体に合わなかったため、日本から持って行く薬で足りるように準備すべきだったと思う。また、自分より先に体調を崩した人に薬をあげたりしていたら後々自分が困ることになったので、各自が自己責任で十分量を持参するのが良いと思った。

### 研修プログラムの内容(授業について)

事前に受けたテストの結果により、3 つあるうちの真ん中のレベルのクラスに振り分けられた。クラスメイトの内訳は日本人 18 人、メキシコ人 5 人、中国人 2 人だった。

1 週目はカナダの動物や食べ物など簡単なトピックについてペアやグループでのディスカッションを行ったりした。プログラムが終わる頃には文化や歴史等の比較的高度なトピックについてディスカッションできるようになっていた。招かれたゲストスピーカーから貴重な体験談を聞くこともできた。

週に一度の pronunciation clinic では各言語話者の苦手な発音を踏まえてレクチャーしてくれた。メキシコ人や中国人は日本人とは別の発音に苦手意識があると知り、興味深かった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

平日の午後は、6人程度のグループに現地学生1人が付いて市内を案内してくれた。主要な観光地が網羅されているのはこのプログラムの良いところだと思った。週末は日帰り小旅行として、1週目はオタワ、2週目はケベックシティに行った。

また、夜のアクティビティも多く、スケジュール表に記載が無くても毎晩何かしら企画されていた。任意なので疲れた日や洗濯したい日などはパスできる。夜10時からの花火大会(夏のモントリオールは日没が遅い)やボウリング(使用する球は小さくて穴がない)などが思い出深い。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

EVOという学生向けのホテルのようなレジデンスに滞在した。概ね快適に過ごすことができた。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

- ・最も大きな収穫は、ここでしか出会えない人々に出会えたことだった。全く異なるバックグラウンドを持つ相手を前に、思い込みを捨てて話を聞くことの大切さを学んだ。
- ・モントリオールのあるケベック州の公用語が英語とフランス語であることは事前に知っていたものの、実際に行ってみると、街中のあらゆる表記はほとんどフランス語だった。人々に話しかければ英語は通じるとはいえ、自分のほとんど知らない言語ばかりに囲まれるとこんなにも精神的に辛いものかと驚いた。もしかすると、日本に来る外国人も同じ気持ちかもしれない。まして日本では英語で話しかけてもあまり通じないので、尚更だろう。
- ・英語力を高めることは、今後の選択肢を増やすことを意味する。それは、具体的に大学院、企業、研究所といった進路を選ぶ幅が広がるということであり、また、科学において公用語は英語であるので、論文やプレゼンテーション等のコミュニケーションをより良いものにできるということでもある。そして何より、英語を話せれば、世界中の色々な人とコミュニケーションができる。その、ごく純粋な事実をモチベーションに、英語力の維持・向上に努めようと思う。

以上

## マギル大学の短期研修を終えて

生活科学部 食物栄養学科

4年 猪野 愛里

### 研修に参加した動機

現在 4 年生で就職先が決まっていますが、これから勤める予定の会社では英語を話す、聞く力が求められるため、英語力を上げることを目的として参加しました。また、学生のうちに留学に行きたいと思っていたことや、カナダの文化に魅力を感じていたことも参加を決める後押しになりました。3 週間外国語に満ちた環境に身を置き、相手の話を理解する努力と自分の言葉で相手に伝えようとする努力をすることが私の目標でした。

### 事前に準備したこと

#### 1. フライト手配

マギル大学の留学は協定校主催のプログラムなので、自分たちで航空券を手配する必要がありました。費用の面から、アメリカで乗り継ぎをする便に乗りました。航空券をとる際、とりたい便の枠がかなりぎりぎりだったので、早めにとることが大切だと思います。数分単位で売れてしまうことも考えられるので、特に他の参加者と同じ便をとりたい場合は早めの予約をおすすめします。

#### 2. SIM

短期留学予定者向けの説明会があった SIM の会社と契約しました。現地でも問題なく使えました。

#### 3. 外貨両替

空港で両替しました。

#### 4. 入国のためのオンライン手続き

アメリカで乗り継ぎをするための ESTA、カナダに入国するための eTA を登録しました。

#### 5. 洋服

現地で洗濯しやすく、動きやすい服装を心掛けました。雨が降るとかなり寒く、体調をくずす人も多かったのですが、長袖の服は持って行った方がよいと思います。現地や大学で買ったセーターやパーカーを着ている人も多かったです。

### 研修プログラムの内容(授業について)

平日の午前中に 2 時間英語で授業を受けました。3 つのクラスに分かれてカナダの文化や歴史について学びました。スピーキングとリスニングが中心で、ペアで話し合ったり、グループでディスカッションなどを行うこともありました。このプログラムには日本人やメキシコ人、中国人、韓国人が参加しており、同じクラスになった人とは授業で話す機会が多々あります。どれだけ英語が拙くても、一生懸命話そうとすれば必ず耳を傾けてくれるので、会話しようと努力することが大切だと思います。

た。また、先生の英語はわかりやすくゆっくり話してくれるので理解しやすかったです。課題の量はクラスによってかなり差があるように感じましたが、私の所属していたクラスの課題は、英語を話して録音するといった簡単なものでした。

また週に一度発音の授業があり、発音する上で重要な口の形や音節などについて学びました。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

平日の午後に 6 名ほどのグループに分かれ、各グループにカンパセーションパートナーという現地の学生さんがつき、モントリオールの観光地に行きました。グループはランダムに決められており、私のグループは日本人 4 人、中国人 2 人、メキシコ人 1 人という構成でした。このグループで午後はずっと活動するので、積極的に他の参加者とコミュニケーションをとれると楽しく活動できると思います。事前に配布されたスケジュールにそって行動しますが、途中でカフェに寄ったりグループごとに自由に動ける時間もありました。最初の週は山に登ったりかなりアクティブに動いたので、身体的にかなり疲れました。毎日とても充実していますが、休憩をしながら無理せず過ごすことをおすすめします。

夕食後は自由参加で、ゲームルームで遊んだり、映画を見に行くことができました。スケジュールに書かれていない日も何かしらアクティビティが用意されていることが多かったように思います。

週末の二日間は日帰り旅行と一日フリーの日がありました。日帰り旅行ではオタワとケベックシティに行き、美しい街並みを堪能しました。フリーの日はゆっくり休んだり、ショッピングやレストランでの食事を楽しみました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

大学の寮はホテルのようで、居心地がよかったです。2 人部屋でしたが、ベッドに仕切りがあり、お互いに見えないようになっていてプライベートが守られている点がよかったです。しかし、事前にドライヤーを持ってくる必要はないと言われていたにもかかわらず、部屋にドライヤーが備わっておらず不便でした。ドライヤーを持ってきていた友達に貸してもらいましたが、自分でドライヤーを持って行く必要性を感じました。

食事は朝食と夕食は寮で提供され、昼食のみ各自で食べることになっていました。寮で提供される食事はバイキング形式で、パンと野菜と果物は毎回提供されていました。おいしい料理が多く、食事は満足でした。

また、午後のアクティビティは想像以上にたくさん歩きました。日に直接あたると暑く、日陰だと涼しく、雨が降ると寒かったので、必ず温度調整できる服装で行った方がよいと思います。

初日に地下鉄やバスが乗り放題の交通 IC カードをもらえるので、休日も自由に移動ができとても便利でした。また夜中や早朝に空港まで送り迎えしてくれるなど、サポートが手厚く、ありがたかったです。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

自分から積極的に話しかけることと、自分の意思や考えを持つことの大切さを学びました。このプログラムには日本人が多く参加していて、自分から積極的に話しかけにいかないはずと日本語で過ごしてしまうこともありました。私は相手の英語が聞き取れないことでうまく返事を返せないこと、適切な言葉が思い浮かばず自分の言いたいことが表現できないことなどにもどかしさや不安を感じることもありました。先生や他の外国人参加者は私のつたない英語にも真摯に耳を傾けてくれました。優しく私の言葉を待ってくれたり、何度聞き返してもしっかり答えてくれる姿に、とても感謝したことをよくおぼえています。失敗してもいいから何か話そうとすること、自分から会話を続ける努力をすることが海外で過ごす上で何より大切だと感じました。

さらに、「あなたは どう思う？」といった質問をされることが多く、これまで考えてもみなかったことに対して自分の考えを持つ必要があることを学びました。ただおとなしく話を聞いているだけではコミュニケーションは成立せず、自分の考えを発信することを重視する文化の違いをとっても興味深く思いました。

異文化に触れ、多くの温かな人の歓迎を受けて過ごした3週間は貴重な経験になりました。これから先仕事などで海外の方と関わる際には、今回の経験を糧として、積極的な姿勢で向き合っていきたいと思います。

以上

## マギル大学夏季短期研修

生活科学部 人間・環境科学科

2年 秋山 佳澄

### 研修に参加した動機

海外で数週間生活し、普段の大学生活で交流する機会がない人と関わることで、様々な価値観に触れ、いろいろな考えを受け入れながら自らの性格や価値観も客観的に捉えたいと思ったため。また、これまでの人生経験で得られなかった気づきを得ることで、自分の視野を広げ成長したいと強く思ったから。一方、グローバル化の加速で英語によるコミュニケーションの重要性は益々高くなっている現状を踏まえ、自らの英語力を試し課題を見つけるために、英語のみを使う環境に身を置き、特にスピーキングとリスニング力の向上を図りたいと考えたから。

### 事前に準備したこと

事前に準備したことを以下に箇条書きでまとめる。

- ・パスポートの手配:以前取得したパスポートの有効期限が切れていたため。パスポートは航空券手配に必要なため早めにパスポートの準備をした。
- ・航空券手配:夏休みのシーズンを被るため、早めに手配することが重要。旅行代理店に見積もりをしてもらったが非常に高かったため、自分達で探して取った。
- ・スーツケースレンタル:大きめのスーツケースが必要だったので、レンタルをした。夏休みの旅行シーズンと被るので、こちらも早めに手配することが大事。
- ・保険・OSSMA の加入:大学から案内があるが、海外旅行保険に加入した。
- ・クレジットカードの準備:クレジットカードに加えて、プリペイドカード式で利用できるキャッシュパスポートも利用した。
- ・事前のクラス分けテストの受験:マギル大学から事前のクラス分けテストがオンライン上で送られてくるので、期日までに受験した。
- ・英語のリスニング:YouTube を利用して、日常会話のリスニングを練習した。
- ・カナダの情報収集:ガイドブックやインターネットなどを使って調べた。

### 研修プログラムの内容(授業について)

午前中の授業では、テキストを用いながら、カナダの文化・社会について学び、最終週にはゲストスピーカーを招いてカナダの文化や社会についてさらに理解を深める機会もあった。授業は、先生による講義は少なく映像や授業テーマに関連するいくつかの質問に対して少人数で行うグループディスカッションがメインだった。二日に一回のペースで簡単なスピーキングの課題が出された、また、午前中の授業のテーマは、午後のアクティビティで行く場所や週末のデイトリップで行く場所



に関連していて、授業で習ったことを実際に確かめることができた。日々の課題は二日に一回のペースで簡単なスピーキングの課題がだされた。最後には、グループプレゼンテーションがあった。)

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

平日の午後は、5~6人の参加者に対して1人の現地の大学生(CP:カンバセーションパートナー)で構成される小グループで行動し、モンリオール市内の観光スポットを巡った。積極的に自分から話しかければ、CPさんと様々な話をする良い機会となった。また、土曜日には、オタワやケベックシティへのデイトリップがあり、モンリオール以外のカナダの都市も楽しむことができた。また、夕飯の後には二日に一回、アクティビティが用意されていて、ボウリングや映画鑑賞などに参加できた。更に、毎週日曜日は完全にフリーの時間で、各自で行ってみたいところなどを決めて、昼食・夕食も各々で摂った。)

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

Evo というスチューデントレジデンスに滞在した。設備は充実していて、共用のランドリールームには洗濯機と乾燥機があり、クレジットカードを紐づけたアプリで使用していた。部屋は2人部屋だったが、個人のスペースが確保されていた。タオルは一式部屋に用意されているが、ヘアドライヤーはなかったので持っていくことをお勧めする。また、洗濯物を干す場所が少ないのでハンガーを多めに用意し洗濯ロープを持っていくと便利だった。部屋の電気は暗いので、夜の作業はお勧めしない。食事に関しては、朝食と夕食はビュッフェスタイルで EVO にて提供されていて、昼食は各自でお店を探して摂った。今回の滞在中では、おそらく新型コロナウイルスが EVO 滞在者の中で流行し、私自身も体調を崩して4日ほど寝込んでいた。持参していた解熱剤を服用し、ルームメイトに朝食のフルーツを持って帰ってきてもらい、それを部屋で食べるなどしていた。体温計や解熱剤など体調を崩した時のことも考慮して薬などは持っていくと良いと思う。飲料水については、ペットボトルの水を毎度買うと高いので、EVO にある冷水機から水を汲んでいた。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

このプログラムに参加する前は、英語を話すことに対して、通じなかったらどうしようか、自分の発音できちんと通じるのか、という不安やきちんと話せないことに対する恥ずかしさがあった。しかし実際には、発音などより伝えたいことをどれだけ端的に自分の知っている単語で伝えられるか、伝えようとするかが重要だと感じた。また、何か質問された時は、聞き取れなかった、何と言えいいかわからないでもとにかく反応することが大事だと思った。日本では、答えがまとまるまで黙っていて言う内容が決まってから発言することが多いが、海外では何か聞かれたらすぐに何かしらの反応を示すことが重要だと感じた。更に、今回の留学を通して、リスニングとスピーキングを向上させる必要性を認識すると共に体調を崩したことやわからないことがあるなど些細なことでも相手が気にかけてくれることを待つのではなく、自分から伝えるという積極性・主体性が不足していることに気づ

いた。

最後に、今回のプログラムに参加するにあたりお世話になった国際教育センター、マギル大学、及び奨学金支援機構に感謝する。

以上

## マギル大学での短期研修を終えて

理学部 化学科

3年 岡村 佳苗

### 研修に参加した動機

大学院入試や就職に必要な英語のスコアを伸ばすためのきっかけとなれば良いなと思い、参加しました。スピーキングは TOEIC R&L などのテストでは関係ないスキルですが、受験などで勉強していたリーディング、リスニング、ライティングと比べて特に自信がなく、これを伸ばすためには、実際に英語圏で生活することが一番良いと思い、カナダでの研修を選びました。

### 事前に準備したこと

英語に関しては前期にスピーキング中心の講義をとっていたため、特に準備はしませんでした。留学ビザなしでの入国だったため、入国審査で話す内容、プログラムへの参加許可書や宿泊先の住所のプリントは入念に準備しました。

また、渡航や生活面については、まず航空券を自分でとる必要があり、1人で渡航するのは不安だったため、他の参加者と同じ便を予約しました。渡航費用を抑えるために経由便を選んだので、ロストバゲージに備えて追跡タグを購入し、スーツケースに取り付けておきました。生活面では、モントリオールの気候に合わせて長袖を持っていったことや、帰国時の荷物を減らすために捨てて帰れる使い古したタオルを持っていったことが役に立ったと思います。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業のクラスは、事前におこなわれたオンラインテストによって3つのレベルに分けられていました。お茶大生は全員真ん中のクラスでしたが、このクラスには日本人の他にメキシコ出身や中国出身の参加者もいました。授業内容はディスカッションなどのスピーキングが中心で、また日々の課題も2分程度のスピーチを録音して提出する形だったため、スピーキングのスキルアップにはとても役に立ったと思います。最終課題では、グループで協力してプレゼンテーションを準備し、各グループ15分ほどの発表をしました。

また、週に1回の発音のクラスでは、母音や子音の使い分けを詳しく学ぶことができ、特に母音の使い分けは日本では習ったことがなかったため、驚くことばかりでとても勉強になりました。また、リズムに合わせて英語の詩を読む練習では、文章中の単語の強弱のつけ方を学ぶことができ、これもとても参考になりました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

授業後のアクティビティは、クラスの中でさらに4グループに分かれ、各グループに1人ずつ現地

の学生がついて行動していました。グループのメンバーは 3 週間変わらなかったのも、仲を深めることができ良かったです。行き先はノートルダム寺院やジョンタロン市場などの観光名所が多く、毎日のアクティビティだけでも十分モンリオールを満喫することができました。さらに、夕食後には参加自由のアクティビティもあり、映画鑑賞やレーザー銃を使ったサバイバルゲーム、ボウリングなどを楽しみながら、他クラスの参加者や他クラス担当の現地の学生とも交流することができました。

週末のショートトリップでは、オタワとケベックシティに行きました。どちらの街もモンリオールとはまた違った雰囲気があり、自由行動の時間も多かったのも、参加者皆思い思いに楽しんでいました。私は、オタワにある歴史博物館でカナダの歴史について学べたことが特に印象に残っています。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在先は大学が用意した学生寮で、部屋は 2 人部屋でした。寮では朝晩の食事もついていたので、食事の用意の必要がないのはありがたかったです。また、部屋は全員お茶大生同士での相部屋だったので、色々な場面で協力しやすかったと思います。

日々の生活の中での一番の出費は昼食でしたが、カナダは物価が高く、また税金(約 15%)とチップ(15%~30%)もあるため、毎回 2000 円弱はかかっていた印象です。支払いについてはキャッシュレス化が進んでいるため、全てクレジットカードで済ませることができました。現金を使う場面は、割り勘のときや現金値引きがあるときのみと言ってもよいくらいだったので、日本から大金を持っていく必要はないと思います。

モンリオールは比較的治安の良い街とされていますが、大麻が合法であったり、ホームレスや物乞いも多いため、夜遅くに 1 人で出歩くなどは控えた方がよいという印象でした。また、モンリオールのあるケベック州は公用語がフランス語のみのため、看板やメニューがフランス語のみのことも多く、わからない場合には店の人に聞くかスマホの翻訳機能を使う必要があるのも少しストレスでした。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

このプログラムでは、単なる英語のスピーキングスキルにとどまらず、他者とのコミュニケーションについて考える機会が多くありました。特にメキシコなどの他の国からの参加者が積極的に英語でコミュニケーションをとる姿を見て、日本人そして自分自身のコミュニケーションにおける消極性を痛感し、英語に不安があってもとりあえず話してみることの大切さを実感しました。

また、カナダでは「あなたはどうか？」という言葉をかけられることが多くあり、自分の意見よりも他者の意見を尊重しがちな日本人にとっては中々すぐに答えられないことも多く、コミュニケーションとは一方的に相手の話を聞くことではなく、どんな些細なことでも自分の意見を持ち、それを発信することであると学びました。

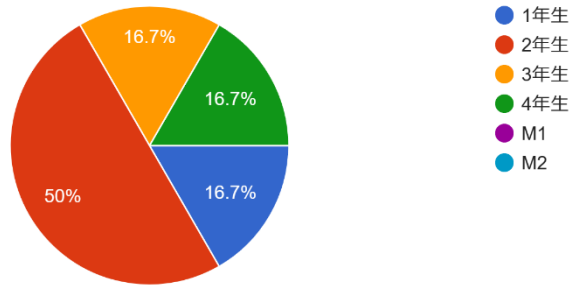
今後、様々なバックグラウンドをもつ人々とコミュニケーションをする上で、この経験を生かしていくためには、どんなことにも自分の意見をもつという意識だけでなく、それを的確に発信するための英

語のスキルも必要であり、これからも勉強を続けていきたいと思ひます。

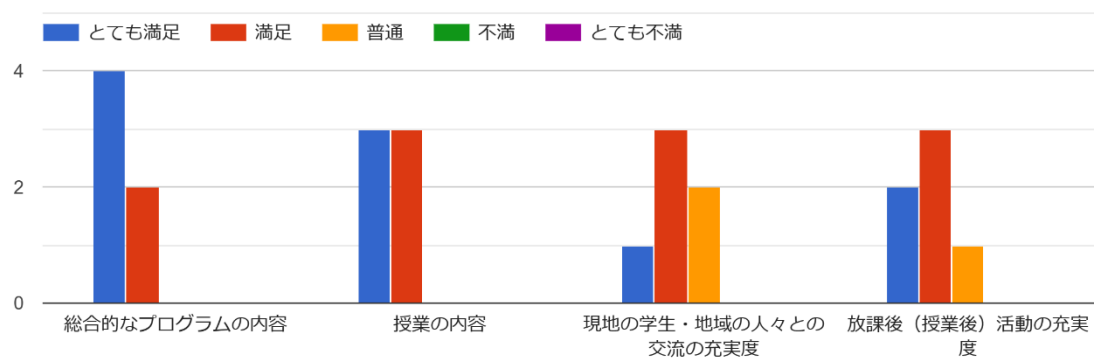
以上

### 研修参加時の学年

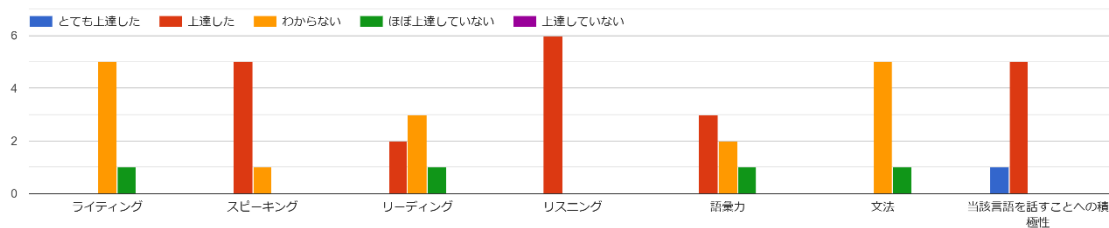
6件の回答



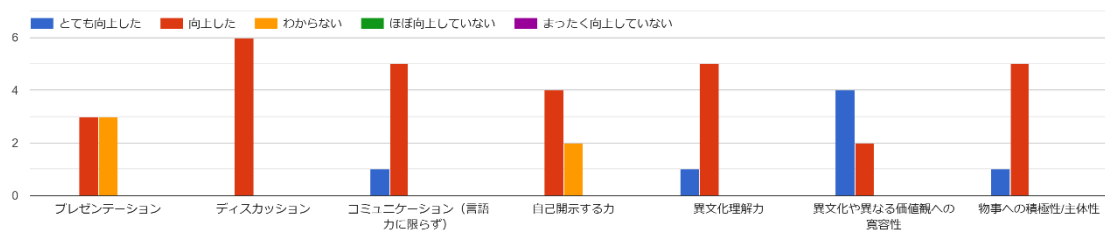
### 参加したプログラムの満足度について



### 海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・毎日のアクティビティでつく現地の学生がグループごとに毎回一緒なので、より親しくなることができ、様々な会話をする機会が得られた点。
- ・たくさん英語を話す機会があったことが良かった。また、課外活動も含めてプログラムがしっかり用意されている所も安心出来てよかった。空港への送り迎えをどんな時間でもやってくれたのが良かった。
- ・観光名所にたくさん行ける点、寮で提供されるごはんが美味しい点
- ・午前中の授業のカリキュラムがカナダの文化や社会を理解できるトピックだった点。また、課外活動の時間が多く、現地の学生や他の参加者と交流する時間が多かった点。
- ・食べ物や動物などの簡単なトピックから始め、最終的には歴史や社会制度のような高度なトピックについてディスカッションできるようになる点
- ・語学学習以外の点(主に渡航、帰国)を心配せず、大学のプログラムに集中することができた点

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください。

- ・スピーキングについて、話す内容よりも話し方の改善に重点が置かれていたこと。
- ・書いたり読んだりする時間はほとんどなく、理論よりも実際に話しながら学ぶのが違うと思った。
- ・スピーキング、リスニングが中心の授業で、実践的な英語が学べました。
- ・ディスカッションの時間が多いこと。先生が教室を歩き回り、生徒同士のディスカッションに対して、新たな視点の投げかけや質問をすること。
- ・教師と生徒とのコミュニケーションが盛んなところ。教師主導で話していても生徒が活発に質問や意見を飛ばし、教師もそれに応じる等。
- ・一つの単元が終わるごとに先生が独自ですることを決め発表することがあった。自分達で好きな商品を考えてその広告を作るという活動が特に印象に残った。また日本では意見を行って終わりだが一つ一つなぜという疑問を投げかけられたことがとても新鮮だった。

### 語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください

- ・店での注文のしかたなど、最低限の日常会話は習得すること。

- ・ある程度は英語を聞き取れるようにたくさん英語を聞いたり、英語を話す練習をしたりしておくことでより自信を持って参加できるかもしれない。
- ・日常会話を学ぶ、英語に耳をならす
- ・リスニングとスピーキング(簡単な日常会話が難なくできるくらいに。)
- ・リスニング力
- ・語彙については予習していった方がいいと思う

渡航先に持って行った方がいいものを教えてください。

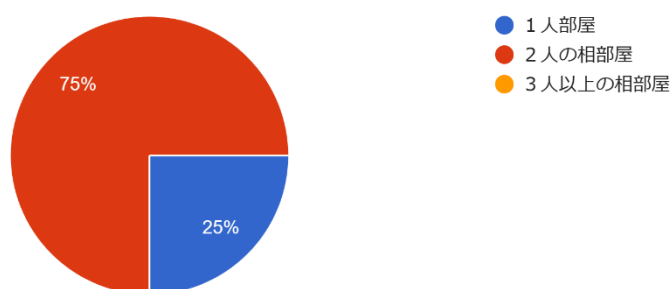
- ・今回、参加者の半分以上が発熱などの体調不良で欠席するなどしていたため、風邪薬や胃薬などの一通りの薬類 日本よりもキャッシュレス化が進んでいる場合が多いため、クレジットカード(できれば複数ブランド) ロストバゲージに備えてエアタグなどの追跡タグ
- ・ウェットティッシュ、体温計、ドライヤー
- ・長袖の服やパーカー、折り畳み傘
- ・アルコールのウェットティッシュ、洗濯ロープ、ハンガー、生理用洗剤、パーカーなどの上着
- ・飲み慣れた薬(多め)、渡航先の気候に応じた服装、日本のお菓子(配ると喜ばれます)
- ・寮の設備はあまりよくないので生活に必要な細かいものを持っていった方がいいです。ドライヤーはきちんと海外対応のものでないと壊れるのできをつけてください。

渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください。

- ・外務省や大使館の HP、ニュースサイト
- ・インターネットで調べる。ガイドブックを読む。

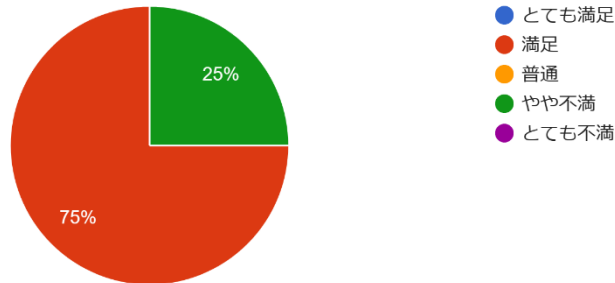
大学寮の部屋の構成を教えてください

4件の回答

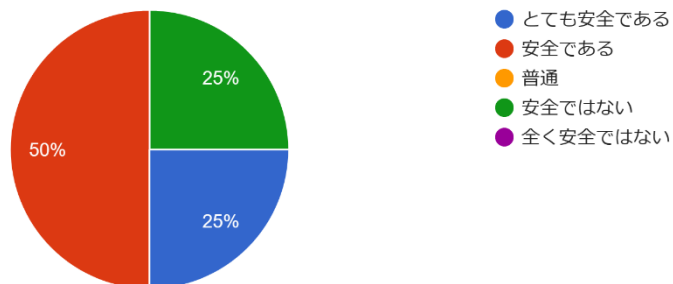




大学寮の満足度について  
4件の回答



大学寮周辺の安全について  
4件の回答



#### 大学寮でよかったこと

- ・立地が様々な所に行くのに便利だった。また、朝晩のご飯がついているのが良かった。
- ・2人部屋だったが、ベットには仕切りがありプライベートが守られたこと
- ・困った時に助け合える
- ・一人一部屋なのでストレスなどは少ないです。

#### 大学寮で不便だったこと

- ・壊れている洗濯機が多かった。
- ・学校から少し遠い
- ・ランドリールームが混みがち
- ・洗濯機がアプリを入れないと入金できないこと、いきなり値段が上がったこと。電子レンジが突然

使えなくなったこと。トイレトペーパーがなくなってもすぐ補充してもらえないこと。警報器が鳴りやすいこと。

「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・自分の意見より他人の意見を尊重しがちなこと 自分の英語力に自信がないと、なかなか自ら会話に加わろうとできないこと
- ・狭いのもあって建物や通勤ラッシュなど密集することが多い。
- ・日本人が多く参加するプログラムなので、日本人も本当に様々な人がいることがわかりました。積極的な人はどんどん交流を深めることができますと思います。
- ・授業中に声を上げて質問をしないなど、静か ませ 食事が味が濃くなく、油っこくない 街はゴミが落ちていることがなく綺麗だが、景観があまり綺麗ではない
- ・丁寧(すぎる)
- ・日本人は日本人同士で固まりやすいなと感じました。言語の面では、日本語は主語を省略することが多いと感じました。また日本人は何に対しても丁寧というのはありますが、咄嗟の行動などが遅いと感じました。

「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・ランチで何を食いたいかななどの些細なことであっても、必ず自分の意見を持たなくてはならないこと
- ・のびのびしている。車椅子の人用に扉が自動で開くボタンがあったりビーガン対応のメニューがたくさん用意されていたり様々な人に配慮している。
- ・フレンドリーで、温かく歓迎してくれる人が多い
- ・親切で明るい 少し大雑把 寛容
- ・寛容
- ・カナダには色々な人種の人がいると感じました。化粧品が好きなのですが、ファンデーションの色などは日本に比べるととても多いと思いました。またどの場所でもキャッシュレスがとても進んでいて驚きました。交通機関でも直接クレジットカードが使えるのが驚きでした。交通機関について驚いたことはロンドンの都市以外はあまり地下鉄が発達しておらず、歩きもしくはバスを利用することが多いことです。ロンドンの地下鉄は電波が通じないことにも驚きました。

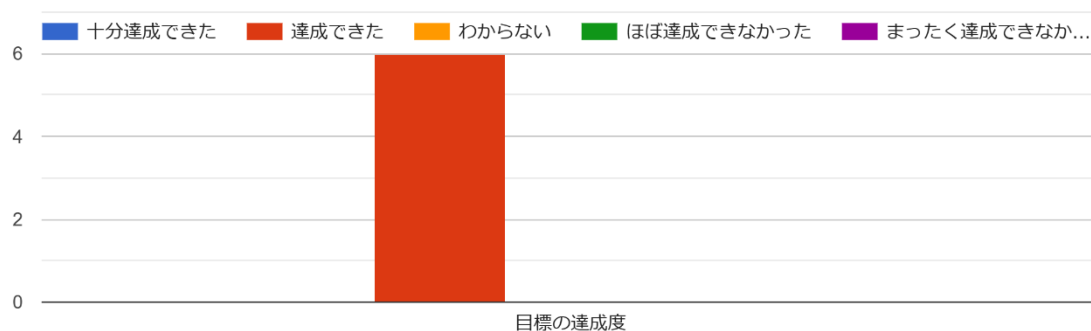
「自分」(コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など)について気づいたことを教えてください

- ・自分の意見を聞かれていても、まずは周囲に意見を求めてしまうところがあること 英語での言い方がわからなかったときに、黙ってしまうこと
- ・他の参加者が積極的に話しかけているのを見ると身構えてしまって自分から話しかけづらかった

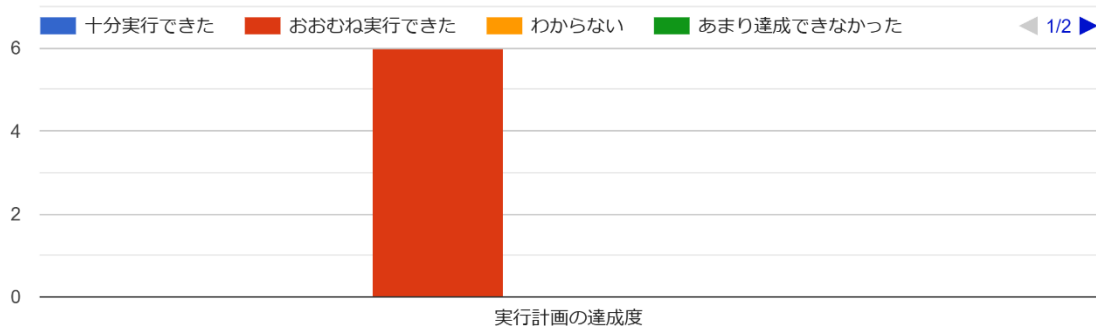
り、話すことが思いつかなかったりとコミュニケーション力は伸ばす必要があると思った。異文化に関しては、最初は自分と合わないような時は嫌な気持ちにもなったが、そうした経験ができたことで今後は異文化に寛容になれるように思う。

- ・慣れない環境で積極的に会話をするが大変だった
- ・慣れるまで周りの様子を伺って静かにしている傾向が強い カルチャーショックなどは受けず意外と海外の文化などを受け入れられた やってみたいと思ったことは機会を待つのではなく、早めに行動に移し周りにも伝える方が良いと考えるようになった
- ・細かいところに執着しがちだったのが、ある程度要領良く対処できるようになった
- ・私は自分がそこまでストレスに弱いと思っていなかったのですがストレスに対して耐性がないということに気づきました。また他人と自分を比べて気にしすぎてしまうことについても気づきました。コミュニケーション力についても日本人同士なら話かけに行けるのでそこまで心配していなかったのですが、外国人になると自分からなかなか話かけに行くことができないということに気づきました。ただ異文化理解については以外と文化だからと受け入れられた様に思います。

海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



今回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・どんな話題に対しても自分の意見をもつこと 初対面の人にも積極的にコミュニケーションをとりに行くこと
- ・プログラムを通して様々な人、文化があると実感したので、今後大学でも卒業後でも自分と境遇が違う人に会っても身構えずに関わり合えらと思った。また、家族なしで飛行機に乗ったり生活したりしたのは初めての経験だったが、自立した生活をするのは今後にいかせると感じた。
- ・自分から積極的に人と関わることが何よりも大切であること
- ・積極性・主体性をもう少し持って、自らやってみたいこと・気になったことは探求する姿勢を保つことが重要であると感じた。また、本学にある施設も利用しながら引き続き英語力の向上を図る必要があると感じた。
- ・あえて uncomfortable な環境に身を置くということ ・異なるバックグラウンドの人々とのコミュニケーション
- ・新たな自分を発見できたことや海外で生活するとはどういうことなのか体験できたことは大きいと思います。就職した際、海外で働くということも視野に入れていたので体験できてとても意義があったと思います。また語学力や文化を知ることがいかに多くの人とコミュニケーションをとる場合において重要か感じました。

MANCHESTER  
1824

The University of Manchester



## マンチェスター大学（イギリス）

研修期間：2023年8月7日～9月8日（5週間）

滞 在：大学寮

研修内容：英語研修、イギリス文化学習

It's nearly time to start your English Summer Programme (ESP)! Details of your first day timetable can be viewed below.

Your first day timetable: Monday 7 August 2023	
UK local time	Classroom Number
10:00 am - 10:20 am	<b>Welcome by Support staff and student check-in and registration.</b> <b>Samuel Alexander Building</b> <b>Room A102</b> <a href="#">(Number 67 on the campus map).</a>
10:20 am - 10:50 am	<b>Course Introduction</b> Course Coordinator introduces you to your course, learn more about course expectations, your language development.
10:50 am - 11:20 am	<b>Introduction to your Social Programme</b> Learn about all the fun events and trips planned as part of your social programme. <a href="#">The International Society delivers an exciting programme that allows you to see as much as possible of the UK, meet other students studying on campus and make friends along the way.</a>
11:20 am - 11:55 am	Meet your class tutor followed by an informal Q & A
12:00pm - 1:30pm	Lesson 1 Core Lessons – General English
1:30pm - 2:30pm	Lunch break
2:30pm - 3:15pm	Campus Tour
3.15pm	Collect your student ID card from the Student Services. <b>Please bring your original passport with you on 7 August so you can collect your student ID card</b> <a href="#">(Number57 on the campus map).</a>

**Your weekly timetable:**

Course Timetable	Group Number	Teaching Delivery	Teaching Room	Class Times	Lesson	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
ESP Group 1	Campus Based - Face to Face	Group Tutor (GT), Sebastian Tuckman, Room A213, Samuel Alexander Building				(Core Lesson) - General English	(Core Lesson) - General English	(Core Lesson) - General English	(Core Lesson) - General English	British Culture and Communication-BCC
				10.00 - 11.30	Lesson 1	GT	GT	GT	GT	ST
				12.00 - 13.30	Lesson 2	GT	GT	GT	GT	ST
			14.30 - 15.30	Lesson 3	British Culture and Communication-BCC	British Culture and Communication-BCC	British Culture and Communication-BCC	British Culture and Communication-BCC	British Culture and Communication-BCC	No Class
							ST	ST	ST	ST

## マンチェスター研修を終えて

理学部 生物学科

2年 猪目 亜衣

### 研修に参加した動機

将来の目標である、化粧品業界の研究開発部門に携わることに、日常会話レベルの英語力は必須であり、また、化粧品は欧米諸国が大市場であるため、自らがその地に行くことで流行や主流を、身を持って感じたいと思ったからである。

### 事前に準備したこと

周りのみんなは単語帳で勉強したり、TOEIC を受けていたりしていたが、自分は今の自分の英語力がどれほど通用するかを知りたかったこともあり、特に英語力に関して特別な対策はしていなかった。強いて言えば、イギリスの映画を何個か見たことくらいである。今思えば、TOEIC や英検などの試験を受けて、留学前と後とでどれくらい差が生まれるのかを測れたらよかったかもしれない。私が懸念していたことは生活環境であるため、持っていく物には力を入れた。持って行って良かったもの、持っていけば良かったものを以下にリストアップする。

- ・インスタント味噌汁、サンダル(室内用)、塩コショウ、小分けの油、コンソメ
- ・米は多め(友達には 10 合持ってきている子もいた)

シャンプー・トリートメントやハンドソープ、洗剤などは向こうで調達できるので持って行かないほうがいいと思う。私は行きの飛行機で洗剤を入れていたジップロックが破裂して、服がとても良い匂いになったので、それでも良いなら持って行ってもいいかもしれない。

### 研修プログラムの内容(授業について)

グループは 6 個に分けられて、それぞれ 8~12 人くらいである。途中で新しい留学生やプログラムを終えて帰国していく人たちもいるので、人数や留学生の多様性はグループによってばらつきがあるが、8 月中はどのクラスも人が多く、必ず中国人留学生がいた。グループ 1.2 はリーディング、リスニング、スピーキングを満遍なく行い、グループ 3.4.5 ではスピーキングメインでの授業が行われていたそう。自分はグループ 2 であったため、3.4.5.6 の授業の様子は詳しくないが、使っている教材は違っていた。サマープログラムの途中でグループを変更する子もいたので、授業内容や先生との相性で臨機応変にグループを変えるのもありだと思う。自分の留学だから。グループ 2 では、テキストメインの授業だったが、先生がとても楽しい人間で、授業内でたくさんゲームをした。英語の歌のリリックを曲に合わせて打ち込むパソコンゲーム(?) では気まずい思いをしたが、それも今になってはいい思い出である。他のクラスではずっと真面目な授業が続いたと言っていたので、グループや先生によってかなり内容は変わるようであった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

水曜日にはWednesday social(正式名称じゃない気がする)があり、そこでは大学院生や既に社会に出て働いている人たちと混ざってお菓子やボードゲームをしながら英会話をする時間を過ごした。ほとんど外国人で、あとは私たちのような留学生である。これもサマープログラムの一環であるので、ぜひ参加してみるといいと思う。また、金曜日は通常授業とは異なり、外に出てマンチェスター市内を観光兼、歴史を学んだ。グループ 2 は博物館とレストランと図書館へ行った。先生が課題を与えてくださったので、それに沿って観光していた。自分ではなかなか行こうとしないところへ行けたので、とてもいい時間だった。授業は昼過ぎには終わるので、好きなところへご飯を食べに行き、午後は好きなところへ観光に行けたので、時間も有意義に使えた。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

衣食住に沿って説明する。まず、「衣」について。第 3 週目くらいまでは最高気温が 20℃前後だったので、長袖をいっぱい持っていた私は生き残れた。他の人達は現地調達したり、頑張って寒さに耐えていた。ただある日から急に暑くなったので、半袖も必要だった。次に「食」について。昼は基本自炊して、サンドイッチをいっぱい食べた。夜は自炊したり、パーティしたり、外食したりという感じである。イギリス料理はそんなに不味くなかった。最後に「住」について。部屋はとても綺麗で、隣の部屋の水道音は聞こえるが、それ以外は特に問題ない。ただ、お風呂が共同で、掃除が行き届いていないので定期的に水が詰まり、それがしんどかった。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回の研修で、イギリス人がどのようなコミュニケーションを取り、どのようなスラングが使われ、話すスピードはどの程度なのかといったことを、浅くではあるが学べたので、目的であった日常会話レベルの英語力のレベルがわかった。そこまでの英語力獲得を目標にこれから先の大学の授業や、自学を行い、社会に出た時もその力を武器にしていきたい。また、化粧品の最前線に身を置いた経験を活かして、国内メーカーの海外発展に助力していきたい。

以上



## マンチェスター大学研修の振り返り

生活科学部 人間環境科学科

2年 雨宮 菜々子

### 研修に参加した動機

私には双子の姉がおり、かなり姉に依存して生きてきた部分があったため、海外で一人で生活するという経験を通し自分に自信をつけたかったため。また英語学習が好きだったが、スピーキングに全く自信がなかったためスピーキング力を上げたかったから。

### 事前に準備したこと

忙しかったため特にこれといった準備をせずに出発しました。それについて留学前はとても不安でしたが、特別困るということはありませんでした。(ただもう少しスピーキングの練習をしていけばよかったかな…とは思いました)荷物については心配性かつ完璧主義というダブルパンチでとても多くなってしまいました。大きいスーツケースとポストンバックがパンパンになるくらい。集合した他の参加者を見てあれ…？私の荷物めっちゃ多くね？と思いましたがお土産をたくさん詰められたので結果オーライです👍。結局使わないものやこれ持って来ればよかった…と思うものもありましたが、人間意外と多少の不便さには慣れていくものです。(最悪買えばいいし)

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は5つのクラスに分かれて受けました。私のクラスではプログラムの半分は中国人の学生と一緒に受講しましたが、それ以降はクラスは日本人のみで構成されていました。それぞれのクラスによってかなり内容が異なっていたように思います。午前中の授業(3時間)では授業のはじめ30分くらい週末の経験をシェアしたり、絵を見てそれについて話したりするなどのスピーキングアクティビティをした後、教科書のトピックについてスピーキング、リスニング、文法、ボキャブラリーなどをバランスよく進めていく形式でした。午後の授業(1時間)では金曜日の授業で行くマンチェスターのスポット(ショッピングモールや図書館など)について学んだり、実際に行って気づいたことなどを共有する時間でした。金曜日は午前中にマンチェスターの様々な場所に出かけ、アクティビティを行いました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

週末にイギリスの様々な場所を訪れました。ロンドンへの旅行を含め6つの都市に出かけ、とても充実した時間を過ごすことができました。日本にいるときは外出することへのフットワークが異様に重かったのですが、知らない土地に行くという経験がどれほど心を豊かにするのかということに気付かされました。目から鱗でした。ので、帰国した次の日に速攻で初一人銭湯を決めました。一番印

象に残っている場所は Whitby という港町です。フィッシュ&チップスを食べる以外にこれといったやることはなかったのですが、日本の港町とはもちろん全然違った雰囲気でした。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

寮はとても清潔でしたが、キッチンが狭いことと夜の騒音には少し困りました。毎日爆竹みたいな音が聞こえ、Wow…と戸惑う日々。日本から炒め物のもとやお味噌汁をかなりたくさん持っていきましたが、それを作るのすら面倒だったので(今まで不健康な食生活をしている友人に「ちょ笑、おま笑、え？」とかほざいていたことに関して全力で謝罪したくなりました。)結局そのまま食べれるミニトマト、フルーツ、パン、ヨーグルトで凌いでいました。そのおかげで痩せましたがすぐに戻りました！！ちなみに調味料は醤油、味噌、本だしを持っていきましたが普段自炊しないくせに私は何を作ろうとしていたのでしょうか？温めてすぐ食べれるレトルトのカレーやカップ麺などはすごく便利だったので普段自炊を全くしない人はたくさん持っていくべきだと思います。また、一度トラブルがあり一人で寮の近くの病院に行ったのですが、とても清潔でその上通訳の方がいらっしゃったのでとても安心でした！！気候はとにかく寒かったです。めっちゃ寒かったです。準備している時日本はもうそれは灼熱なので「イギリス寒いってゆうても、ねえ？夏だし」とか思ってたんですが嘘です。夏ではないです。普通にダウン着てる人とかいます。舐めないでください。小雨がよく降ったので、ウインドブレーカーを持っていれば雨なのにフードでしのぐという現地人ムーブかませたのにな、と残念でした。基本的に交通機関や買い物ではコンタクトレスカードがあればタッチ決済でき、とても便利でした。日本よりタッチ決済が普及していると思います。(日本に帰ってきてからキャッシュカードしか使っていません、便利すぎる)

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムを通して本当に様々なことを学ぶことができました。私が一番感じたのは文化の違いは目に見えない形でとても大きな影響を人に与えていて、その影響が良いものなのか悪いものなのかは判別不可なのではないかということです。例えばイギリスでは電車運行システムが日本のように整備されていません。電車チケットの確認方法は駅によって異なるし、(なんなら車内で人力で確認することも)予定されていた電車が遅れることもキャンセルされる(こない)ことも日常茶飯事です。電車が 2 分遅延しただけで謝ってくれる日本の鉄道会社とは訳が違いますし、日本人からすると理解できない感覚です。でもそれを当たり前のように受け入れているイギリスの方は、もしかしたら日本人より少しだけおらかかもしれません。(ただの私の推測ですが)私たちは自分たちが当たり前だと思っているものから実はとても大きい影響を受けていて、その当たり前が通用しなくなった世界でつい優劣をつけたがってしまいます。しかし、たとえ技術の差という点における優劣があったとしても、その「当たり前」が人にどのように作用しているかはわからなくて、その目に見える違いによって物事の良し悪しを判断するのは早とちりなのではないかと感じました。これは異文化理解という観点からは若干論理は飛躍しますが、おそらく人間関係にも、ひいては人生にも通ずる

ことなのではないかと思います。人も、出来事も、どこにスポットライトを当てるかで全く意味合いが変わってきます。日本はとても整備された素晴らしい国であることは間違いないけれど、それによって窮屈さが生まれてしまっているのではないか。というように、無理に物事の負の側面に焦点を合わせる必要はないかもしれないけれど、何か絶対的に合理的で素晴らしいことはないとわかっていたいと思いました。それは自分を含めた社会への寛容さにつながっていくのではないのでしょうか。今回の寮生活で痛感したのですが、日本に住んでいても私たちは一人一人違う「文化」の中に生きています。「異文化理解」は国際的な観点から語られることが多い印象ですが、今回とても巨大な異文化ギャップを前に、生きていくために必要不可欠な「異文化」の中で生きる他者の受容のあり方について気づくことができました。やはり慣れ親しんだ環境から出てみるというのはとても大切なことだと思いました。

以上

## マンチェスターで過ごした 5 週間

文教育学部 人間社会科学科

1 年 亀山 そら

### 研修に参加した動機

大学では長期留学に挑戦したいという強い思いがあり、その第一歩として一年生の夏休み中に短期留学を経験してみたいと思った。短期研修のプログラムの中でも特にマンチェスター大学を選んだ理由は、ヨーロッパでの生活に憧れがあったこと、イギリスの文化や博物館に興味があったことである。

### 事前に準備したこと

研修が始まる 2 ヶ月ほど前からオンラインでの英会話を毎日行った。ただ海外に旅行に行くのではなく、海外で実際に生活しなければならないのだから、多少のリスニング力・スピーキング力は鍛えてから渡航するべきであると考えた。日本で生活していると、英語だけで誰かと会話する機会を設けることは難しいと思うので、オンラインレッスンの活用を強くお勧めする。

### 研修プログラムの内容(授業について)

プログラムが始まる前に、オンラインのスピーキングテストがあり、それに基づいてレベル別にクラス分けが行われていたようだ。一クラス 15 人ほどで、ネイティブのイギリス人の先生と教科書を使いながらもディスカッション中心の授業を行った。オールイングリッシュの授業の中で、積極的な発言が求められたり簡単なプレゼンテーション発表を求められたりすることが多く、初めは戸惑ったが、クラスの雰囲気慣れていくうちに自分から発言することが苦ではなくなり、授業を受けることも楽しくなっていた。授業の一環として、毎週金曜日にはマンチェスターの博物館や図書館、ショッピングモールを訪れることができたため、英語だけではなくイギリスの文化や歴史についても学べるとても濃いプログラムであったと思う。

さらに、私のクラスには日本人の他に中国人・イタリア人・スペイン人がいて、授業のディスカッションを通してそれぞれの国による文化の違いを学べたことがとても楽しかった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

大学には International society という留学生向けのイベントやトリップを運営する組織があり、毎週水曜日と金曜日には他の学生たちと交流するためのイベントが開かれていた。さらに週末にはこの組織によってイギリス内の他の街への旅行が計画されていて、参加したいものに自由に参加することができた。私はこの international society のトリップを利用して、Cots Wolds と North Wales という地域へ行くことができた。

また、International society の旅行でなくても自分たちでバスや電車・ホテルを予約して週末には旅行に出かけることができた。私は Oxford・London・York・Liverpool に外国人も含め留学でできた友達と旅行に出かけた。全てイギリス内の都市ではあったが、街によって建物や人々の雰囲気、言葉の訛りは全く異なっていたため、行く先々で多くの驚きや学びがあった。

授業は毎日 15 時半に終わり、放課後に時間があつたためクラスの友達と毎日のようにマンチェスター内に遊びに出かけていた。多くの博物館や美術館は無料で入ることができたため、気軽に色々な場所へ遊びに出かけることができた。伝統的なパブやレストランも多く、マンチェスターのローカルな文化にも触れることができた。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

大学の Hulme Hall という寮に滞在した。バス・トイレ・キッチン・ランドリーは共用であるが、一人部屋であったため寝る時間や帰宅時間は個人で自由に決めることができた。私が滞在した寮周辺は大学から徒歩 20 分ほどの場所に位置していた。夜の時間帯になると寮の横の通りが騒がしくなり、車のクラクションの音や爆竹・花火の音で夜中に起こされる日もあった。

物価は日本よりは高いと感じた。特に外食は税金がかかっているのでもとにか高く高い。だが、スーパーで売られているものに関しては日本よりも安い値段のもの(ジャガイモ、人参、フルーツ、パン、チーズ、ヨーグルトなど..)も多くあり、自炊を多くすればかなり節約できるのではないかと思った。寮の近くには普通のスーパーマーケットに加えてアジア系のスーパー、さらにファストフード店やカフェもあり、利便性は高いと感じた。

天気に関しては日によって気温差が大きく、ダウンジャケットが欲しくなる程寒い日もあれば半袖で汗をかく日もあった。雨が降る日もあったが、イギリスでは傘を使う習慣がないようだったので、雨を凌ぐためにフード付きのパーカーなどを持っていくといいと思った。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

この 5 週間の研修プログラムを通して、失敗を恐れず挑戦することの大切さを学んだ。日本にいる間は失敗を恐れ、周りの目を気にして、英語を話すことや人前で発言することをためらってしまうことが多かった。プログラムの中では私自身の「海外の友達を作る」という目標を達成するために、自分から英語を使って積極的に多くの人に話しかけて遊びに行くことを心がけた。自分の英語に自信は全くなかったが、「失敗してもいいんだ、自分から動かないと何もできない」という気持ちでコミュニケーションをとることで、結果的に様々なバックグラウンドを持つ友達と共に、自分の視野を広げる素晴らしい経験をたくさんすることができた。そして多様な人々との交流は改めて自分を見つめ直すきっかけにもなり、自分に自信を持つことにも繋がった。これからの大学生活の中でも、失敗を恐れずに興味のあることに積極的に挑戦し、多くの人々とコミュニケーションをとりながらも、自分の人生を自分の力で充実させていけるような人になりたいと思った。

以上

## マンチェスター大学への留学

理学部 物理学科

2年 吉田 彩乃

### 研修に参加した動機

英語のスピーキング力やリスニング力を向上させ、海外の人と実践的な会話ができるようになりたいと考えていた。また、去年このプログラムに参加した友人達の話聞いておりとても楽しそうだと感じた為、参加しようと決めた。

### 事前に準備したこと

TOEIC を受け自分の能力を知る。イギリスの文化や気候について調べる。

### 研修プログラムの内容(授業について)

月曜日から木曜日はディスカッション形式の授業だった。1 コマ目と 2 コマ目の授業では教科書内の問いを 2~4 人で話し合い、先生はみんなの話を聞いていて文法や単語がおかしい時に指摘して下さるといふかんじだった。教科書の内容が、家族や食べ物や学校、仕事についてなど日常生活についてだったのでディスカッションがともしやすく、同じクラスにいた中国人の友人などの話から文化の違いを感じることができ、とても興味深かった。3 コマ目の授業は、後述する金曜日の課外授業で学んだことのプレゼンテーションや、料理を作り、その料理を作る工程を英語で説明した料理動画の作成や、簡単な CM を作成やイギリスに関するクイズ大会などをした。プレゼンテーションや動画の作成は放課後に行うことが多かったので授業時間外でも、同じクラスの中国人の友人達と関わるきっかけができた。

金曜日はイギリスの文化を学ぶため、マンチェスター市内を中心に博物館やイングリッシュブレックファーストを食べることのできるお店を訪れたり、ポイントハンティングのような形で市内を歩き回ったりなどをした。アクティビティの後にクラスのみinnで昼食を食べることが多く、コミュニケーションを沢山とることができた。また、移動手段を自分で見つけなければならなかったので、バスやトラムやタクシーなどの使い方を学ぶことができた。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

水曜日と金曜日の放課後に他の留学生と交流する機会や、週末にツアーのような形で他の町まで旅行に行ける機会があった。私は週末の旅行で North Wales と Liverpool と The Peak District に行った。North Wales では 2 箇所訪れそれぞれ 3 時間の自由時間が与えられた。城内を歩いたり、街を散策するなどした。Liverpool ではバスに乗って観光のポイントを訪れ、その都度 15 分ほどバスを降りて写真を撮り、また別の場所に移動するという感じだった。The Peak District では洞窟の

中に入ったりハイキングしたりした。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

一週目は昼食はクラスの友人とレストランに食べに行き、夕食は自炊をしていたが、授業が終わってから寝るまで寮で一人で過ごすことになるのを退屈に感じてしまったため、二週目からは昼食はサンドウィッチやフルーツを持参し、夕食はほぼ毎晩クラスの友人とレストランに食べに行っていた。なかでも学校の近くの Red Chilli という中華料理屋がとても美味しく毎週食べに行っていた。また、たまにする自炊で日本からパスタソースの素や Cook Do などの簡単に料理が完成するものを持っていくと非常に便利だなと感じた。自炊をすることでリフレッシュになることもあったが、毎日の学校で疲れていたり、調味料はスーパーに売っているのは量が多いものばかりで使い切るのが大変だったりするので持っていくと非常に便利だと思う。

#### 研修プログラムを通して学んだこと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私はこのプログラムで実践することの大切さを学んだ。プログラム前は自分の英語に自信が全くなく、アルバイト先で外国人のお客さんと会話する時でも、知っている言い回しや単語はあるけれど勇気が出ずジェスチャーで伝えることが多かった。だが、このプログラム中にディスカッションの授業が多く、自分の言いたいことを自分の知っている文法、単語で伝えなければならなかったので実践する機会が多くあり自分の英語力の自信にもつながった。また、授業中の先生の問いかけに積極的に発言することも大事だと感じた。また、私はこの学びから、自己成長への意欲が一段と高まりました。短期留学を通じて得た実践的なコミュニケーションスキルや積極的な姿勢は、大学生活やキャリアにおいても大いに役立つと考えている。具体的に、大学生活では、授業やサークル、グループプロジェクトにおいて自信を持って自分の考えを表現し、他のメンバーと協力することができると思う。また培った英語力をさらに向上させ、将来的に英語力を生かすことのできる職業につきたいと考えている。

以上

## マンチェスター大学短期留学報告書

文教育学部 人文科学科

3年 橋本 純奈

### 研修に参加した動機

元々海外に興味があり、交換留学に参加しようと考えていたが、コロナ禍の影響で機会を失った為、本短期研修に参加した。またイギリスの文化について興味があったことと、滞在場所が寮であったことがマンチェスター大学を選んだ大きな理由である。

### 事前に準備したこと

海外 SIM への申し込み、OSSMA への加入、保険への加入、日本円からポンドへの換金、IELTS の受験などを準備の為にこなした。SIM は大学から紹介されたものに申し込み、保険は OSSMA の上乗せ保険に加入した。個人的に研修プログラム期間中にスマートフォンが壊れた為、携行品損害補償が可能な保険に入っておいて良かったと感じている。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は、午前と午後で先生と内容が分かれている。午前の授業は基本的に教科書に沿って行われ、記事を読んで何が書かれているのかを読み取ったり、文法的なことを勉強したりした。たまに、英語に関するゲームを行いながら学びを深めた。午後の授業は用意された話題に関して自分はどう感じるかを皆で話し合うディスカッション方式で行われた。話題の内容は、マンチェスターの歴史から、世界のキャラクター、世界の食文化、自身の個人的なことに関することなど様々であり、主に会話の練習を行うことが目的の授業だった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

毎週金曜日は課外活動としての時間が設けられている。

- 1 週目は、マンチェスター科学産業博物館に行き、セクションごとに興味のある展示を一つずつ選び、先生に対して「選んだものが何であるのか、いつどこで何のために作られたのか」を説明することを指示された。
- 2 週目は、先生が指示した順番でマンチェスター市内の目印となる建物(特徴だけが明らかにされており、名前は明かされていない)を訪れ、最後に図書館を見学した。先生が見つけることを指示した建物が見つけれない場合は、現地の人に聞きながら探した。
- 3 週目は、マンチェスター民衆歴史博物館に行き、前回と同様に、セクションごとに興味のある展示を一つずつ選び、先生に対して「選んだものが何であるのか、いつどこで何のために作られたのか」を説明することを指示された。



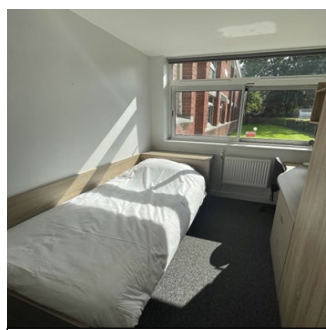
4 週目は、寮の近くのカレーマイルと言う東南アジアやインドの料理屋が並んでいる場所を訪れ、一番おすすめの店を決め、次の授業で共有した。

5 週目は、帝国博物館に行き、イギリスにおける戦争と平和について学んだ。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在先は一人部屋の寮だったのでプライベートの時間を確保できる。キッチンとシャワー、トイレは共用で、週に一回共用スペースに清掃が入る。

外食はとても高額な為、旅行に行く時とクラスのお別れパーティー以外はほとんど自炊をしていた。スーパーに売っているものではパンが一番手頃な価格なので毎日サンドイッチを作っていた。授業が終わった後は、スーパーで買い物をするか、マンチェスターの中央地区方面まで行き、図書館やサッカースタジアム、ショッピングセンターなどに行っていた。週末は大学が主催する



寮の部屋 (Hulme hall)

international society の旅行に行ったり、個人で企画して旅行に行ったりした。また、international society は放課後にお話会やアフタヌーンティ、クイズを企画しており、それらに積極的に参加した。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムに参加する上での目標として「語学力の向上」と「言語間の心理的な差異の研究」を目標に掲げていたが、これらはより多くの人的心情を知り、より多くの文化を理解することに生かすことができる。また、目標を掲げて行動することの大切さを改めて学んだ。この 5 週間という短い期間で、何を体験したいのか、何を学びたいのかを予め定めておくことがなりたい自分へ近づく方法なのだと知った。今に至るまで、大学生活の中で具体的に何を成し遂げたいのか、どういったキャリアを積んでいきたいのかを具体的に考えたことはなかった。この短期研修は、なりたい自分になる為の将来の目標について改めて考え直す機会となったのだ。そして、この研修プログラムを通して何よりも人との繋がりの大切さに気付かされた。クラス内のメンバーや international society のイベントで知り合った人たちと毎日顔を合わせ挨拶を交わしていたが、その「繋がっている」という事実が自分に活力を与えていた。人との繋がりは人生を豊かにさせ、それは自分の財産となる。この学びを元に、残りの大学生活や社会に出た後も、人との繋がりを大切にする努力を絶やさないようにしたい。

以上

## マンチェスター大学での研修に参加して

文教育学部 人間社会科学科

3年 近藤 真鈴

### 研修に参加した動機

自身が設定した研修の目的は大きく 3 点あり、①スピーキングを中心とした英語能力の向上、②海外学生・現地住民との交流を通して視野を広げること、③英国の市民コミュニティにおける文化伝達のありようを実践的に学ぶことを求めて参加した。研修への参加を直接的に後押しした要素としては主に 2 点あり、第一に 1 年次に参加した米国 Gonzaga 大のオンライン研修プログラムにおいて、現地大の教授との英語での意見交換に刺激を受け、馴染んだ言語と空気感に満ちたコンフォートゾーンを脱した学びの場に入りたいと考えたことが影響している。第二に、企業の面接や英語で展開するグローバル文化学環の授業、海外からの観光客と英語で話す場面の多い巫女のアルバイトにおいて英語を実践する機会に恵まれたことも大きな要因である。この研修を通して英語を使う機会をシビアに設けながら、英語を多用する職や海外のポジションに就くイメージをつかみ、海外生活への適性を見極めることも期待していた。

### 事前に準備したこと

#### ・英語でのコミュニケーション能力向上

英語でのディスカッションを行う授業を履修・聴講したり、YouTube や新聞などを用いたりして、日常的に英語に触れる機会を設けた。また、少ない回数ながら学内で開催される留学生との交流イベントや英語カフェに参加した。

#### ・留学生活に必要な物資の調達

クレジットカードの作成や大容量スーツケースのレンタル、その他留学先にて寮生活を送るのに必要と思われるものを準備した。7 月はテスト期間や諸活動の繁忙期と重なり、思うように準備時間を取ることができなかったが、マンチェスター大学が公開している Web 記事や過去の研修参加者の声を参考にして必要なものを選定した。

#### ・奨学金の応募

私は JASSO やお茶大の奨学金ではなく、「『埼玉発世界行き』奨学金」というグローバル人材育成センター埼玉が提供する給付型奨学金制度を利用した。これは最低 1 ヶ月の留学について最大 50 万円の支給がなされる大変良心的な制度であり、埼玉に所縁のあるお茶大生にはぜひ応募をお勧めしたい。私自身は 5 週間の留学で 50 万円を頂いており、寄附者の企業様には大変感謝している。この奨学金を受給するため、基本的な留学準備と並行して書類と面接での選考に参加した。

### 研修プログラムの内容(授業について)

事前のプレイスメントテスト等の結果をもとに、10人から15人ずつのグループに分かれて日々のレッスンが行われた。私のクラスにはお茶大・上智大・成蹊大の日本人の他、中国人や台湾人が参加していた。月曜から木曜は一日3コマ(10:00～11:30、12:00～13:30、14:30～15:30)であり、“General English”と称して英語4技能を伸ばすレッスンと、“British Culture and Communication (BCC)”と称して英国文化について学ぶレッスンがあった。それぞれ担当する講師は異なっていたが、2人とも非常に優しく面白い方で、クラスの雰囲気もとても良く、魅力的な環境で学習を進めることができた。授業でテストを行うことはなかったが、ミニゲームなどで既習事項を確認する場が設けられていた。なお、研修プログラムの詳細が現地から送られてきたのは渡航日の4日前であった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

金曜には、BCCの授業の一環で教室外に課外活動に出かけた。事前学習を行った上で博物館、美術館、図書館やレストランの並ぶ通りなどを訪れ、職員や店員と会話するのは面白く、また博物館等の訪問を通しては自身の研修目的である③英国の市民コミュニティにおける文化伝達のありようを実践的に学ぶことに関する学びを得ることができた。

休日にはマンチェスターの他、ロンドンやウィットビー、コッツウォルズ、デアズベリーといった英国の各所を訪れた。マンチェスターは英国の中心部に位置するため、南北に散らばる観光地への移動は比較的容易だった。なお、来年度の開催有無は不透明だが、留学生向けのイベントを企画・運営してくれる大学内の組織があり、研修費用にはその組織が主催するトリップの交通費が約2回分含まれていたため、一部の訪問ではその制度を利用した。トリップの訪問先は複数の選択肢から自由に選ぶことができた。

放課後や休日には自由時間が多く得られたので、自分たちの好きなように予定を組むことができた。また、クラスのメンバーはそれぞれプログラムの開始時期や期間が異なっており、入れ替わりが頻繁にあったため、毎週1回程度はウェルカムランチ/フェアウェルパーティーを行っていた。生活費を抑えるため、友人との外食以外は自炊に努めた。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

Hulme Hallというマンチェスター大学の学生寮にて、洗面台、ベッド、クローゼット、勉強机が備え付けられた部屋を1人1室割り当てられた。一人部屋だったので安心して使用することができた。キッチンや冷蔵・冷凍庫、シャワーやトイレ、洗濯機や乾燥機は共用だったが、大きな不便は感じなかった。ただ、トイレトイレットペーパーの入れ替えやトースターの故障などについては自分たちで対応を依頼する必要があった。また、火災報知器が焦げた食品の煙に反応し、深夜に作動することが複数回あった。また、1階の部屋だったので一度シェード越しに窓を叩かれたことがあり、その時には少し恐怖を感じた。

寮の近くには安めのスーパーが複数あり、付近にはレストランやカフェ等も多かったため食事に

はあまり困らなかった。私自身は自分で包丁や食器類を持参したが、寮にも一定数の用意があった。食器洗剤やスポンジは持参しない限り購入する必要があった。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムを通しては、研修の目的①に関連して、特にコミュニケーションや日常生活における英語力の重要性に気づくことができた。会話におけるちょっとした切り返しの有無がその次に来るコミュニケーションの質を左右することも多かった。また、英語を多用する生活は自分の視座を揺さぶられるようで純粋に楽しく、英国での生活も充実していたため、将来的にはグローバルな社風の企業での就職にも目を向けながら生活していきたいと考えている。目的②について、コミュニティを変えることで様々なトピックに関する視野が拡大・深化した。目的③について、博物館・美術館の訪問 18 カ所、図書館の訪問 4 カ所、街中で開催されているイベント(パラ水泳関連や蚤の市など)への参加 4 回、ミサへの参加 1 回、その他 Society への参加やチャリティーショップへの訪問を繰り返したことで、市民の手による文化伝達とコミュニティ形成・維持・活性化プロセスとの相互影響等について多くの学びを得ることができた。③にまつわる学びについては、地元や日本の文化振興に役立てる道を模索する他、大学での学修にも反映していく予定である。引き続き、今回の留学経験を自身の血肉にできるよう努力したい。

以上

## マンチェスター大学での短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

4年 今田 史桜

### 研修に参加した動機

留学をすることが私の長年の憧れだったからです。就職活動も終わりいよいよ卒業を意識するようになる中で、自身の大学生活の中でやり残したことがないか考えました。その時に、コロナ禍が理由で以前から興味があった留学ができていないことに未練を感じ、チャンスがあるなら、と4年生の夏に短期留学をすることを決めました。中でもマンチェスター大学を選んだのは、以前行ったことがあったロンドン以外の都市に行ってみたいという気持ちが強くあったことと、研修期間が他の大学と比べて少し長かったためです。

### 事前に準備したこと

学習面については渡航するまでの期間は卒論や資格勉強に追われ、満足に英語の勉強はできませんでした。それでも、時折 YouTube やポッドキャスト、TED で面白そうなコンテンツを視聴し、英語を聞くこと自体に楽しみを感じるようにしていました。持ち物など留学に持って行ってよかったと思うものは、ウルトラライトダウン、ラップとジップロック、常備薬、日本のお菓子です。昨年度の参加者の方からダウンを持参したほうが良いとアドバイスをいただき、半信半疑でウルトラライトダウンを持って行ったのですが正解でした。最初の2週間は朝の気温が特に低かったので、ヒートテックやダウンが重宝しました。ラップとジップロックに関しては、食材を保存するのに便利ですし、特にラップは日本のものが最も扱いやすいと思うので持っていくのを勧めます。薬は、留学中、疲れなど体調不良に見舞われる人も多かったのもので、そのような事態に自分が普段服用する薬が手元にあるととても安心です。最後に、日本のお菓子は持って行って良かったと思います。海外の学生との会話のきっかけや、お世話になった人にお礼を言う時に重宝しましたし、留学中は日本人も含めてたくさんの方と交流する機会があるので、気軽にプレゼントできるものがあって便利でした。その他、クレジットカードや sim、保険などの手続きがありますが、研修前に大学から説明があるので心配しなくても大丈夫だと思います。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は10時にスタートし、中休みと1時間の昼休みを挟んで15時半に終わっていました。内容は、午前中がリスニングや文法、リーディングをし、午後はイギリス文化について学んだり、ディスカッションをしたりしました。毎週金曜日は普段午前に行なわれている授業の代わりにイギリス文化を体感するために課外活動が行われました。クラス編成については、帰国したり新たに加盟したりしたメンバーがいたので日本人と海外留学生の割合は毎週変化しましたが、初週に日本人が最も少

なく、最終週はクラス全員が日本人でした。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

平日は、同じクラスの子たちが帰国する週に一緒に外食してお別れパーティーを開催したり、お昼ご飯をみんなで食べに行って、行ったことのないお店を開拓したりしました。また、毎週水曜日は Wednesday Social という国際交流イベントが学内で開催され、サマープログラムの参加者以外の留学生たちとも交流することができました。そこで、大学院生の方や違うクラスの研修生と出会い、大学付近のお勧めスポットなどを教えてもらったり、出身国のことについてお互いに話をしたりしました。休日は、International Society が主催する Trip に参加し Liverpool や North Wales、Whitby などに日帰り旅行をしたり、3 連休を利用してロンドンに旅行したりしました。(左図は London Bridge、右図は港町 Whitby で食べた Fish and Chips)



#### 生活全般について(滞在先についても含める)

学習面については、授業はお茶大の ACT クラスのような雰囲気でも楽しんで参加しました。スピーキング力については自分の力不足を感じることも多かったのですが、英語で話す環境に慣れていくにつれ、長めに話すことや、自分の意見を相手に伝えることができるようになっていきました。暮らしの面については、イギリスでの生活を全力で楽しみました。平日は放課後に散歩がてら美術館や図書館、公園に行き、その後スーパーで材料を買って帰宅し、約週 3 日の頻度で料理をしていました。週末は友人とランチを食べに行ったり、旅行をしたりしました。研修の中で最も印象に残っているのは、食事と旅行です。マンチェスターのスーパーでは野菜やフルーツ、チーズがとても美味しく安価だったのでよく買っていましたし、レストランやパブも素敵なところばかりでした。旅行については、毎週末さまざまな地域を訪れましたが、中でもロンドン旅行が今思い出しても笑みが溢れるほど最高の思い出となりました。メジャーな観光スポットに加え、マーケットで食べ歩きをしたり、アフタヌーンティーをしたり、人生初のスポーツ観戦パブに行ったりと濃密で刺激的な時間でした。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修中は「なんとかなるさ精神」の大切さを強く実感した期間でした。実は留学中、スーツケースの鍵が壊れて急遽新たに購入したり、鞆の中で水筒が真っ二つに割れて電子辞書が水没したり、帰国3日前にドライヤーが突然故障したりなど「そんなことある?!」と言いたくあるようなトラブルやハプニングにその他多数遭遇してきました。その度に少しショックは受けましたが、まあ、命やパスポートは無事だから大丈夫だ、と思って困難を乗り越えてきました。「海外」「寮生活」という多少なりともストレスがかかる環境で全てを真剣に捉えすぎていると身が持たなかったと思います。大変なこともいいネタとして周りの人に面白おかしく話してみたり、平気な態度で受け止めてみることで、事態に落ち着いて対応できましたし、深刻な状況こそ楽観的に、おおらかな気持ちで問題に向き合うことの大切さを学びました。また、そういった中で助けてくれる人、心配してくれる人がいることのありがたさも、とても身に染みました。これらは、これから人生を生きていく中で大変なことに直面したときに、必ず私を助けてくれる学びだと思っています。

以上

## イギリス・マンチェスターでの英語学習と文化学習

生活科学部 人間生活学科

2年 山田 有紗

### 研修に参加した動機

英語を話せるようになること、イギリス文化を体験することを目的に参加しました。英語を使った授業はお茶大にもありますが、英語圏に行って授業はもちろん日常から英語を使い、話す力をつけたいと考えました。また生活文化学講座に所属し比較文化論に関心があり、日本文化及び海外の文化を真に理解するには現地に行き生活や文化を実際に見て感じる必要があると思い、留学を決意しました。マンチェスター大学のプログラムはスピーキングとリスニングに重点を置くことからスピーキング力をつけたい私に適すると考えた他、世界の文化の中でもイギリスの文化に関心があったため、マンチェスター大学を選びました。

### 事前に準備したこと

留学のためではなく以前から取り組んでいたことですが、毎日英語のラジオ番組を聞いて耳を慣らすようにしました。日頃から英語を聞いていたことで日常的に英語が聞こえてくる状況への抵抗がなく、先生のネイティブな発音にもある程度ついていくことができました。また現地での様子や必要なものを把握しておくために留学経験者による相談会に参加したり、昨年の報告書を読んだりしました。特に相談会は、現金をいくら持つて行くべきか、服装はどうしたらよいか、どんな授業が行われるかなど具体的に聞くことができ、必要なものの準備や心構えをする上で非常に役立ちました。留学中にお茶大の課題に取り組むのは避けたいと思い、必死で課題を終わらせてから出発しました。課題を気にすることなく土日や放課後に外国の友達と出かけたり大学のイベントに参加したりできたので、頑張って終わらせて良かったです。

### 研修プログラムの内容(授業について)

月曜から木曜は1日3つの授業のうち2つがGeneral Englishという教科書に基づいた英語の学習、1つがBritish Culture and Communicationという教科書を使わない英語のアクティビティでした。前者では教科書の問いに対して音声聞いて回答したりディスカッションしたりする教科書を使った時間と、教科書の内容から発展して動画を見たり制作活動を行ったりする時間が半々くらいでした。制作活動では、例えば広告についての単元では実際にグループでCMを考え動画を作って発表しました。いずれも発言を促されたり周囲の人と話し合ったりと、英語を話す機会が豊富にあり、和気あいあいとしていました。自発的な発言が求められるため積極性も身についたかと思います。金曜日はマンチェスター内の図書館、博物館、ショッピングセンターなどに出かける課外授業でした。ほぼ毎週課題が出され、グループでスライドを作成して翌週の月曜に発表しました。マンチェス



ターに親しむことができとても楽しかったです。

私のグループには中国、台湾、イタリア、スペイン出身の人がおり、それぞれの国の文化も知ることができました。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

International Society という大学の団体が開催する、毎週水曜にゲームをしながら様々な人と話したり、アフタヌーンティーをしたりする Weekly Social、週末に他の都市にバスで訪れる Day Trip がありました。Weekly Social は、大学が休暇中のため現地の学生は少ないですが、留学生など他の国の人と英語で交流ができる貴重な機会でした。Day Trip は様々な行き先の選択肢があり、自力では行くことが大変な遠い場所や田舎も訪れることができるのが良かったです。£ 60、約 2 回分まで費用の補助があるのも助かりました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

寮ではキッチン、トイレ、シャワールームはお茶大生 15 人で共有し、有料の洗濯・乾燥機は同じ寮の他大生とも共有しました。キッチンやランドリールームはから合って混雑することはありましたが、時間をずらすなど工夫したため非常に困るということはありませんでした。一人部屋のため自由時間や睡眠時間を自分のペースで持つことができ、生活リズムを崩すことなく過ごせたのが良かったです。

食事に関しては、大学と寮の間にあるスーパーで買い出しをして調理することが多かったです。日本では見かけない食材を見つけ調理して食べてみるのはとても楽しかったです。お店での食事は高額なため頻繁に外食することはできませんが、イングリッシュブレックファースト、フィッシュアンドチップス、アフタヌーンティーなどイギリスらしい食事は体験するようにしました。日本ではできないことをしようと心がけたことで現地の食文化を体感できたかと思います。

授業後はグループの仲間とマンチェスターを散策しました。最後の 2 週間は日本人だけになってしまうことが分かったため、他の国の人がいるうちにできるだけ交流したいと思い、昼ご飯や放課後はできるだけ彼らと一緒にいるようにしました。自分より英語力のある他国の人とコミュニケーションをとることは難しくもありましたが、日本語を使えない状況に身を置き英語でなんとか意図を伝えようという努力をした結果、英語で話すことへの抵抗感や苦手意識が薄れ、英語で話すことへの楽しさをより感じられるようになりました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

英語に関しては、まず間違いを恐れずに話してみることが重要だと思いました。自分が正しいと思っていた発音や表現が伝わらなかったり、英語だと思っていた言葉が和製英語だったり、話してみることで発見がありました。うまく伝わらない時に別の言い方を考えて伝わるまで努力するのも良い経験でした。これからも授業や語学カフェなどで英語を話す機会をできるだけ持ち力を磨き、

将来外国の人とも英語でコミュニケーションをとりながら働く仕事ができたら良いです。

日本と違う食生活を体験したり、日本と外国の違いを感じたり、外国から見る日本の姿を学んだりすることができました。例えばイギリスのレストランでは食べきれなかったものを持ち帰ることができるのが当たり前で、フードロスが少ないように感じます。逆にイギリスの食事は私には塩分や油分が多く感じられ、和食が健康に良いことが理解できました。イギリスで生活したことで日本にも取り入れたい外国の良さにも日本の良さにも気づくことができ、もっと異文化・自文化への理解を深めたいと思いました。

以上

## マンチェスター大学短期研修を振り返って

文教育学部 言語文化学科

3年 志村 咲紀

### 研修に参加した動機

私が留学を決めた理由は、お茶大の授業で関わる多くの留学生たちが異国の地で明確な目的を持ち、生き生きと学んでいる姿を見ることで、私の中で海外で生活することに対する興味や関心が非常に高まったためです。実際に自分が留学生という立場になると、どのような景色が広がるのか体験したいという強い思いを持ったことが今回の留学を決めた大きな要因です。また指導してくださる先生方がイギリスとの縁が深かったことが、イギリス・マンチェスター大学への留学の決め手となりました。

### 事前に準備したこと

イギリスの文化や慣習、宗教、歴史、教育事情など、イギリスに関する基礎的知識を調べたり、授業で学んだりしました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は5つのクラスにレベル別で分けられました。5月下旬にマンチェスター大学の先生と1対1のオンラインでのプレイスメントテストがあり、それを基準にクラス分けがされます。私のクラスは最初、中国からの留学生4人、お茶大生4人でした。毎週、日本から新たなクラスメイトを迎えたり、もともといたクラスメイトとお別れしたりするなど、どのクラスもメンバーの出入りが多くありました。授業は学習者である私たちが中心のコミュニカティブなアプローチがとられていました。授業の導入は、私たち生徒が週末に様々な場所へ観光しに行ったり、異国の地での不慣れた生活で感情が動く多くの場面があることを想定して、生徒間で意見を交換し合うインフォメーションギャップの活動がメインでした。トピックが旅行に関することや日常で起きた事象など、大変身近であったため、モチベーションを高く持つことができ、意欲的に英語を用いてコミュニケーションすることができました。また、授業は基本的に教科書を用いて進みます。教科書の内容と関連した動画を視聴したり、文法練習のためのペア活動をしたり、生徒が新出文法を用いて書いた作文をクラスで回して、さらに文を追加して、ユーモアあふれるライティングの授業が展開されたり、新出単語をなるべく使うようにスピーキングの活動を増やしてくださるなど、アウトプットが多い授業でした。机の配置もコの字型で生まれ、先生とコミュニケーションがとりやすいように工夫されていました。そのため、クラスの雰囲気や先生と生徒の距離感は大変心地の良いもので、現地の大学の授業にすんなりとなじむことができました。宿題は授業内容に関する読み物を読んだり、明日の授業で使う事前の下調べをしたりするなど、比較的短時間で終えることができるものが多かったです。

## 研修プログラムの内容(課外活動について)

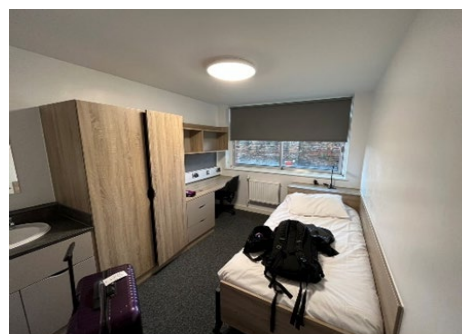
課題活動は主に International Society という大学内の団体が行っている活動に参加しました。毎週末に日帰り旅行の企画があるので、自分の行きたい場所がある場合は予約します。私は International Society を利用して、Cambridge と Cotswolds, Whitby という場所に行きました。週末は天気にも恵まれることが多く、イギリスの豊かな自然や大切に育まれた文化や伝統を十分に味わうことができました。イギリス各地を巡ることで、イギリスの様々な街の姿を見ることができます。訪れたほかの街と比較して、住んでいるマンチェスターがどのような特徴を持つのか、身をもって体感することができ、さらにマンチェスターが好きになりました。自分ではなかなか行きにくいところやガイドの有無など、条件をよく確認して International Society での日帰り旅行を予約することを勧めます。また、平日はマンチェスター市内を散歩して図書館や博物館などに行ったり、授業で交流のあった友達とご飯に行ったりしました。イギリス国内には無料で入館することができる博物館や美術館が多くあります。日本では美術館や博物館に対する敷居が高い印象がありますが、イギリスではアートや歴史を身近に感じることができました。また、友達になった中国からの留学生に中華レストランに連れて行ってもらったり、日本のレストランでおもてなしをし、日本料理について知ってもらったり、異文化交流をすることもできました。同じお茶大から留学した人とも様々な価値観や考え方を共有することができ、大変刺激的な毎日を過ごすことができました。



↑ International society  
で行った Whitby という場所

## 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在先は大学から徒歩 15 分ほどの大学の寮でした。キッチン、お風呂、トイレは共用ですが、基本的には個室で過ごします。個室はクローゼット、机、ベッド、水道など生活するうえで欠かせないものは完備されています。トイレやシャワーなどは、日本で使用するものと同じようにすべて機能的にはいきませんが、その点は順応していくので問題ないと思います。またキッチンに行くと誰かしらお茶大生がいるので他のグループの様子を聞いたり、週末の旅行先の現地情報や、寮や大学近くの不審者情報を共有したりするなど、コミュニケーションをとりながらリラックスすることができました。



↑ 実際の寮の個室

研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回の留学を通して、バックグラウンドや年齢、性別、文化などが異なる人とも英語でコミュニケーションをとることへの自信が付きました。レストランやスーパーのスタッフに必要な情報を尋ねたり、現地での授業中に流暢でなくても積極的に英語を話したりすることを強く意識することで、自信を身に付けることができました。このスキルを大学生活や今後のキャリアへ活かすために、お茶大に来ている留学生と積極的に話したり、英語を話す場面に遭遇した時に積極的に交流することはもちろんのこと、そのような機会を作り出す努力をしたりしたいです。

最後に、このような素晴らしい留学の機会を与えてくださった大学と助言をくださった多くの方々に感謝申し上げます。

以上

## マンチェスター大学短期留学を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 松田 佑月

### 研修に参加した動機

研修に参加した動機は英語を使って実際に違う国の人とコミュニケーションをとってみたい、海外での暮らしを体験してみたいと思ったからです。

### 事前に準備したこと

事前に準備では TOEIC などの語学検定を受けて自分の英語レベルを測ったり、イギリスの文化についてインターネットなどで調べたりしました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私の参加したクラスはイタリア人、スペイン人、中国人、台湾人の人たちが参加していました。日本人としかあまり接してこなかったのが始めの方はとても緊張しましたし、色々な国訛りの英語を聞いたことがなかったのでは何を話しているのか理解するのが大変でしたが、授業を重ね関わっていくごとに段々聞き取れるようになっていきました。

授業は日本の大学の授業より大変だなと思いました。午前の授業はクラスによってスピーキング、ライティング、リスニングどこに重きをおいているのか分かれていて、自分の苦手なところを強化するための授業になっていると感じました。英語の中でも自分の苦手な分野を積極的にやらなければいけませんでしたが、授業では積極的に当てられたり、発言を求められたりしました。日本以外のプログラム受講生はとても積極的で、当てられていなくても発言するのでクラス自体の雰囲気に慣れるのに少し時間がかかりました。慣れた後は楽しく授業を行うことができました。単元がおわるごとに行う activity では自分達で考えた架空の製品の広告を作ったり、fake news を考えたりしました。午後の授業では英語で短編小説を読んだり、先生の作ってくれたクイズに答えたりイギリスの文化について学んだりしました。午前の授業より、午後の授業の方が生徒同士のコミュニケーションが取りやすく自分のこれまでの経験を話たりする時間が多かったです。自分の経験を外国の友達に話をするときは、文化の違いから上手く話が伝わらなかったりしました。今まで上手く伝わらないのは自分の英語スキルの問題だと思っていましたが、文化的な違いから話の内容が伝わらないことも多いのだと感じました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

金曜日の授業ではマンチェスターの主要な場所を巡り図書館や博物館を訪れました。図書館は気軽に本を読む場所というよりその空間自体が歴史的に大切な場所なのだと感じました。博物館

では展示の仕方が日本と違って、日本より親しみを持てる様に展示されていると感じました。International Societyを活用して水曜日の放課後にクラス以外の留学生と交流することができましたが、授業の関係から遅れて参加しなければいけないのが少し難点でした。また International Societyで行っている旅行にも参加し、ノースウェールズ、リヴァプール、ボクストンの三つの場所を訪れました。この旅行はバスで場所まで連れていってくれるので、安心して旅行することができました。他にも空いている休日はロンドンや湖水地方に旅行しました。マンチェスターだけではなく他の地域を訪れることで新たなイギリスの魅力を見つけることができました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

寮は一人部屋で快適に過ごすことができました。ただ部屋によってはとても暑かったり、寒かったり、部屋の窓が防犯上開かなくなっていたりしたので体温調節のできるものを持っていけばよかったと少し後悔しました。洗濯機はアプリを入れそのアプリに入金しないと回せないシステムだったので少し面倒でした。食事は日本から多めに持っていったものがあつたので安心して生活することができました。

普段の生活でバスを利用することが多かったですが、バスもタッチ決済であればクレジットカードが使えるのでタッチ決済のクレジットカードを持っていけばよかったと感じました。バスによって値段が違ったり、お釣りをもらえたりもらえなかったりしたので、現金を使う場合は自分でしっかり値段を確認してから乗車しないといけないと感じました。電車は日本でいう新幹線的立ち位置で、ネットで予約してから利用することがほとんどでした。日にちが近づいてくると値段が上がったりしますし、ストライキが計画されていて、行こうと思っていた旅行に行けなかったりしたので事前にしっかり調べてから予定を組むことが大切だと思いました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

この語学研修を通じて、語学や文化を理解する大切を強く感じました。英語がうまく話せなくてもコミュニケーションを取ったりすることはできますが、より深く相手を理解したり、楽しい時間を過ごすためには英語を話せるということが重要だと思いました。また文化を理解していないと何気ない会話の内容を理解できません。語学力と文化の理解力どちらも上げることが大切なのだと感じました。そのため今後はより一層語学学習に力を入れ、文化についての知識も深めていきたいと思います。また将来海外で暮らすという選択肢はあまりありませんでしたが、今回の研修を通して視野に入れようと思いました。海外での生活はハードルが高いと思っていましたが、一度海外での生活を体験したことで将来また体験してみたいと思うようになりました。

以上

## マンチェスター大学の English Summer Program に参加して

生活科学部 人間生活学科

4年 植木 七海

### 研修に参加した動機

就職後に長期間海外に行くことは難しいため、大学生活で留学を経験したいと思いました。

### 事前に準備したこと

語学に関して行ったことは3つです。

1つ目がオンライン英会話による英語力向上です。以前からオンライン英会話の受講を通して英語を話す機会を持っていましたが、留学3ヶ月前からネイティブと1日2回以上話し更なるスピーキング能力の向上に努めました。自分の発音の癖や、ネイティブが使う実践的な言い回しを少しずつ理解・習得し留学に備えました。

2つ目がリスニング力向上で、イギリス英語特有の発音や言い回しを学ぶために YouTube を活用しました。

3つ目は TOEIC の受験です。自分の英語力を計り、留学までの期間に苦手克服(語彙力向上)をすることに役立てました。

生活に向けて準備したことは、情報収集と日本食の準備です。昨年度の報告書を読んだり、実際に行った方からお話を聞いたりして、寮生活やイギリスの気候などの情報を集めました。また米やインスタント味噌汁を中心に簡単に使える日本食を持っていきました。帰国時に日本食の重量分をお土産に回せる点でも多めに持って行ってよかったと思います。

### 研修プログラムの内容(授業について)

午前中はディスカッションやリスニング、文法など英語力向上、午後はイギリスで有名な商品や話、マンチェスターにある施設やそのホームページを活用した文化学習と内容が分かれています。午前中の授業では、教科書で文法や実践的な語彙を学べる他、先生がくださるプリントや授業中の生徒の発言に対する訂正を通して新しい語彙や表現方法を知る機会がありました。文法や語彙を学ぶ座学よりも、学生同士で話したり、発表したりする機会が多く、スピーキングやリスニングが向上したと思います。コの字型の席配置だったため、先生からの質問に積極的に発言しやすかった点もよかったです。午後の授業でも、リスニングやスピーキング力が向上したと感じます。

金曜日は課外活動を行いました。マンチェスター市内の中心地に集合して、ショッピングを課題に沿って行ったり、美術館や図書館をガイド付きで回ったりしました。自分たちだけでは得られない知識を得ることができたと思います。



### 研修プログラムの内容(課外活動について)

International Society が主催する水曜日と金曜日のイベントに参加しました。マンチェスター大学・大学院の学生と勉強している内容や祖国のこと、趣味など多岐にわたる話をする中で英語を話す機会をたくさん得られました。また水曜日のイベント後に夕食に誘ってもらい、自分の専攻である労働や家族、社会保障などに関するより深い話をできたことも貴重な経験だったと感じます。クラスメイトの中国人とも、一緒に食事に行ったり放課後に出かけたりする際に英語を使ってコミュニケーションを取る機会がたくさんありました。クラス全員で中国料理店や日本料理店に行き、お互いの実際の食事との違いを話したり、文化について教えあったりしたことも貴重な経験だったと思います。放課後や休日はすべて自分の裁量で時間を使えるため、たくさん旅行しました。1週目の土日から、中国人の友人と一緒に1泊2日の旅行に行くなど、長時間を共に過ごしコミュニケーションが取れる機会を作れました。マンチェスターは利便性が非常に高く、様々な都市に日帰りで旅行に行くことができます。電車やバスのチケット、ホテル手配や旅程などを自分たちで全て考えなければならぬため、計画的に物事を進める経験をたくさん積めた点でもよい経験でした。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

物価の高さから自炊によってできるだけ出費を抑える必要があったため、外国人の友人と交流できるときのみ外食をしたり、複数日旅行に行く前に食料を使い切ったりとメリハリのあるお金の使い方を意識しました。食事以外にも、洗濯は大人数で洗濯機・乾燥機を共有することから時間帯や曜日を考慮する必要がありました。また当初、寮の掃除やリネン交換の頻度がわからず、こちらから尋ねる必要があったほか、寮のトイレのトイレトペーパーが出てこない際に修理を依頼するなど、こちらから働きかけなければ快適な生活を送りづらいという場面が少々あったため、自己主張の大切さも学びました。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

プログラムを通し、英語学習のコツや積極性、自主性・計画性を学び身につけられました。今後の学生生活やキャリアに、短期留学を通して学んだ学習方法や積極性、自主性を繋げたいです。今後は自ら学ぶ意思を持ち、勉強方法も考えねばならないため、留学を通して学んだ英語の有意義な学習方法を実践していく他、英語以外の学習にも頭や口、手を実際に動かして学習していくという方法を役立てていきたいです。授業中の発言や友人作りで培った積極性は、残りの大学生活や就職先で自分の意見や考えを常に持ち臆さずに発言していくことに生かしていきたいです。さらに寮での生活や放課後の活動、個人的な旅行などを通して高まった自主性も、今後のキャリア形成などに非常に役立つと感じています。

以上

## マンチェスター大学短期留学を終えて

生活科学部 人間環境科学科

2年 森 麻里那

### 研修に参加した動機

私はこれまで海外に行ったことがなく、大学生のうちに行ってみたいと感じていた。中でもイギリスを選んだのは、映画や音楽、建築などイギリスの文化に興味があるからだ。それに加えて、英語の聞き取りや会話の力をつけたいと思ったから。きっかけは、アルバイトで外国人観光客の方の接客のとき咄嗟に言葉が出てこなかったのを体験して、学校で英語を勉強してきても、会話力が足りないと感じ、実際に海外に行き英語を使う生活を送ってみたいと思ったから。

### 事前に準備したこと

持ち物を事前に確認して、外貨両替をして、海外用のデビットカードを作り、コンセントやドライヤーなどは海外用のものを新しく買った。英語に関しては、英語学習に関連する Instagram の投稿や動画を見たり、オンラインの英会話を 5 月くらいから始めたりして、英語を聞き話す練習をした。

### 研修プログラムの内容(授業について)

1 グループ 10 人ほどのクラスで、月曜日から木曜日の 10:00~13:30 は主に文法の授業、14:30~15:30 は英国文化の授業を教室で受けた。文法の授業では、教科書を使って、語彙の確認やリスニングの練習、ディスカッションをメインにスピーキングの練習をした。グループは全部で 5 グループほどあった。私のグループでは、ペアでのディスカッションが多く、ペアで話し合ったことを全体に共有する形で授業が進んだ。話し合いの機会が多くリスニングとスピーキングの力が鍛えられた。グループには最初、7 人の海外の生徒がいたが、プログラムの滞在期間の違いなどの関係で、最後の 2 週間は日本人だけだった。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

毎週金曜日は、午前中にマンチェスターの街を散策する授業で、近くの図書館や博物館、中心街のショッピングモールなどに行った。翌週の月曜日に、金曜日に行った場所についてのプレゼンテーションがあった。街中にある銅像や歴史的な建造物などをみることができ、マンチェスターの歴史を知ることができた。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在場所は Hulme Hall というマンチェスター大学の寮だった。学校までは徒歩 20 分くらいで、近くには Lidl という安いスーパーがあり、よく利用していた。大学寮は、キッチン・トイレ・シャワー室

が共同で、同じフロアにはお茶大生のみが住んでいて安心だった。洗濯機が少なくそこは少し不便だったが、割と快適に過ごせた。平日の放課後は、同じクラスの留学生とカフェに行ったり、市内の中心街のショッピングセンターや美術館、博物館などに行ったり、街を歩いて散策したりした。特に、美術館や博物館は無料で入れることが多くさまざまな展示を見ることができた。また、夜には仲良くなった留学生が、パブやクラブに連れて行ってきて、イギリスのパブ文化に触れられた。毎週水曜日と金曜日の放課後は、International Society に参加して、さまざまな国の留学生と話したりゲームをしたりした。週末は International Society 主催の旅行に参加したり、自分で計画を立てて旅行に行ったりした。毎週末を旅行に使い、私は North Wales, Chester, York, Cotswold, London, Liverpool, Oxford に行った。特にホリデーがあった週は三連休だったため、金曜日の午後から月曜日まで同じクラスの友達とロンドンに行った。有名な観光地はもちろん、私はハリーポッターのファンなので、ロケ地を巡ることができ楽しかった。旅行中はアフタヌーンティーやフィッシュ&チップス、イングリッシュブレックファースト、サンデーローストなど、イギリスの食文化も体験できた。週末は授業もなく自由時間なので、この機会にいろんな場所を訪れてみるといいと思う。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

授業でのディスカッションを通して、自分の意見を持ち表現する力がついた。ある問題について考えるとき、それに賛成か反対か、なぜそう思うのかをよく考えるようになり、相手の意見を聞いて納得するだけでなく、自分が何を思っているのかも表現できるようになった。英語は、自分の発音では伝わらないこともあったが、スペルを言ったりジェスチャーを使ったりしてなんとか伝え、諦めずに伝えたいという意思表示をすることが大切だと感じた。また、時間がかかっても自分がわかる言い方に変え、はっきり伝えると上手く伝えられることが多かった。また、留学を通して、日本と海外の違いを客観的にみることができた。例えば、エアコンなどは、日本製が使われているところが多く、日本の技術が認められていると感じた。また、トイレや公共交通機関は日本の方が使いやすいと思った。その一方で、イギリスでは日曜日などの休日はほとんどの店が夕方に閉まり、日本より働く人が休みの時間を大切にしていると感じた。

1 ヶ月という期間は、語学力をしっかりと上げるには短かったが、この経験を通してこれからの大学生活でも英語を話す機会を見つけて話すことに慣れ、会話力を上げたいと思うようになった。また、留学中に、初めて会う人に英語で話しかけたり、留学生の会話に入ったりすることで、以前より積極性や行動力が上がったと思うので、これからも積極的に人と関わりコミュニケーションをとる努力をしようと思う。

以上

## マンチェスター大学での研修を通して学んだこと

文教育学部 言語文化学科

1年 石川 珠生

### 研修に参加した動機

私が研修への参加を決めた理由は、自分のスピーキング力に自信がなく、海外で日常的に英語を使う経験をする事でスピーキング力を向上させたいと思ったからである。私は昔から人前で話すことが苦手で、英語の授業などで話すときにも自信を持てずあまり話せないことが多かった。そのため、この研修で英語を使う生活をする事でさまざまな語彙や表現を身に着け、現地の人と英語でコミュニケーションをとる自信につなげることができるのではないかと思った。

また、私は小さい頃から不思議の国のアリスが好きで英文学に興味を持っていることから、イギリスに留学に行きたいと考えていた。アリスの著者であるルイス・キャロルにゆかりのある場所を訪れることも、マンチェスター大学での研修で楽しみにしていたことの一つである。

### 事前に準備したこと

留学説明会で海外ではキャッシュレス決済が一般的という話を聞いたため、準備としてクレジットカードを作った。渡航先ではスーパーでの買い物やお土産の購入など、ほぼ全ての買い物をキャッシュレスで支払うことができた。また、大学内のカフェやショップは現金での支払いができなかったため、クレジットカードは渡航前に必ず用意しておくべきだと感じた。

英語力向上に関しては、リスニングの練習をした。動画やニュース、授業で使った英語の教材などを利用して、スピードの速い音声を聞く練習を行った。現地到着後も、ネイティブの話す英語は早くて聞き取れないことが多かったので、留学を考えている場合は早い段階から英語を聞く習慣をつけておくといいと思った。

持ち物に関して、服は半袖を4着と長袖を2着、食料はパックのご飯を8食分、その他はタオルや変換プラグ、化粧品、ドライヤー、文房具などを持って行った。私が渡航した際は気温が低い日が多く、途中で厚手の服と上着を買い足した。渡航前に現地の気候をよく調べ、調節しやすい服を持って行った方がいいと感じた。他にはシャンプーやボディーソープ、ティッシュ等を現地で買い足した。寮から大学までの道に何軒かスーパーやドラッグストアがあるため、日本から持ってこなかったものがあったてもあまり不自由に感じることはなかった。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は1日3コマで、午前中は英語を学ぶ General English が2コマ、午後はイギリスやマンチェスターの文化、生活などを学ぶ British Culture and Communication の授業があった。金曜日は午前中のみマンチェスターの美術館や博物館に行ったり、ショッピングをしたりする授業があった。

クラスは 6 つに分かれ、授業の内容はクラスによって差があった。私の所属していたクラスでは、スピーキングとリスニングに重点を置き、授業では先生や他の学生と話す時間や、教科書の音声を聞き取る時間が多く取られていた。思ったことをどう英語にするか分からず悩んだり、音声がうまく聴き取れなかったりしたこともあったが、先生が手助けをしてくれたり他の人と話し合ったりできたため、辛いと感じることは無かった。先生は親切で、クラスの雰囲気も穏やかだったため、授業はリラックスして受けることができた。また、授業は教科書ばかりを使うのではなく、アクティビティを多く取り入れながら行っていたことが印象的だった。

授業以外にも、週に数回ほど課題が出るがあった。内容は教科書の文章を読んでくるものや問題を解くもの、テーマに沿って話す内容を考えてくるものなどがあった。あまり時間がかかる課題はなかったので、特に負担には感じなかった。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

授業時間外には、international society という団体が行っているイベントや日帰り旅行に参加したり、個人で観光に行ったりした。International society のイベントは、毎週水曜日の放課後に現地の学生や他の留学生と話す Wednesday social や、金曜日に行うクイズやアフタヌーンティーなどがあった。Wednesday social では、さまざまな国・大学からの留学生と趣味やイギリスでの生活などの話をして交流した。日帰りの旅行では、コッツウォルズとオックスフォードに行った。個人では行くのが難しい観光地にもバスで楽に行くことができ、観光や買い物を楽しむことができて良かった。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

研修中は Hulme hall という寮に滞在した。部屋は広く、洗面台や大きな引き出しがあり便利だった。キッチンとシャワールーム、トイレ、ランドリールームは共用だった。洗濯機と乾燥機は大きく、料金も高かったので、2, 3 人で一緒に使っていた。また、キッチンが狭く、食事の時間には混んでしまい料理がしにくくなる点が大変だった。しかし、寮生活のため、困ったことがあったときに他の人と協力できて安心して生活できる場所はとてもよかった。

買い物は寮の近くのスーパーをよく利用していた。広くて品揃えがよく、生活に必要なものは大抵買うことができてとても便利だった。食事は基本的に自炊をしていたが、お昼はスーパーの meal deal を使って安く昼食を買うこともあった。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

5 週間のイギリスでの生活を通して、完璧な英語を目指すよりも自分の使える単語や表現を駆使して考えを伝える姿勢を身に着けることができた。以前の私は、自分の話す英語が間違えているかもしれないという不安から、積極的に英語で話したり書いたりすることがあまりできなかった。しかし、授業や日常生活でいろいろな人と会話をして、完璧でなかったとしてもコミュニケーションをとろうとする意志を持って自分なりに頑張れば相手は真剣に聞いてくれて、理解しようとしてくれることを実感した。外国語で話すときは正解を重視してしまいやすいが、今回のプログラムの中でそうした自

分の中のこだわりを和らげ、伝える相手に関心を持って、異なる人と考えを共有するというコミュニケーションの本質を改めて感じる事ができた。

今回得た学びは、今後の外国語の学習だけでなく、仕事や生活の中での人と接する時においても大きく役立つと考える。人との関わりの中で相手を尊重して歩み寄る姿勢をこれからも大切にしていきたい。

以上

## マンチェスター大学での短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

2年 藤波 泉月

### 研修に参加した動機

研修に参加した動機は英語のリスニング力とスピーキング力を向上させることであった。以前、カナダで1ヶ月間過ごした経験があり、日本にいるときには自分は英語が得意な方だと思っていたが、実際に英語を使って会話をしていると、話しかけられてもすぐに返事をするのができなかつたり、自分の伝えたいことがうまく通じないなど自分のスピーキング力の無さに気がついた。また、リスニング力に関しても、日常会話に限れば特別難しい文法や単語はほとんど使われていないのにも関わらず、スピードがはやく、聞き取ることに困難を感じたことがあった。そのため、イギリスでの研修を通して、英語に触れる機会を増やし、リスニング、スピーキングに重点を置き、英語でのコミュニケーション能力を養いたいと考えるようになった。

### 事前に準備したこと

英語力について特に準備したことはなかったが、生活に必要なレベルの英語力があれば実際に困ることはなかった。生活面での準備としては、余裕を持って持ち物を揃えた。出発のタイミングが大学の試験期間が終わってすぐだったため、直前で準備をすると焦ることになりそうだと考え、早めに必要なものを揃え、パッキングの準備をしておいた。わたしは日本から持っていったものは少なかつたが、特に何の問題もなかつた。また、こだわりがなければ、現地で購入するという選択肢もあるので、それほど持ち物の準備に注力する必要はないと思う。

### 研修プログラムの内容(授業について)

わたしのクラスはスピーキングとリスニングを重視していたため、授業の進め方は教科書に忠実に則ってというより、教科書のトピックに関連する事柄について意見交換やプレゼンテーションなどを交えたものだった。トピックは生活に身近なものであったため、自分の考えが主張しやすく、クラスメイトとのコミュニケーションが取りやすかつた。また、自分の考えを述べるだけでなく、相手の考えに対して反応したり、さらに質問をしたりすることを求められることが多かつたため、単なる意見の言い合いで終わらずに会話を続ける力が身についたと感じる。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

放課後や週末はなるべく部屋に籠るのではなく、外に出るように心がけていた。放課後には、近くにある美術館や博物館に行ったり、シティーセンターでショッピングをしたり、スーパーマーケットで買い物をしたりして過ごした。週末にはインターナショナルソサエティの旅行に参加したり、自分た

ちで旅行を計画したりして、毎週末日帰りまたは泊まりでの旅行に出かけていた。実際に街に出て行くと、英語を教えることに慣れており聞き取りやすい英語を話してくれる先生や自分と同じく英語を学んでいる留学生とは異なり、英語を日常的に使っていてスピード感があり、やや聞き取りにくい英語を話す人たちとやりとりをすることになるので、リスニング力が身についたと感じる。また、自分でホテルを予約したり、バスや電車のチケットを取ったりしたことも良い経験になったと感じる。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

寮生活が初めてだったので、始まる前は緊張していたが、一人部屋で、お茶大生が同じフロアにいたこともあり、安心して生活することができた。外食するとお金がかかるため、なるべく自炊するようにしていたが、スーパーで日本ではあまり見かけない食材を購入したり、それを使って料理を作ることが自分にとっては楽しく、息抜きにもなった。

#### 研修プログラムを通して学んだこと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

5 週間という限られた期間だったため、英語力が格段に上がったかというそうではないが、確実にリスニング力とスピーキング力は向上したと考える。毎日英語を使うという環境であったため、英語で話すことに抵抗がなくなった。また、実際に英語を使ってたくさんの人と会話をして、生活することができたという経験から、英語を話すことへの自信もついた。一方で、語彙力を高めてより自分の考えを具体的かつ正確に伝えられるようになりたいとも考えるようになった。そのため、研修が終了しても、英語学習を続けていきたいと考えている。また、イギリスと日本では文化や生活習慣などにさまざまな違いがあることを知った。この観点は大学で自分の専門分野について学んだり、自分の将来の働き方や生き方を考える上で活かせると考える。

最後に、今回の研修に参加するにあたり、お茶の水女子大学後援会の皆さまからのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

以上



## マンチェスター大学での研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 濱田 羽菜

### 研修に参加した動機

もともと留学に興味があり、4年で卒業すること、そして就職活動をしっかりとできる期間が欲しかったために、余裕のある二年の夏に行きたいと考えていました。マンチェスター大学を選んだ理由は、英語圏であることとカリキュラムにとっても興味がわいたからです。

### 事前に準備したこと

イギリスではほとんどカードで支払われると聞いていたので、クレジットカードを二枚作りました。実際には一枚のみ使いましたが、二枚持って行ったことはとても安心感が強かったです。また現金も三万円分用意しました。思っていたより友達と割り勘にすることが多かったため、現金も必要だと感じました。また事前に TOEIC を受け自分の英語のできなさ加減を知ることが大切にしていました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は月曜日から木曜日は、午前中は教科書を使った授業で、午後はイギリスの文化を学んだりスピーキング力を伸ばすためのクイズを行ったりしました。先生が午前と午後で別れていました。どちらの先生もとてもチャームングであったため、楽しみながら英語を学ぶことができました。金曜日は学校を出て、マンチェスター市内の施設を見学しました。マンチェスター市の歴史について学べたことはとても良かったです。私たちのクラスは、中国や台湾の子たちと学び、彼らは日本と夏休みの時期が異なるため先に帰り最後の週だけ日本人だけで学びました。クラスメイトとはみんなと仲良くなることができ授業時間だけでなく休み時間・放課後も楽しく過ごしていました。みんなにはとても感謝しています。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

水・金・日曜日に social event がありました。それぞれゲームではほかの国から来た卒業生留学生と交流したり(水)、マンチェスターについてのクイズをしたり(金)、学校が用意してくれたバスに乗って York や Liverpool などに行きました(日)。日曜日の遠出するイベントはいろんな地域がありました。自力で行くのかこれを使うのかの選択はとても大切だと感じました。ただ私の思い出として、たまたまバスで隣になった中国からきている留学生に勇気を振り絞って話しかけたら二時間ほどバスで話したこともあり、他の留学生と話せるチャンスではあると思いました。ただ旅行できる時間が決まっているのでゆったりしたかったら自力で行くべきだと思います。また social event でもっともおすすめなのは水曜日です。ゲームをしながら英語で話すので、日常的な英語をより使うことができたり、

いろいろな国の英語を聞くことになるのでとても勉強になりました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

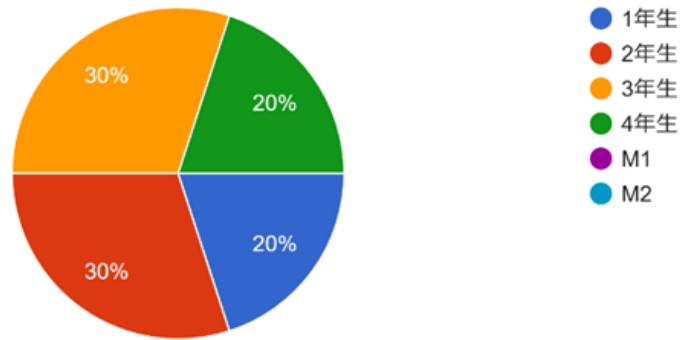
Hulme Hall というところに滞在しました。お茶大生はみんな一階に住み、15人でキッチンとお風呂を共有しました。部屋は思っていたよりとても大きく、荷物がおきやすかったです。ベットが少し硬かったり、お風呂の水圧が弱めだったりとするので少しストレスとなることもありますが、これも海外だと思えば何とかなるので大丈夫です。周辺は夜行型のように深夜一時に爆竹音が鳴ることも少しありましたが、生命的心配はありませんでした。基本的には自炊をしていました。友達と油など大きなものを共有するととても金銭的にいいと思います。桃や苺が安かったのでよく買っていました。お風呂は立ちながら上から出てくるタイプのシャワーでした。潔癖症の方だったらお風呂用のビーサンを持っていくことをお勧めします。持ち物ですが、荷物に余裕があるならキッチンペーパーを持っていった方が良いでしょう。現地でも買えますが普通に日本より高いので、軽くて重量にも優しく良いです。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

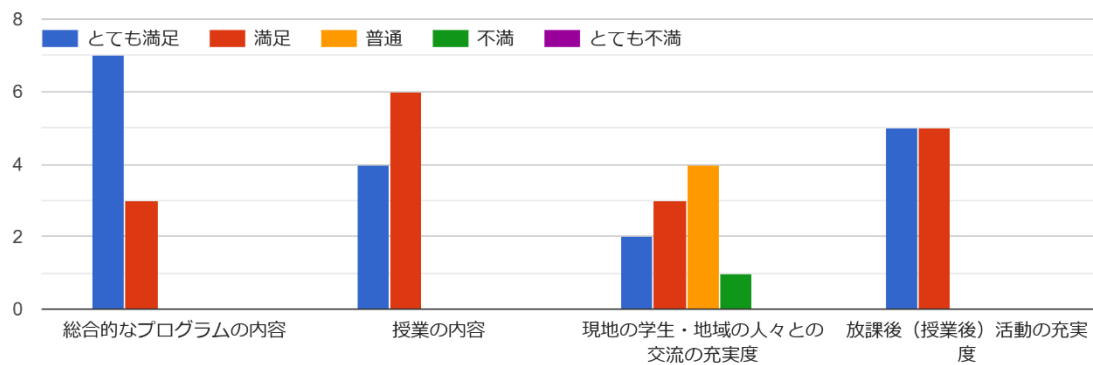
私がこの留学改めて様々な視点があることに気づきました。クラスメイトには自分と同世代の他の国から来た子がいましたが、興味ある社会問題が自国に関わることで、日本が重視していることとは少し異なっていました。また生活していても日本とイギリスでは働き方や過ごし方が全く異なっていました。一つの国で生活しているとその国だけが自分の見える世界だと考えがちで、自分たちの国では重要視していることがほかの国ではそうではない、そして反対のこともまたあります。そのようなことを実感することができました。このことを生かして、様々な視野を自分で持つことを意識し、グロ文として多様性についてもっと勉強していきたいです。

以上

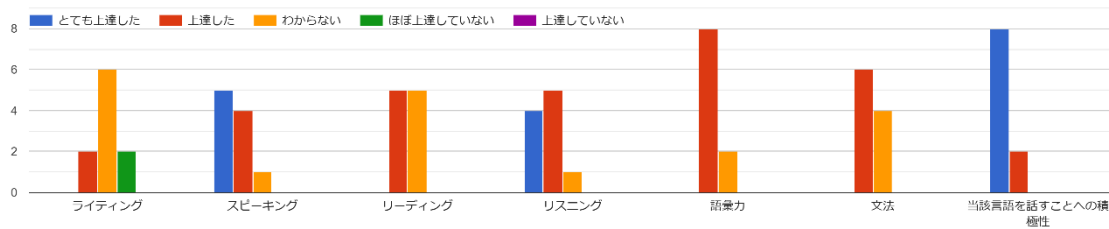
研修参加時の学年  
10件の回答



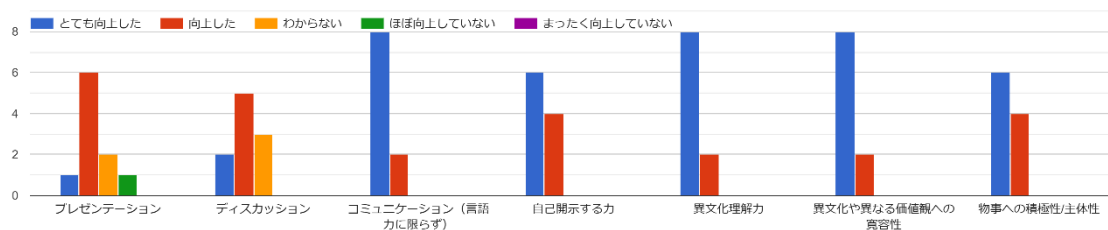
参加したプログラムの満足度について



海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・わたしはこの留学でスピーキング力とリスニング力を向上させたいと考えていたので、わたしのクラスの授業がスピーキングメインだった点が良かった。
- ・様々な国の人と授業内外でコミュニケーションをとることができ、英語を話す機会や異文化を知る機会を豊富に持つことができ点。International society の制度を利用し週末に国内旅行ができた点。
- ・他の国の留学生との交流で、英語でのコミュニケーション力が上がったと思う。自分から話しかけたり、話を振ったり、会話を続けたりすることで、英語力もちろん、それ以上に人と会話する力が上がったと思った。
- ・授業の中でスピーキングの時間が多く、積極的に英語を話す姿勢が身につく
- ・週末や放課後は自由に自分が行きたいところに行けたこと。
- ・海外に対する未知な不安が払しょくできた点。
- ・先生の教え方が非常に良かった点 放課後や土日の自由時間が長く、旅行などの課外活動をたくさんできた点
- ・コミュニケーションスキルが向上するイベントなどが用意されているところ、授業が主にディスカッションメインの為、スピーキングを実践的に学べる点。
- ・自由時間が想定より長く、自分の行きたい場所を訪問するために十分な時間があつたため。
- ・寮の綺麗さ、international society の充実したサービス

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください。

- ・少人数だったので、自分が話す機会が多かった。また、ゲームやクイズをしたり、プレゼンをしたりなど、教科書を使った学習以外にも充実していた。
- ・ディスカッションは発表など話すことがメインであるところ。自発的な発言が大いに評価されるところ。
- ・日本の語学の授業は、ライティングやリーディングがメインであり、話す機会がないが、この研修では、話す機会が多く、より英語を使う授業だった。また正しい発音を教えてもらったのがよかった。
- ・アクティビティを多く取り入れていて、楽しみながら言語を使うことができる授業になっている。

- ・積極的な発言が求められること。
- ・活動が中心になっているところ。
- ・語彙や文法を学ぶ際に、クイズ形式など実際に話す場をたくさん設けることで定着させようとしているところ/日本は座学が中心だと感じる
- ・日本の語学の授業は、講義メインであり、指名されるとテキストの答えを言う形である。現地の授業も基本的には同じであるものの、それに加えてこのトピックに関してどう思うかなどの自分の意見も言う機会が設けられる。また、答えの確認やその他全て英語で行うところが日本の語学の授業と異なる。
- ・スピード感、インタラクション
- ・授業への高い参加意欲が求められる点

#### 語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください

- ・特になし。空港やお店でのやりとりができれば問題ないと思う。
- ・日々英語を聞いて耳を慣らす
- ・英語を話すことに抵抗があると、授業でいきなり発言を求められた時、すぐに答えられなくてつらいかなと思うので、英会話など少し話す練習をすると良いと思います。また日常で使いそうな英語の言い方を調べて覚えておくと、現地でも使えます。
- ・リスニング力を鍛える
- ・外国人と英語で話す機会を少しでも設けるといいと思う。
- ・お茶大の英語の授業を履修しておくこと
- ・話す練習
- ・洋画や洋楽を見たり聞いたりしてある程度リスニングスキルをつけておいた方がいい。
- ・単語力
- ・天候に合わせた服装

#### 渡航先に持って行った方がいいものを教えてください。

- ・ハンガー、洗濯ネット、ラップ、ドライヤー(電圧対応のもの)、変換器など
- ・米(軽いのでアルファ米がおすすめ)、ハンドクリーム、トローチかのだし
- ・夏服と冬服の両方もっていく事をおすすめします。理由は天気や気温がとても変わりやすいからです。またドライヤーなどの電子機器は、コンセントの形状や電圧が異なるので海外用のものを用意して持っていく必要があります。また、洗濯の道具や洗剤、食器洗剤は寮にないので、持っていくといいです。
- ・室内履き、上着、調味料、パックご飯、ハンガー
- ・変換プラグ。エコバッグ。長袖の厚めの服と、半袖の薄い服。
- ・日本食(米、インスタント味噌汁、調味料等)、箸、エコバック、ハンガー、気温調整できる服

・折りたたみのハンガー、寒い時に羽織れるもの、ヒートテック、常備薬、クレジットカード、コンセントの変換器

・日本のお菓子、暖かい上着、Instagram アプリ

・ダウン

渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください。

・インターネットで調べた。

・留学経験者との交流会で質問する

・去年行った方の体験記を読む、マンチェスターの治安を Google で検索する、など

・留学相談会、留学報告書、インターネット

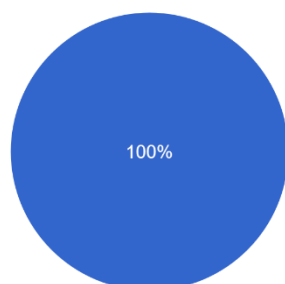
・報告書、インターネット

・主にインスタグラム、現地の人や友人のアドバイス

・昨年度の報告書

大学寮の部屋の構成を教えてください

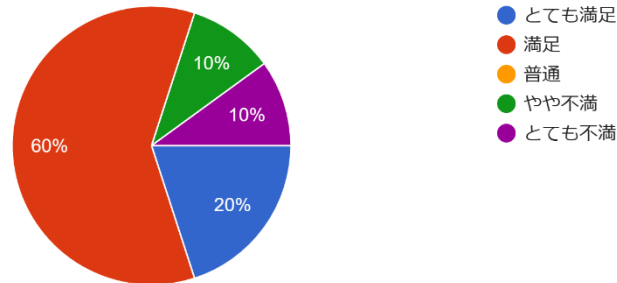
10 件の回答



- 1人部屋
- 2人の相部屋
- 3人以上の相部屋

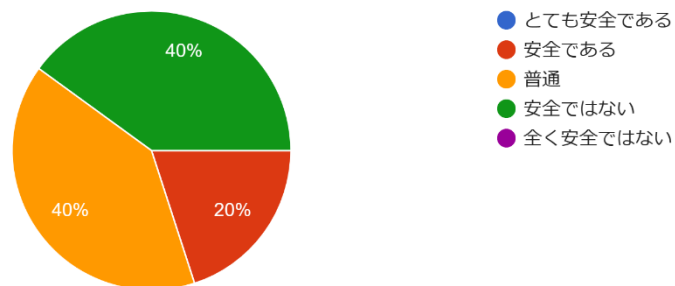
### 大学寮の満足度について

10件の回答



### 大学寮周辺の安全について

10件の回答



### 大学寮でよかったこと

- ・1人部屋だったこと。お茶大生が同じフロアだったので、共用スペースもある程度綺麗に保たれていたこと。
- ・一人部屋のため食事、睡眠、自由時間を自分のペースで確保できたこと。スーパーが近くにあったこと。
- ・部屋が一人部屋で、同じフロアにはお茶大生しかいなくて安心だったこと。
- ・何か困った時にすぐに友達と協力できる
- ・キッチンに行けば誰かしらいるところ
- ・キッチンに皿やカトラリーがあったこと 約1週間に1回リネン交換があったこと
- ・プライベートを確保できること、セキュリティがしっかりしている。
- ・広めの一人部屋であったこと。
- ・部屋の日当たりの良さ

### 大学寮で不便だったこと

- ・乾燥機や洗濯機代がかかる、台数が少ないため交代で使わないといけない
- ・外の夜中の騒音。寒さ。
- ・エアコンがない
- ・シャワー室の排水溝の詰まりやトイレの詰まりは、自分一人だけが気をつけていても改善されないこと、キッチンが混む、壁が薄い
- ・夜に花火のような音が頻繁に鳴ったり、部屋の窓を叩かれたりするなど周囲の治安があまりよくないように感じた。誰かが何かを焦がし過ぎた時には、深夜に火災報知器が作動して避難することも複数回あった。
- ・共同シャワーが不潔だったこと

### 「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・日本人はお辞儀をするなど態度で自分の気持ちを表すことが多いため、海外にいとそれが伝わりにくいことがあると感じた。また、知らない人との会話は稀だったり、それほど踏み込んだ内容の話はしないなど、奥ゆかしい国民性なのだろうと考えた。裏を返せば、他人との距離を置いているとも言えると考えた。
- ・比較的健康的な食生活を送っている。調和を大事にし自己主張をしない。
- ・日本人は、控えめで集団では手を挙げて発言する人が少ない。話し合いでぶつかることを避ける傾向にある。規則や時間をよく守る。見た目を気にしている。LGBT などジェンダーへの考え方が社会的にあまり受け入れられていない。
- ・時間や仕事に対して厳格、周りとの調和を重視する
- ・環境問題に対する取り組みが弱い。政治的関心が低い。健康に気を使っている。
- ・トイレがきれい
- ・日本人も思ったより多様性があること
- ・全体的に美意識が高く、身だしなみや街の景観に気を遣っている。ゴミ箱が街中にあまり設置されていないにも関わらず、概ね道路などは綺麗である。また、働くということに人生を捧げている人が多い。夜遅くまで働き、残業も行う為、日本は長時間労働をもっと問題にすべきだと感じた。プライベートな時間をもっと確保できるように変えていかなければならない。改めて日本が提供する顧客サービスは素晴らしいものであると気づいたと同時に、仕事とプライベートの両立をもっと簡単にできないだろうかと考えた。
- ・食事や日用品が安くて高品質、道が綺麗、教育課程においては、英文法や英単語の知識を詳しく学ぶ一方、日常的なコミュニケーションについて習得する場は少ない
- ・礼儀正しく、誤りの無さが求められる場面が多い、話す速さが相対的に遅い、ぶつかった時や道を聞かれたときの対応など、他人に対して若干冷たい人が多い(イギリスで出会った人々は皆とてもやさしく、日本人は他の国の人と比べて親切だ、というような世間のイメージと矛盾があった)



・何事にも真面目、丁寧な人が多い。

「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

・先述したように、日本では態度で自分の気持ちを示したりすることが多い一方で、イギリスでは口に出して伝える必要があった。さまざまな国の出身の人がいたり、マンチェスターにはゲイビレッジがあることなどから、多様性のある街であるとも感じた。さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集まっていて、イギリス以外の国のことも知る事ができた。

・家族との時間、友人や家族との関わりを大切にする。戦争や産業革命による環境汚染といった自国の過去の過ちに対しての反省が感じられた。

・お店の人がフレンドリーで優しい、信号無視は犯罪じゃない、レストランは先払いが多い、レストランで手を挙げて店員を呼ぶのは少し失礼、イギリス英語とアメリカ英語は全然違い、イギリスでアメリカ英語は伝わらないこともある

・初対面でもフレンドリー、個人主義的

・自分の見た目をあまり気にしていない。

・多人種多文化であるということ

・日本人以上に礼儀正しい人が一定数いる(ぶつかったときに必ず謝るなど)

・環境に関する意識が高い。スーパーで売っているものでもリサイクル可能な素材でできたりしている。人に関しては「定時で帰る」と言うことが当たり前であり、それに対し強い意識を持っている。働くということに対して、日本ほど重く受け止めていないのだろうかと感じた。日曜日は多くの店が閉店しており、夕方にはほとんどの店が閉まる。また、ほとんどの美術館や博物館には寄付箱が設置されており、そこには沢山お金が入れられており、他人に施すという意識も強いのだろうかと考えた。

・歴史的建造物が何らかの団体や人によって守られている。日本では人手不足で放置されているものも多い、スーパーの衛生管理などは日本よりも行き届いていない、朝昼晩の3食の合間に、道端のカフェなどでしゃべりながら snack を食べる文化がある

・細かいことは気にせず大らかな人が多い、日常的には問題なくむしろ自身も影響されてポジティブに過ごすことができたが、パーティーの割り勘などで少し気になることはあった、香水をつけている人が多い、目が合ったら見知らぬ人でも笑いかける、

・粗野な人が多い 愛想がいい

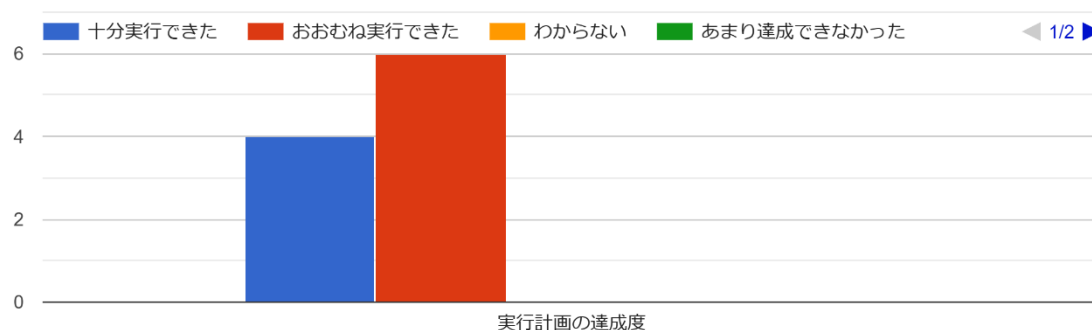
「自分」(コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など)について気づいたことを教えてください。

・英語を話すことに抵抗がなくなり、英語を使って会話ができ、生活することができたという経験から、英語を話すことへの自信もついた。簡単な単語でも相手に英語が通じて会話できることが嬉しかった一方で、語彙力を高めてより自分の気持ちや考えを具体的かつ正確に伝えるようになりたいとも考えるようになった。英語を使う機会を増やすために、人に話しかけるようにしたり、放課後や休日

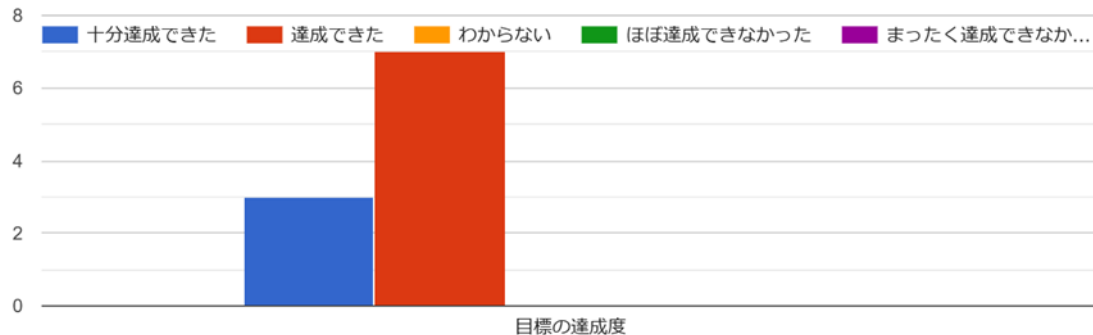
に部屋に籠らず外に出るようにしたので、積極性も高まったと感じる。

- ・日本では見ない食材や料理に挑戦する、日本について書かれた外国の本を手取るなど、日本との違いや外国から見た日本の姿に関心を持ち積極的に学ぼうとしている自分に気づいた。
- ・海外の留学生との会話を通して、どうやったら会話がつづくか、どんな会話を振ろうか、などを考えて会話などのコミュニケーション力が上がったと思う。異文化理解は、海外の友達がいることもあり、違いを感じても、受け入れ難いことは特になかった。
- ・うまく言葉が出なくても工夫して伝えたいことを表現する力がついた。自分の文化との違いに対し、優劣をつけるのではなく順応しようという姿勢が身についた。
- ・英語で話す方が積極的になれる。
- ・見るもの感じるもの全てが新しい環境では、人とコミュニケーションをとると安心するということに気が付いた。
- ・自分の性格や常識とあまりにもかけ離れた人と過ごす際の感情の変化が学べた
- ・留学前の自分は他人に一つ壁を隔てながら接することが多く、新しい人間関係を築こうとすることが苦手だったが、今回の留学を通して新しい人間を知りたいと思うようになり、人に気軽に話しかけに行けるようになった。英語に関して、以前は話す前に何を言うか考えてから喋っていたが、積極的に人に話しかけることによって考えるのと同時に喋ることができるようになっていた。
- ・向上心があり、吸収が速いことに気づいた。また、イギリスの文化に対する常識などは不足しており、国際理解のために教養として勉強する必要があると感じた。最も良かったのはマインドの変化で、慌ただしい日々の中でも自分にフォーカスし、一つ一つのことを負担にならない程度に楽しみ、最大限生かしていく重要性に気づくことができた。
- ・意外と忍耐力がある
- ・コミュニケーション力が高い

目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・英語でのスピーキング力が向上したこと、またそれに伴い英語学習への意欲が向上したことは、今後の自分の英語学習への取り組み方に変化を及ぼすと考える。また、イギリスでの働き方やライフスタイルが日本と異なることを知り、その観点は大学で自分の専門分野を学んだり、自分の働き方や生き方を考える上で活かせると考える。
- ・英語を話す事への抵抗感をなくせたので積極的にACT や語学カフェに参加したい。自分で気づいたイギリスと日本の相違点を比較文化学の授業で生かしたり自分でもっと研究したりしたい。
- ・ディスカッションをする際に、何を思うか、どのように自分の考えを伝えるか、を論理的によく考えるようになりました。これは国に関係なく、将来役に立つと思います。また初めて会った人と、会話を続ける力がつき、これから多くの人と出会っていく中で必要だと思います。
- ・新しいことに積極的に挑戦する姿勢
- ・このプログラムを通して、見知らぬ土地で自分から人に話しかけ、失敗を恐れず行動することの楽しさや大切さを実感した。これをこれからの活かして自分の興味のあることにどんどん挑戦できると思う。
- ・英語を話すことへ自信をもつこと。
- ・学習方法 積極性 自主性
- ・目的設定能力、窮地に立った時に対応する力、語学力、異文化への適応力
- ・人生の生き方と英語でのコミュニケーション能力。人生に数ある選択肢の中で、大学 3 年のこの時期に英語留学を決断したこと、また滞在先において行く場所や食べるもの、時間の使い方を自分自身で(これまでの経験にさほど依拠できない状況の中で)決める経験を積んだことで、自分自身の人生は自分の意志や行動次第でいろいろな方向に向かいうるのだと学んだ。自分は何がやりたいのか考える機会を持ち、自分なりに試行錯誤しながら頭と手足を動かして自分の道をマネジメ

ントしていく方法とその意義を学べたように思う。また、英語でのコミュニケーション能力について、単なるスピーキング能力ではなく、トピックについて自分の主張を持つこと、それを適切なタイミングで素早く発言できること、相手の文化的な背景を理解していること、聞き取れない場合には確認することなど、コミュニケーションを円滑にとるにあたって必要な細かいスキルをも向上させることができた。これから出会ういろいろなバックグラウンドを持った人との会話を活かし切るために、これらのスキルをさらに磨いていきたい。

・忍耐力 コミュニケーション力



## ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院 (イギリス)

研修期間：2022年8月21日～9月8日（3週間）

滞 在：大学寮

研修内容：国際関係学、メディア、英語ライティング・リーディング  
(コース選択制)

**International Foundation Courses and English Language Studies:  
Summer Programme 2023**



**International Relations - Block 3: 21 August – 08 September 2023**

**Subject lecturer: Maria La Falce (MF) Support Teacher: Etain Casey (EC)**

**WEEK 1: 21 – 25 August in Room S113**

Monday	Tuesday	Weds	Thursday	Friday
9.00 – 10.00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00
	Lecture Review EC		Lecture Discussion Group B MF	
10.00 – 11.00	10.00 – 11.00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00
<b>Welcome Talks; Meet Teachers</b>	Lecture Review EC	Lecture Preview EC	Lecture Discussion Group A MF	English for IR Group A EC
11.00 - 12:30	11.00- 12.00	11:00 - 12:00	11:30 - 12:30	11:00 - 12:00
<b>Tour of SOAS; Collect ID Cards</b>		LECTURE 2 MF & EC	Seminar MF	English for IR Group B EC
12:30 – 14:00	12.00 - 13:00	12:00 - 13:00	12:30 - 13:30	12:00 - 13:00
<b>LUNCH</b>	Lecture Discussion Group A	<b>12.00 Library Tour</b>	Lunch	
14:00 – 15:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00	13:30- 14:30	13:00 - 14:00
Lecture Preview EC	Lecture Discussion Group B MF	Lecture Review EC	Project Preparation MF & EC	Case Study MF
15:00 – 16:00	14:30 - 15:30	14:00 - 15:00	14:30 - 15:30	14:00 - 15:00
LECTURE 1 MF & EC	Seminar (MF)	Lecture Review EC	Project Preparation EC	Case Study MF
15:00 – 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:30 - 16:30
		<b>15.30 Social Event – meet in front of SOAS Main Building</b>		
	16:00 - 17:00	16:00 - 18:30	16:00 - 17:00	

International Foundation Courses and English Language Studies:  
Summer Programme 2023



International Relations - Block 3: 21 August – 08 September, 2023

Subject lecturer: Maria La Falce (MF) Support Teacher: Etain Casey (EC)

WEEK 2: 29 August – 01 September in Room S113

Monday	Tuesday	Weds	Thursday	Friday
9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00
		Lecture Discussion - Group B MF	Lecture Preview EC	Lecture Discussion - Group B MF
10:00 – 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00
<b>PUBLIC HOLIDAY</b>	Lecture Preview EC	Lecture Discussion - Group A MF	LECTURE 4 MF & EC	Lecture Discussion - Group A MF
11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00
<b>PUBLIC HOLIDAY</b>	LECTURE 3 MF & EC	Seminar MF		Seminar MF
12:00 – 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00
<b>PUBLIC HOLIDAY</b>			English for IR – Groups A & B EC	
13:00 – 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00
<b>PUBLIC HOLIDAY</b>	Lecture Review EC	Project Preparation EC	Lecture Review EC	Case Study MF
14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00
<b>PUBLIC HOLIDAY</b>	Lecture Review EC	Project Preparation EC	Lecture Review EC	Case Study MF
15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00
		English for IR – Group B EC		Study Trip -
16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00
		English for IR – Group A EC		Study Trip -

**International Foundation Courses and English Language Studies:  
Summer Programme 2023**



**International Relations - Block 3: 21 August – 08 September, 2022**

**Subject lecturer: Maria La Falce (MF) Support Teacher: Etain Casey (EC)**

**WEEK 3: 04 - 08 September in Room MB 4426**

Monday	Tuesday	Weds	Thursday	Friday
9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00	9:00 - 10:00
	Lecture Discussion Group A - MF		Lecture Discussion – Group B MF	Presentations MF & EC
10:00 – 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00	10:00 - 11:00
Lecture Preview EC	Lecture Discussion – Group B MF	Lecture Preview EC	Lecture Discussion – Group A MF	Presentations MF & EC
11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00	11:00 - 12:00
LECTURE 5 MF & EC	Seminar MF	LECTURE 6 MF & EC	Seminar MF	Presentations MF & EC
12:00 – 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00	12:00 - 13:00
				Presentations MF & EC
13:00– 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00	13:00 - 14:00
Lecture Review EC	English for IR – Group A EC	Lecture Review EC	Case Study MF	<b>Certificate Presentation &amp; Farewell - TBC</b>
14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00	14:00 - 15:00
Lecture Review EC	English for IR – Group B EC	Lecture Review EC	Case Study MF	
15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00	15:00 - 16:00
	Project Preparation EC	Independent Project Prep		
16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00	16:00 – 17:00



## ロンドン大学 SOAS での短期研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

2年 富永 絢子

### 研修に参加した動機

以前から授業中に先生が問いかけをしても反応しない人がほとんどである日本の授業に疑問を抱いており、議論することで授業を進めていくという海外の授業に興味を持っていました。しかし長期留学を考えるにあたり、長期にわたる海外での生活や大学の雰囲気にも漠然とした不安もあり、短期留学という形を選ぶことにしました。

また短期で学ぶのであれば語学研修ではなく英語で何かを学びたい、それも自分の専門とは違う分野を選びたいと考えて、どちらかという文系の分野に強くてお茶大では専攻できないメディアを学べる SOAS を選びました。この研修では今後どのように生きていくとしても関わりを持つであろうメディアという分野を Preview から学べるので予備知識がなくてもついていけそうだという点と、研修の最後には自分たちで動画の作成もするので技術を身につけつつ友人も作れそうだという点の 2 点も魅力的だと感じました。

### 事前に準備したこと

研修への参加を決める前から通常の英語の授業だけでなく、スピーキングに重きをおいた授業も履修するように意識していました。そして研修への参加が決まってからは、以前使っていたリスニング音源や YouTube のブリティッシュイングリッシュを使用している動画を活用してリスニングに取り組んだり、自己紹介や自分の考えを伝える練習などスピーキングのトレーニングをしたりしました。

また、プログラムの申込後に次の手続きに進むためのメールが来なかったり寮の備品として何かあるのかが不明瞭だったりしたので、よくわからないことは担当者とメールでやり取りをして全てはつきりさせるようにしました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私が選んだのは Introduction to Media というクラスです。授業はトピックごとに Preview、Lecture、Review、Tutorial に分かれていて、このサイクルを 3 週間で 6 回繰り返します。これに加えて最終日に、自分の選んだテーマに基づいて分けられたグループで街の人にインタビューをして 5 分間の動画にまとめたものを発表する場があり、この動画の作成に関する授業もありました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

1 週目に他のクラスの学生と共に大学近くのマーケットを訪れるイベントがありました。平日とはいえ活気にあふれた通りに並ぶ食べ物や小物、服などのお店をクラスメイトと回することで親睦が深められると思います。また、クレープやピザ、アイスコーヒーなど日本でもよく見る食べ物が多く売られて

いる上に先生の引率もあり、安心して楽しむことができます。これ以外には特にイベントなどはなく、放課後や休日は自由に過ごすことができました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

大学まで徒歩で30分ほどの学生寮に滞在していました。近くには鉄道のかなり大きな駅やいくつかのバス停、複数のスーパーなどがあり、快適に過ごすことができました。寮はシャワーとトイレ付きの個室と、6名程度で共有するキッチンという形で、キッチンには電子レンジやコンロ、冷蔵庫などの設備が揃っていました。

大学や寮がロンドン中心部にあることと交通網が発達していることから、授業後に美術館や図書館に寄っても日没までに寮に帰ることができたので安心して充実した放課後を過ごせました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう活かしていくか

プログラムへの参加を通してメディアという身近なものの長所・短所を多角的に議論した経験から、あることについて分析するにはそのトピックをいくつかに分けてから学び、その上で自分の考えを持って議論することが効果的だということを学びました。この学びは今後より専門的な見識を深めていく際に、視野が狭くなることを防ぐ助けになると思います。

また授業では積極的に発言をすることで、先生に自分の意見をより良い形でまとめ直してもらったり他の学生の反論を聞けたりして自分の考えがもっとはつきりすることがわかりました。今後の大学生活や就職活動でも他者に向けてのアウトプットを意識することで、自分の意見の輪郭を明瞭にしていきたいと考えるようになりました。

以上

## ロンドン大学 SOAS 短期研修を終えて

理学部 化学科

2年 茂木 香穂

### 研修に参加した動機

高校生の時から、大学生になったら留学をすると決めていたので参加しました。また、イギリス英語に憧れがあったのでイギリスに留学したいと思っていました。語学留学というよりは英語で他のことを勉強したかったのでそのようなコースがあったロンドン大学 SOAS を選びました。

### 事前に準備したこと

飛行機のチケットの手配、寮、大学の申込などをしました。寮の布団やタオル、食器などの有無は寮のホームページで調べたりメールで聞いたりして事前に調べました。また、イギリスの電車やバスのことなどイギリスについてネットで調べました。英語に関しては何も準備しませんでした。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私は Introduction to Media という、英語で Media について学ぶコースをとりました。午前は lecture や preview, review, tutorial など教室での講義、午後は film 作成に関することを行うというスケジュールの日が多かったです。授業の内容は documentary, broadcast, news, advertisement, film, digital Media という6つのセクションに分かれていて1週間に2つずつ進めていきました。Preview でその日の授業内容の予習、lecture でその日のテーマに沿った講義を聞き、review でその講義の復習を行い、tutorial で質問対応や更に深く議論をするという流れで進んでいきました。

最終的に5分のドキュメンタリー映画を作る必要があり、最終日には作成した映画の上映とミニプレゼンテーションを行いました。4人で1つのドキュメンタリー映画を作りました。また、映画を作るために観光客の方やロンドンに住んでいる方にインタビューを行いました。

クラスの人全員日本出身で16人いました。先生は、lecture をして下さる先生が一人、lecture に関してさらに詳しく解説をして下さる先生が一人、カメラや編集について教えて下さる先生が一人で、3人の先生から教えていただきました。また、case study という授業で Barbie の映画を見に行く機会がありました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

放課後、土日は基本自由でしたが、授業で5分間のドキュメンタリー映画を作るという課題があり、そのインタビューを放課後に行っていました。

大学主催のイベントとしては、一週目の水曜日の放課後に camden market という場所に行きました。

強制ではないですが、このイベントにはサマーコースをとっている短期留學生が参加しました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

私は Dinwiddy House という寮に滞在しました。この寮から大学までは歩いて 30 分ほどです。サマーコースをとっている短期留學生はほぼ全員 Dinwiddy House に滞在していました。寮の部屋は思っていたよりも綺麗でしたが、ゴミ箱に前の人のゴミが少し残っていたり、洗面所の屋根から水漏れしてきたりなど少し大変なこともありました。水漏れについては受付の人に 2 回言ったのですが直してもらえず、ずっと水漏れしているわけではないこと、部屋を変えてもらっても更に悪い条件になることもあることから、最後まで同じ部屋で過ごしていました。私のフラットには 5 つの部屋と 1 つのキッチンがあって、キッチンは綺麗でした。調理器具や布団、タオル、トイレットペーパーなどが最初なかったのを受付の人に伝えると用意してくれました。また、寮では正規生の人とお話できる機会がありました。

移動は基本的に電車かバスですが、バスのほうが安かったのでバスを多く利用していました。また、お昼は大学で配られる free meal や毎週木曜日に開催される farmers market を利用していました。イギリスに入国する日、出国する日など基本全て自由なので、早めに入国して、研修プログラムが終わった後は他の国に旅行している人も多かったです。

放課後は、映画を作るためにインタビューをしに行ったり、近くの美術館や博物館、観光スポットに遊びに行ったり、疲れた日は寮に直帰したりしていました。大学の立地が良く、近くに美術館や博物館や観光スポットが沢山ありました。土日は、グロスターやオックスフォードなど遠出をしたりロンドンの観光をしたりしていました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私はもともと様々な国の人と話したり交流したりするのが好きで、このことを今回の研修で再確認しました。将来は海外の人と仕事をしたり交流をしたりするような仕事をしたいと改めて思いました。それと同時に、仕事で英語を使うためには日常生活で使うような英語のレベルではいけないと感じたので、英語のレベルをあげられるよう勉強しようと思いました。また、今回の研修では Media について学びました。Media が直接私の進路と関係あるわけではないのですが、授業を受けて、講義の内容は一般教養として重要だと感じました。また、私が今まで Media についていかに無知だったかについて気付きました。今回学んだことはほんの一部だと思いますが、どの分野に進もうと必要な知識だと感じたので忘れずに生かしていきたいと思いました。

以上

## S O A S

理学部 情報科学科

3年 大木 杏夏

### 研修に参加した動機

長期留学に興味があり、まずは短期で試してみようと思って参加しました。また、私は留学前後で旅行もしたかったので、航空券が含まれていない協定校主催のプログラムを選びました。

### 事前に準備したこと

英語の本を読んだり、映画の字幕を英語にして見たりしました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私は International Relation のコースを選択したのですが、自分の専門とはかけ離れた内容でやや難しい授業を英語で受けるので、ついていくのが少し大変でした。ディスカッションなど、話す機会がたくさんあったので、英語力の向上にはつながったと思います。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

帝国戦争博物館に行きました。主に世界大戦についての資料が展示された博物館で、結構広かったです。イギリスからの視点での世界大戦の様子を感じ取ることができ、興味深かったです。公共のバスを使って行き、遠足みたいな感じで楽しかったです。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

授業が 15-17 時に終わるのですが、美術館やお店は大体 18 時くらいには閉まってしまうので、計画的観光を行う必要がありました。寮は部屋によって当たり外れがあり、寝具が用意されていなかったり、シャワーが水しか出なかったりして、ほとんどの部屋が何かしらの問題を抱えていましたが、慣れるので大丈夫です。あまり期待はしないほうがよいです。受付の人は優しいので、何かあったらすぐに言いに行っただ方がよいです。

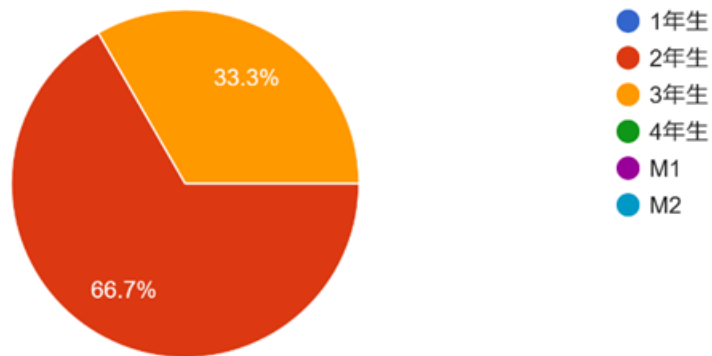
### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう活かしていくか

プログラムを通してたくさんの人に出会いました。私のコースに参加していた人は学生だけでなく社会人もいて、様々なバックグラウンドを持つ人と同じ教室で授業を受け、ディスカッションしたり、ご飯を食べたりすることはこれまでにない経験だったので、将来に対する視野が広がったと思います。また、国際関係について学ぶ中で、同じ問題に対して、出身国によって考え方やこれまで教わってきたことが違うということも目の当たりにしました。日本人同士での議論では絶対にならないような意

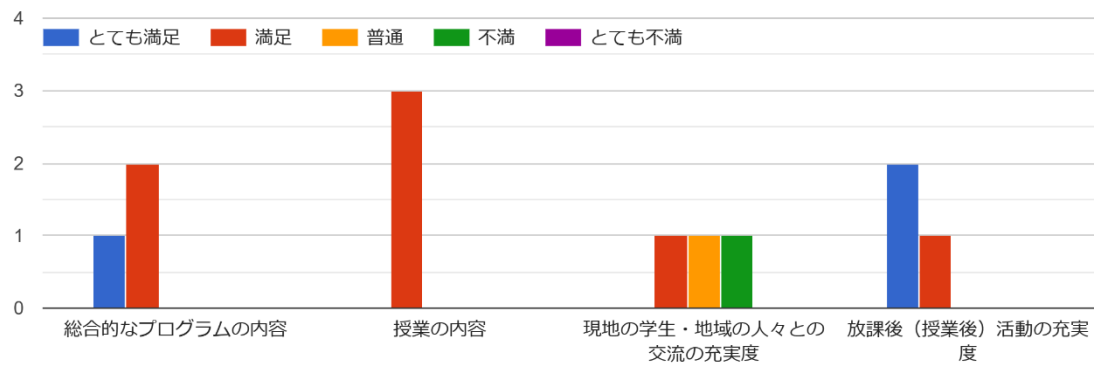
見も聞くことができ、国際関係への理解は深まったと思います。ニュースや記事に対してこれまでとは違った視点で感じ取れたらいいなと思います。

以上

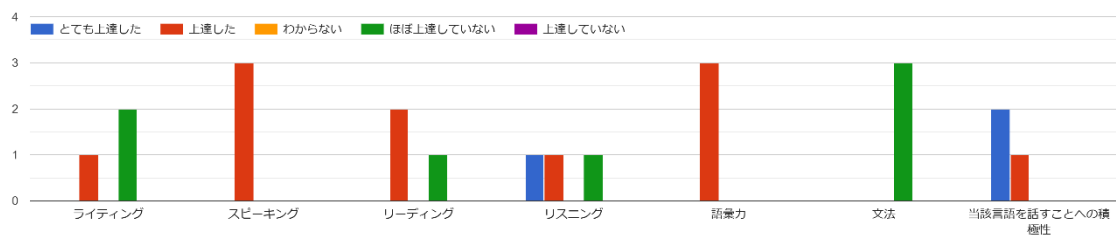
研修参加時の学年  
3件の回答



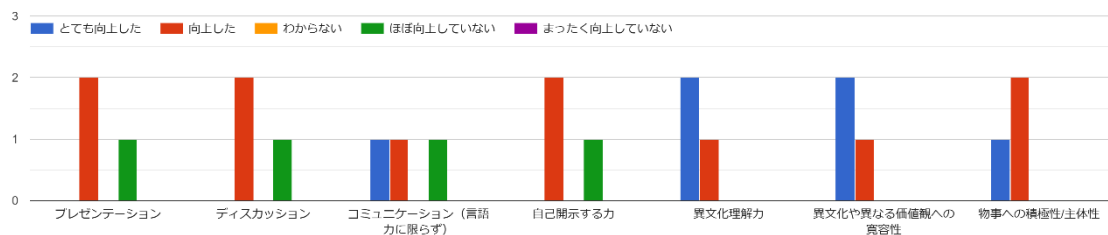
参加したプログラムの満足度について



海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・良い先生に出会えたこと。同じクラスには日本人しかいませんでしたが、皆英語を流暢に喋っていたため、英語の語彙や話の繋ぎ方をそこから学ぶことができたこと。
- ・今まで学んだことのない分野であったが、単語などの基礎を学ぶ授業と議論をする発展的な授業に分かれていて取り組みやすかった。
- ・グループワークやディスカッションをする機会がたくさんあった点

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください。

- ・ディスカッションが多いところ。先生が一方向的に話すのではなく学生が質問や意見を言うことで授業を進めて行くところ。意見を言って、それが質問の答えからずれていたとしても必ず肯定してくれるところ。
- ・専門用語や新出の英単語も生徒が英語で説明するところ。その際うまく説明できなくても先生が助けてくれたり別の言い方を教えてくれたりして、自然にパラフレーズの練習ができるところ。どの授業も先生の問いかけに生徒が応答することで進んでいくところ。
- ・履修していない

### 語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください。

- ・私は何も準備していませんでしたが、英語を話したり聞いたりすることに慣れておくといいのかなと思います。
- ・いくつかの短文に分けてでもいいので、自分の意見をまとまった量話せるだけのスピーキング力
- ・特になし

### 渡航先に持って行った方がいいものを教えてください。

- ・薬、レンチンご飯などの日本食
- ・ハンガー、テープ、ミニファン
- ・サンダル



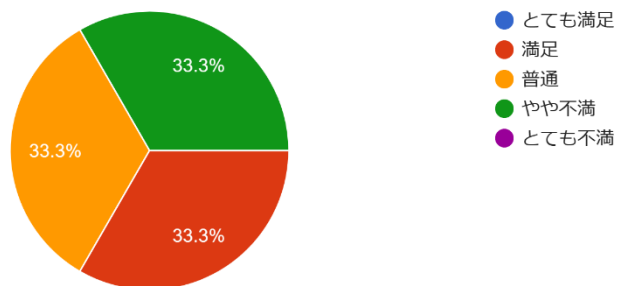
渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください。

- ホームページ等で調べていました。過去に参加した方々の報告書を見ていました。また、SOAS や寮にメールをして情報を得ていました。
- プログラムの総括担当の人や寮の担当者にメールで問い合わせる
- ホームページ

大学寮の部屋の構成を教えてください  
3件の回答

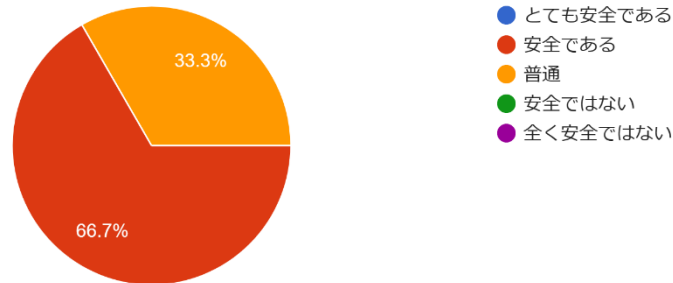


大学寮の満足度について  
3件の回答



## 大学寮周辺の安全について

3件の回答



### 大学寮でよかったこと

- ・大学まで歩いていけること。大学の正規生の方と交流することができたこと。1人部屋ですが、キッチンは共用なのでそこでみんなでお話したりご飯を食べたりできたこと。
- ・フラットの人とキッチンを共有するのでそこで友人を作れたこと。近くに安いスーパーがいくつかあったこと。
- ・同じコースの人がみんな泊まっていたので一緒にご飯を食べたりできて楽しかった。他のコースの人とも寮で仲良くなったりした。

### 大学寮で不便だったこと

- ・部屋のお風呂の屋根が水漏れしていて、受付の方に何度も伝えたが直してもらえなかったこと。また、部屋が少し汚いこと。(思っていたよりは綺麗でした。)
- ・エアコンがなく、また一方で窓に網戸もないため窓が開けづらく、かなり暑かったこと。狭いユニットバスタイプかつシャワーが固定式でシャワーが浴びづらかったこと。

### 「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・見知らぬ人から優しくされることについては日本にいる時よりもイギリスにいる時の方が多かったです。日本人が決して優しくしないわけではなくて、見知らぬ人に優しくすることに対して勇気がなかったりシャイすぎたりするのだなと感じました。日本の道路やトイレは綺麗。また、お店での接客が丁寧だと感じました。
- ・電車内など公共の場で大声で話している人は少なく、代わりにアナウンスが至る所で流れていてそちらの方が耳につくこと。
- ・消極的

「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

・みんな自分の好きなように自由に行動していて面白いなと感じました。また、想像していたよりも多くの文化や人が存在していて、日本よりもはるかに多文化社会だと感じました。ほとんどの人がとても優しくしてくれて、フレンドリーでした。知らない人でも挨拶をして少し会話をするということは普通なんだと感じました。また、動物や子供に対して寛容な人が多かったです。犬はリードを付けずに放して散歩している人が多く、子供が騒いでいたとしても怒る人がいなくむしろニコニコしている人が多くて少し驚きました。

・電車内や歩いている時にスマホを操作している人がほとんどおらず、代わりに電話をしている人がとても多いと思った。スーパーでレジの人とお客さんが気軽に喋っていることも多く、直接的なコミュニケーションが盛んだと感じた。

・sorry って言えば何してもいいと思ってそう

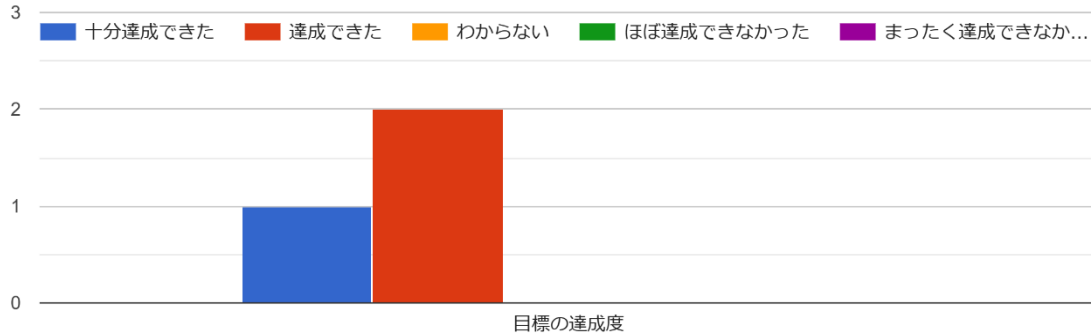
「自分」(コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など)について気づいたことを教えてください

・コミュニケーション力について、英語が流暢に話せるようになったわけではありませんが、会話に詰まった時にどのように話したらいいかということや日常生活の会話については成長したと感じます。イギリスは建物の雰囲気や人など何もかもが日本と違ってそれを見ているのがとても面白くて毎日新鮮な気分でした。自分の価値観や発想が変化したとは思いませんが、他国の文化や人と関わるのは楽しいと改めて感じました。

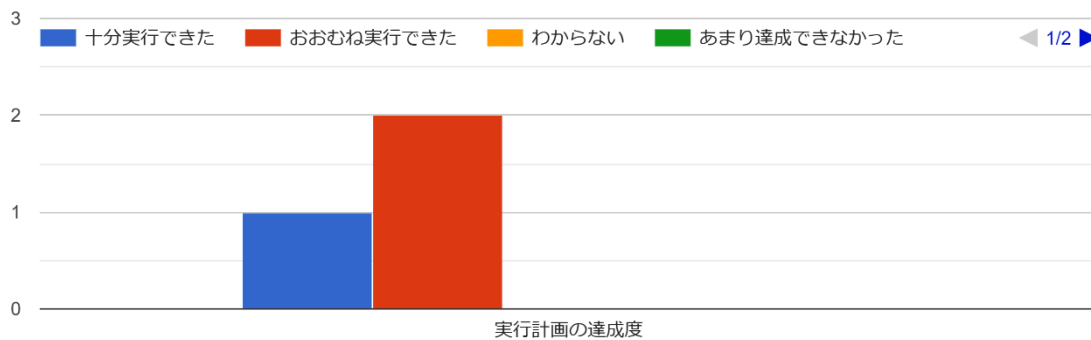
・決断力に自信がない上に寮とはいえ初めての一人暮らしだったが、案外自分で毎日の予定を立てて過ごすのがうまくいき、自分の考え方や好みのくせがはっきりしていることがわかった。

・歴史の解釈や国際関係について、日本の教育と他の国の教育内容が異なることがあったが、理解して柔軟に対応することが難しい時があった。

海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



今回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・英語や他の言語で様々な人と交流することがとても楽しいこと、日本とは異なる様々な文化に触れることが好きなことを今回再確認しました。海外に永住したいとは思いませんが、海外で仕事をしたり交流したりする機会の多い仕事に就きたいと思いました。
- ・チャンスがあれば授業中に積極的に自分の意見を言うことで、先生が足りない部分を補った上でうまくまとめ直してくれたり他の生徒からの反論を聞くことができたりして、より理解が深まることがわかった。また、自分の考え方のくせや足りない視点も見つけることができた。これらのことを今後ますます専門的になる学びの中で生かしていけば、大学生活でも就活の際にも自分の意見の輪郭がはっきりして役に立つと思った。
- ・意外となんとかなります。



이화여자대학교  
EWHW WOMANS UNIVERSITY



## 梨花女子大学校（韓国）

研修期間：2022年8月3日～8月17日（2週間）

滞 在：大学寮

研修内容：韓国語、韓国文化・社会、K-Pop Dance

## II. Course Schedule

Day	Date	Topics & Class Materials, Assignments
Day 1	(8/4)	Korean Language Class, 2 Special Lectures on Korean Studies, Field Trip (Lotte World)
Day 2	(8/7)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 3	(8/8)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 4	(8/9)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 5	(8/10)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 6	(8/11)	<b>Special Cultural Excursion Trip – 2 Day Trip to Busan and Gyeongju (not counted towards credits)</b>
Day 7	(8/12)	<b>Special Cultural Excursion Trip – 2 Day Trip to Busan and Gyeongju (not counted towards credits)</b>
Day 8	(8/14)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 9	(8/16)	Korean Language Class, Special Lecture on Korean Studies, Field Trip
Day 10	(8/17)	Korean Language Class, Farewell Ceremony

- The schedule above may subject to change.

## IV. Special Accommodations

\* According to the University regulation section #57-3, students with disabilities can request for special accommodations related to attendance, lectures, assignments, or tests by contacting the course professor at the beginning of semester. Based on the nature of the students' request, students can receive support for such accommodations from the course professor or from the Support Center for Students with Disabilities (SCSD). Please refer to the below examples of the types of support available in the lectures, assignments, and evaluations.

Lecture	Assignments	Evaluation
<ul style="list-style-type: none"> <li>. Visual impairment: braille, enlarged reading materials</li> <li>. Hearing impairment: note-taking assistant</li> <li>. Physical impairment : access to classroom, note-taking assistant</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Extra days for submission, alternative assignments</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>. Visual impairment: braille examination paper, examination with voice support, longer examination hours, note-taking assistant</li> <li>. Hearing impairment: written examination instead of oral examination</li> <li>. Physical impairment: longer examination hours, note-taking assistant</li> </ul>

- Actual support may vary depending on the course.

\* The contents of this syllabus are not final—they may be updated.

## 新しい世界に飛び込むことの大切さ

文教育学部 言語文化学科

3年 菊池 来瞳

### 研修に参加した動機

日本語教育の授業で「日本語を学ぶ外国人」について考えることが多く、その中で日本人が多くいる環境だけではなく、自分自身が「外国人」というマイノリティーの立場となる環境に身を置いてみたいと思ったことがきっかけです。また、お茶大の韓国人留学生の方と仲良くなったことで韓国に興味を持つようになりました。梨花女子大学のプログラムは韓国語や韓国文化を学ぶことができ、かつ世界各地からの留学生と関わる機会も豊富にあり、そうした点に魅力を感じて研修への参加を決めました。

### 事前に準備したこと

韓国語の授業を履修していましたが、学習歴は3ヶ月ほどで、かろうじてハングルが読めるくらいのレベルだったため、市販の単語帳やアプリで単語の勉強を少しずつ進めていました。現地の学生や留学生は英語を話せる方がほとんどで、私のように韓国語初心者の方でもコミュニケーションは充分にとれますが、韓国語を話すチャンスもたくさんあるので、簡単な会話や単語が分かるようになっておくとより研修を楽しめるのではないかと思います。韓国人の友達におすすめの場所を聞いたり、観光ガイドブックを買ったりと現地での生活を楽しむ準備もしました。放課後や休日など自由に過ごせる時間も多いため、「ここに行きたい」「これが食べたい」など、現地でしたいことをいくつか考えておくといいと思います。また、必要な書類を用意したり、申請したりといった手続きも多かったです。私は授業や課題等に追われてほとんどの手続きを締切ぎりぎりになってから行っていたため渡航直前に焦ることも多く、もっと余裕をもって進めればよかったなと思いました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

韓国語の授業は事前に行われたテストをもとに、習得度に応じてクラス分けがされていました。教科書やプリントを使いながら、文法・単語を習う→実際に使ってみる(ペアワーク、会話練習など)、という日本での授業と同じような形式の授業でした。私のクラスでは日本人学生が多く、全体の半分ほどは日本の学生でしたが、そのほかにもアメリカ、フランス、中国、香港など様々な国から来た学生がいました。授業はほとんど韓国語で進行していくため、新しく習う文法や単語というよりは先生の指示を理解することの方が大変でした。今何をすべきか分からない、という状況になることも少なくありませんでしたが、ペアワークも多く、他の学生と相談しやすい雰囲気だったため、周りの方々の力を借りて何とかついていくことができました。

韓国語の授業の他には、韓国文化についての講義がありました。韓国料理や韓国の伝統音楽、

環境問題などについて学びました。講義の中で日本について言及されることもあり、これまで知らなかった韓国の様々な面や、日本との共通点、相違点を知ることができてとても興味深かったです。また、講義は英語で行われたため英語の勉強にもなりました。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

午前中は座学、午後は課外活動の日がほとんどでした。課外活動では美術館や博物館、lotte world(遊園地)、寺院など様々な場所を訪れました。また、スタンプ製作やテコンドー体験を行う日もありました。中でも印象に残っているのは、釜山への一泊二日の旅行です。釜山では海や市場に行きましたが、大学のあるソウルとはまた違った雰囲気を楽しむことができ楽しかったです。韓国の伝統料理を食べることができたのも貴重な経験だったと思います。観光ではできないような経験をたくさん積むことで、韓国への理解をより深めることができました。また、韓国語のクラスが違う方と話す機会も多く、とても有意義な時間でした。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

渡航前は何を準備すればよいか具体的なイメージが湧かず、忘れ物をしていないかとても心配でしたが、大学の近くにはダイソーやドラッグストア、コンビニ等があり、生活に必要なものがそろえやすい環境が整っているためあまり心配しなくても大丈夫かと思います。洗剤やトイレットペーパー、袋などは現地で買って数人でシェアしていました。洋服も日本より安く買えるので、最低限だけ持っていき、あとは現地調整でもよさそうです。

私たちが滞在していた寮の部屋はあまり新しくはありませんでしたが、清潔で広さも充分あったため安心して過ごすことができました。お風呂の様式が日本とは異なり、洗面台に直接シャワーがついていました。(シャワーを浴びると洗面台、床、トイレが全て水浸しになってしまう)はじめはとても戸惑いましたが、数日するとすぐに慣れ、気にしすぎることなく使えました。

昼食、夕食は外食することが多かったです。大学内やすぐそばに手ごろな料理屋さんやファストフード店が数多くあり、食事に困ることはありませんでした。朝はコンビニで買ったヨーグルトを食べていました。

研修中は朝から授業があり、放課後も出かけることが多かったため、毎日かなりハードスケジュールでした。とても充実した時間を過ごすことができましたが、慣れない環境では疲れもたまりやすいのでゆっくり過ごす時間を作ったり、早めに帰ったりするなど体調を崩さないよう気を付けながら予定を組むと良いかと思います。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私がこの研修で学んだことは、新しい環境に飛びこむことを恐れる必要はないということです。私はもともと何かを新しく始めたり、これまでと違うことをすることに不安を感じ、ためらってしまうことが多くありました。そのためこの研修に参加する前も、英語や韓国語でコミュニケーションがとれるだろうか、そもそも手続きは全てきちんとできているだろうか、と不安でいっぱいでした。しかし、実際に



研修が始まってみると、生活習慣の違いはすぐに慣れることや、困ったときに声をかけると助けてくれる人がいることに気が付き、やってみると何とかなるのだなと思えるようになりました。挑戦してみたからこそ、貴重な体験ができたり、いろいろな人と関わることができたりするということを改めて実感しました。忙しい中での事前準備や研修自体をやり遂げられたことで、何かに挑戦することに対して自信がついたように思います。今後も大学生活や、社会人として働く上で、新しいことに挑戦したり、環境がこれまでとは大きく変わることは多々あるかと思いますが、必要以上に変化を恐れることなく、目の前にあるチャンスを大切にしていきたいです。

以上

## 初めての海外、初めての海外生活

理学部 物理学科

2年 青山 百奈

### 研修に参加した動機

梨花女子大学での研修は、私にとって韓国語の学習に没頭する絶好の機会だと思いました。短期とはいえ、もともと第二外国語で朝鮮語を選択しているのですが、現地での日常生活やクラスでのコミュニケーションを通じて、さらに実践的な言語能力を身につけることができると考えたからです。また、韓国は独自の文化や伝統を持っており、この留学を通じてそれらに触れることができます。午後は主に、伝統的な行事や食事、芸術など、多様な文化体験や遠足があるのですが、そこで韓国の文化に深く浸ることができて非常に有意義に感じます。

さらに、留学先で出会う学生や教員との交流は、国際的な人脈を築くための重要な機会だと思いました。最近私は梨花女子大学からのお茶大留学生と友達になりました。これだけ聞くとお茶大だけで韓国人の友達、異文化圏の友達を作ることは容易であるように感じますが、この短期留学にはバディ制度があります。韓国人のバディと生活をともに過ごすことはすごく良い経験になると思いました。異文化理解など、現地に行って現地の人に聞くことに勝るものはないと考えました。

### 事前に準備したこと

まずは語学力の向上を図りました。短期研修が決まると同時に duolingo というアプリで毎日韓国語を勉強しました。持ち物などで準備してよかったものは洗濯バサミと洗濯物を干すための竿、スリッパ、韓国でも使用できるコンセント、ドライヤーなどです。

持っていけばよかったなと後悔したものはビタミン剤、ウェットティッシュ、コップなどです。

### 研修プログラムの内容(授業について)

事前に受けたテストによって能力別に振り分けられたのですが、自分の能力よりも少し下のクラスに振り分けられてしまったのでそこが少し残念でした。

授業は非常にわかりやすく、毎日楽しく受けることができました。先生も気さくな方ばかりで質問にも丁寧に答えてくれました。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

課外活動で行ったロッテワールド、グラウンドシーソー、景福宮、国立美術館はとても良い思い出です。引率の人もとても優しく、こちらのわがままたくさん聞いてくださったので感謝の気持ちでいっぱいです。



### 生活全般について(滞在先についても含める)

他の国に行ったことがないのであまりわからないのですが、過ごしやすかったと思います。持ってくればよかったと思うものも現地で簡単に調達できますし、コンビニも大学内にあってとても便利でした。ただ、湿式トイレにどうしても慣れなかったです。

日本に帰って湯船や普通のトイレを使った瞬間が最高でした。



### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

短い期間ではあったのですが、現地の人、そして各国から留学に来た人たちと国を越えて言語を超えた交流ができたのは確実に将来の糧になったと感じています。言語も人種も生まれた場所も本当に関係なく仲良くなることができた経験は宝物です。

以上

## 初めての短期留学を通じて考えたこと

生活科学部 食物栄養学科

3年 前田 樹理子

### 事前に準備したこと

留学の1ヶ月前前から、Duolingo というアプリと外国語教育センターの教材を活用して、独学で韓国語を学習した。17 日間という短い滞在期間だったため、韓国語の習得ではなく、様々な国の友人を作り交流することを目標に据えた。韓国語の学習は最低限にとどめ、英会話の習得に重きを置いたが、自分でコンビニやレストランを利用することを踏まえると、簡単な会話ができるくらいまで韓国語を勉強した方が生活しやすかったと思う。また、他国の学生とたくさん交流したかったので、オンライン英会話に取り組みアウトプットができるように意識した。

### 現地での授業について

午前は習熟度別に韓国語の授業を受けた。13 時からは、韓国の文化や政治経済について理解を深める特別講義を 1 時間受けた。その後、グループごとに分かれて、ソウル市内の観光名所巡りや体験学習を行なった。私は韓国語の授業を大学でも取っていないため、事前に大学に申請し、一番下のクラスに入れてもらった(本来は事前にテストを受け、点数に応じてクラス分けがされる)。私のクラスは学生 14 人中、日本人が 3 人、アメリカ人が 2 人、その他が香港や中国系の学生だった。授業は一部韓国語のみで行われるものもあったが、基本的に英語を使っていた。事前にメールを出した学生とテストを白紙で提出した学生だけが一番下の初級クラスに割り振られており、本来は初級レベルでも、テストを勘で最後まで解いてしまうと初中級クラスに割り振られていた。不安な学生はメールを出すことをお勧めする。13 時からの特別講義は英語で展開され、韓国の食文化や民族音楽、ODA(政府開発援助)やプラスチックを加熱することで発生する環境ホルモンについてなど、内容は多岐に渡った。グループワークでは、国立博物館の見学や景福堂の見学、テコンドー体験やハンコ作りを行った。アクティビティ終了後はその場で解散となるため、残って周辺施設で夕飯を食べる人、寮に戻る人など様々だった。私は基本的に、台湾、フランス、香港の友人と残って夕飯を食べてから帰宅した。

### 課外活動について

4つのグループごとに分かれて、平日の 15 時頃からソウル市内の観光名所巡りや体験学習を行った。お茶大生の参加者 8 人のうち、私だけグループが異なったため(おそらく事前にテストを受けずに初級クラスへの希望を出したため)、他国の学生に積極的に話しかけて友人を作った。最初は知り合いがおらずとても緊張していたが、結果的に台湾、フランス、香港、アメリカ、中国、インドネシア、スイス、ベトナムの子と仲良くなれたのでよかった。また、休日も台湾、フランス、香港の友人

と一緒に遊びに行った。他国の学生と交流したくて参加している人が多いため、国籍問わず話しかければ誰でもおしゃべりしてくれた。

### 生活全般について

食費などの物価は日本とあまり変わらない。ただ、日本よりも地下鉄などの公共交通機関の料金は非常に安い。洋服は安く売っているので、現地調達も可能だと思う。料理は基本的に辛いが、私は滞在中に味覚が慣れたので苦労しなかった。街中にカフェが多く、夜 22 時頃まで開いているので利用しやすい。

寮はトイレとシャワーが同じ空間に設置されており、間仕切りのカーテンもないため少し苦労した。不足したものは、現地のダイソーで調達した。

支払いはカード決済が主流だが、屋台では現金のみの場合もある。VISA は使えるが、稀に Mastercard が使えないお店(現地のゴンチャなど)があったので、注意してほしい。

### 同プログラムを終えて、今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

私が本研修を経て、考えたことは 2 つある。

まず最初に、私たちは国民性と個性を区別する必要があるが、それは非常に難しいということだ。滞在中、台湾とフランスの友人たちと遊びに行った際に、渡れるかぎりぎりの横断歩道をフランスの友人は渡り、台湾と日本出身の私たちは渡らないということがよくあった。しかしこれは、フランス人の国民性によるものなのか、友人の性格によるものなのか、区別することは非常に難しいと思う。実際に自分の常識とは異なる行動を見た時、それはその人の出身国の国民性によるものなのだと感じてしまいそうになるが、両者を混同してはいけないと学んだ。

2 つ目は、海外の大学院進学についてだ。海外の学生と一緒に生活する中で、世界の広さと日本の狭さを感じた。もちろん、日本で研究し学問を深めることも大事なことだが、海外の大学院に進学して自分とは異なるバックグラウンドを持つ教員や学生と議論を交わした方が、より多角的な視点を持ち深みのある研究を行えるのではないかと感じた。まだ大学院進学に心を据えた訳ではないのだがこれも選択肢の一つとして、さらなる英語力の向上と専門分野の精通にむけて精進したい。また、大学院に進学しないとしても、英語を使って仕事ができるくらいになるまで、帰国後も英語を磨きたいと感じた。

最後に、今回の研修で本当にたくさんの国と地域から来た学生と友人になることができ、中でも台湾出身の友人とは一緒に遊ぶ約束を立てるくらい仲良くなることができた。また、帰国後にお茶大に留学する韓国人の学生のバディを務めることになったため、今後は梨花女子のバディにしてもらった優しさを韓国人のバディに恩返しできたらと思っている。一期一会の繋がりを大切にして、さらなる研鑽を積みたい。

以上

## 韓国に実際に行ってみて分かったこと

文教育学部 芸術表現行動学科 音楽表現コース

1年 谷 ゆり子

### 研修に参加した動機

私は前々から、韓国に興味があり韓国に関連した職に就きたいと考えていました。そして大学に進学し実際にキャリアについて考える年齢になったこともあり、今後のキャリアを考えていくうえで一度渡韓して見ない限りは韓国を本当に自分の職選択の視野に入れるべきか分からないと思い今回研修に参加しました。

### 事前に準備したこと

私は主に語学力を現地で困らない程度にレベルアップさせることと、現地の文化や生活習慣、交通についての事前学習をしました。具体的には、語学力に関しては現地の大学の授業が全て韓国語で行われると聞いていたので、普段のお茶の水女子大学での韓国語の授業で先生の韓国語が大体理解できるように日々単語や文法を確認してきました。現地の情報に関しては、旅行ガイドを買い、韓国人の友達や先生に少しでも気になったら直ぐに質問すること知識を身に付けていきました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私が参加した梨花女子大学の 2023 Summer Session2 では、午前中に 3 時間の語学の授業、午後には 1 時間の英語での講義とその後班ごとでのフィールドワークがありました。語学の授業は事前に受けたテストをもとに習熟度別のクラスとなっており、多少知っている内容と知らない内容が前後していましたが、自分にあったレベルの授業を受けることが出来、自分の韓国語を向上させることが出来ました。午後の英語での講義は、現地の教授たちによって行われました。韓国関連の講義もあれば、日本でもよく聞くような韓国ならではの講義ではないものもいくつかありました。個人的には韓国に興味があって短期で来ていたので、もっと韓国がらみの講義が聞きたかったです。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

フィールドワークは、いくつかの観光スポットを回ったのですが、事前に学校側が予約して参加出来たもの(テコンドーや漢江クルーズなど)も多かったのととても良かったです。梨花女子大学の生徒の方々が英語で訪れた場所について説明してくれたため多くの情報を得ることが出来ました。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

滞在先の寮での生活は、特に不便なこともなく過ごすことが出来ました。寮には階ごとにキッチン

が設置されており、その電子レンジや湯沸かしポットを使ってカップ麺を食べることもありますが、基本は外食が多かったです。

寮以外では、私は基本外を歩き回っていたので、バスや電車にたくさん乗ったのですが、特に困ったことはありませんでした。韓国では never map という地図アプリを使うと、スムーズに移動することが出来ました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

短期研修を終えた今感じているのは、韓国は私が思っていたよりも人が良く、そして想像していた通り好きになれる場所であったということです。私はかなりその場の人々や雰囲気を重視するタイプであり、またそれが合わないとかかなり不快に感じるので、かなり注意して観察していたのですが、本当にまたすぐにでも行きたい、現地の知り合いに会いたいと思えるほど良い印象を抱きました。昔は韓国で働きたいという夢があったのですが、実際行ってみて、韓国は本当にソウルに韓国の歴史を除く全てが集まっていると言っても過言ではない程に様々な業種やコンテンツが密集しているため、わざわざ韓国に身を置かなくても勝負することは可能なのではないかと思うようになりました。韓国と日本の文化面での交流はかなり根強いものがあるので、韓国関連の職種を考えるうえで視野を韓国だけに絞らずもっと広げてみることもできるのではないかと思います。そういった私自身の中での考え方の変化が今回の短期研修での大きな収穫であり、それをこれからのキャリア選択に生かしつつ、残りの大学生活をどのように送っていくべきかを考えていきたいと思っています。

以上

## 梨花女子大学への短期留学を経て

生活科学部 心理学科

1年 仲座 静琉

### 研修に参加した動機

私がこの研修に参加した動機は、短期留学を経験したいと考えていたことに加えて、少しでも言語が似ていたり、少しでも文化が似ていたり日本との共通点も多い韓国への興味もあったからだ。また、その時に他の予定との日程を考慮すると梨花女子大学への留学が現実的だったから韓国への留学を決めた。韓国に留学して、文化や人柄、価値観にも触れ、イメージとの相違点などを実際に確かめてみたいという思いもあり研修に参加することを決めた。

### 事前に準備したこと

コロナによる制限も緩和されていたため、韓国で使える SIM カードを準備したことくらいだと思う。ビザ申請なども必要なかった。韓国語に関しては、前期の授業とタンデムを利用して少しでも韓国語に触れることを意識していた。韓国語の習得よりも異文化理解や色々な国の人と積極的にコミュニケーションをとってみるという目標で行ったので、日本にいるときから韓国語を重点的に勉強していたわけではなかった。

個人的には、モバイルバッテリーがあると非常に便利だと思った。スマホの充電が切れるとマップも見ることができないのでそれだけは持っていくべきだと思う。また、友達の中で体調を崩す人もいたので、胃薬や頭痛薬も念のため持っていくと安心だと思う。不安な人は韓国で使えるアプリ(マップや電車の乗り換え検索など)を入れておくといいと思う。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私のクラスは全ての授業が韓国語で行われた。平日 9 時から 11 時半までで、梨花女子大学が作った教科書を用いて行われた。先生がジェスチャーなどを使って伝えようとしてくれたり、隣の席の友達が教えてくれたりなど親切な人に恵まれたので、韓国語が分からなくてもついていくことはできた。日本人とその他の国からの留学生の割合が1:1くらいだった。授業は先生によって異なるが、席をコの字にして行うことが多かった気がする。事前テストを受けると必ず、ハングルが読める前提の文法の授業が行われるので、もし、1 から韓国語を学びたい場合は、梨花女子大学の担当の方にメールでその趣旨を伝えてクラスを変えてもらった方が負担を減らすことができると思う。

午後の special lecture は、英語で行われ、韓国文化や心理学、音楽、環境問題など様々な学問分野の授業が行われ、とても興味深い授業を受けることができた。ここでは、韓国語のクラスに関係なく、全員同じ教室で授業を受けるため、他の国の生徒の意見を聞くこともできるのが良かったと思う。



### 研修プログラムの内容(課外活動について)

授業後に行われて、4グループに分かれて行動した。ロッテワールド、テコンドー、国立博物館など色々な場所に行くことができた。その際の電車代やバス代は各自で負担するので、現金でもお金をもっておいの方が便利だと思う。行くときはグループで行動するが、解散時間などは各自自由なので、行く場所周辺を下調べしておくとは有意義な時間を過ごすことができると思う。

プログラムの中で、一泊二日で釜山などに行く field trip があった。ソウルから高速バスで 5, 6 時間かかった。古墳など歴史を感じる場所をたくさん巡ることができた。ガイドの方もいて楽しく過ごすことができた。ホテルは、可もなく不可もなく比較的きれいなホテルだった。朝食のバイキングが品数も多く、とてもおいしかった。ソウルとは違う雰囲気や自然を感じることもできた。これは任意参加のため、行く人と行かない人がいたが、どちらを選択した人も楽しんでいる印象があるので、金銭面を考慮して行くか行かないかを決めるといいと思う。

### 生活全般について(滞在先についても含める)

日本と文化が似ていることもあり、とても過ごしやすかった。梨花女子の大学寮に滞在した。梨花女子の周りには、コンビニや食べ物屋さんなどが全て揃っているので、立地が良く生活必需品に困ることはなかった。物価はほとんど日本と変わらないと思うが、地下鉄や食は日本よりも安いと感じた。私たちが韓国にいた時期は、たまたま治安が良くない時期だったため、殺害予告などがあったが、常識の範囲内で楽しむ分には特に問題なかった。大学周辺も警察が見回りを行っていたため、安心して繋がった。大学内にカフェも揃っているので、本当に便利だった。コンビニの品数が日本よりも多く感じたため、コンビニの食べ物なども飽きることなく楽しめると思う。衣類も地下鉄で 2 駅ほどいくとホンデがあり、たくさんの洋服が日本よりもお得に購入できるので、現地で買って揃えるという選択肢も個人的にありだと思う。

しかし、トイレはトイレトペーパーを流すことができない場所も多いため、不便に感じることもあった。お風呂もトイレと仕切りがなく、洗面台にシャワーがついている形だったので、水回りは日本の方が快適だった。

基本的にカード社会なので、もし韓国に行く場合がカードを作っておくべきだと思う。VISA や JCB は基本的にどこでも使えるので心配ないが、マスターカードは使えないお店があるため、VISA か JCB を持っておくと安心だと思う。寮にドライヤーなどはないため、日本から持っていくか、韓国で現地調達するかをあらかじめ考えておくともスムーズだと思う。私は、お茶大の先輩と割り勘で一つのドライヤーを現地調達したが、特に問題なく快適に過ごすことができたので、一緒に行く友人などがいるなら現地調達の方が荷物を減らすことができると思う。

### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

英語力を向上させるために毎日少しずつ勉強する必要性を感じた。英語が母国語の子とのコミュニケーションだけでなく、英語が母国語ではない方とのコミュニケーションでも英語が使われるた

め、自分の話す力と意欲の低さを実感した。また、韓国語をもっと話せるようになりたいという韓国語を学ぶ意欲にも繋がった。語学に対する意欲だけでなく、他の短期留学や長期留学への参加も考えるようになった。大学生のうちに留学や旅行などで色々な国に行きたいという意欲が高まった。

この留学で台湾の子と友達になったが、台湾に遊びに行く約束や計画を立てるくらい仲良くなることができ、この留学で得た繋がりを大切にしていきたいと思っている。

以上

## 梨花女子大学での夏季短期研修に参加して

理学部 数学科  
1年 藤田 あぐり

### 研修に参加した動機

コロナ禍で海外に数年間行けてなかったことから海外に行きたいという気持ちが強かったため参加を決めた。また、以前から韓国の文化に興味があり実際に韓国に滞在して文化や生活を肌で感じてみたかった。韓国語は聞き馴染みがある言語だったので聞くだけでなく話して実際に韓国人と韓国語でコミュニケーションをとる機会を探していたというのも理由の一つだ。

### 事前に準備したこと

韓国語については、中高時代から韓国ドラマが好きで韓国の音楽を幅広く聴いていたこともあり、大学入学以前からハングルは読むことができた。大学入学後も朝鮮語初歩と朝鮮語会話を前期に受講していた。そのため単語力はないが簡単な韓国語であれば言っていることは分かる状態だった。また、奨学金やプログラムの申し込みなどは国際教育センターや moodle に書いてある通りに行えば問題なく進められた。さらに、成人してから初めての海外であったこと、韓国はキャッシュレス社会でインターネットも発達しているときいていたこともあり、学生用のクレジットカードを作り海外用の e-sim を購入した。行く直前には韓国旅行の注意点などを確認しながら入れておいた方が良いアプリ (never map など) をダウンロードした。

### 研修プログラムの内容(授業について)

午前にレベル別の韓国語の授業、午後に韓国文化や梨花女子大で行われている研究についての講義(日本語での授業が1回ありそれ以外は英語だった)があった。

韓国語の授業では、私のクラスはハングルを読むことができ自己紹介程度は韓国語で話せる人で構成されていたため、全て韓国語で行われた。授業は梨花女子大の教科書に沿って行われた。ペアで行うことも多く文法を習った後、その文法を使って例文を作り会話したり、あるトピックについて会話する練習をしたりした。韓国の文化を学びながら長文を読むこともあった。クラスは日本人が半分を占めていたが他にも中国人やアメリカ人、スイス人などもいた。先生は曜日ごとに2人が担当していた。課題や最終日にはテストもあったが負担になるほどではなかった。講義では、韓国のメディアについてや料理についてなど幅広い分野の様々なものがあった。特に韓国の伝統音楽についての講義では皆でいろいろな歌を歌ったり韓国でも場所によって発音が違ったりすることを歌をもって実感できたりしてとても楽しめた。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

平日の授業後にフィールドトリップというものがあり歴史のあるお城に出かけたりポスター展示を見に行ったり、テコンドー教室に出向いたり、漢江クルーズをしたりといろいろな経験ができた。基本的には現地解散であったため終了後に周辺の観光地を散策したりショッピングをしたりもできた。また、週末には釜山旅行に出かけた。バスで片道6時間かかり一泊二日であったため一つ一つの場所を堪能できなかったが、食べたことのない韓国料理を食べたり同じクラスでない人たちとも関わったりして良い思い出になった。さらに、梨花女子大のプログラムでは piece buddy という制度があり梨花女子大の学生と一緒にご飯を食べに行く機会があった。自分からコンタクトを取らないといけないことに最初は少し戸惑ったのだが、私は現地の学生と話してみたかったので、韓国語だけで話す日と英語だけで話す日 2 回を設けた。韓国語で話した経験があまりなかったのでとても緊張したが、好きな俳優やアイドルなどについての話で盛り上がりそれぞれの国について話したりして、楽しい時間を過ごせた。現地の学生が日本の音楽や芸能人について思っていたよりも知っていて驚いた。また、ご飯を食べた帰りに写真を撮ったり、日本の家族や友達に買って帰るお土産を一緒に選んでもらったりもした。もう一方は、ちょうど終戦記念日つまり韓国の独立記念日であり、街でデモをしているのにも遭遇したりして旅行ではあまり経験できないことも肌で感じられた。(peace buddy とそのような話をするとはなかったが)

### 生活全般について(滞在先についても含める)

韓国では現金を使う機会が交通系 IC カードへのチャージや市場での支払いくらいしかなく(実際私は 8000 円分くらいしか現金を使わなかった)キャッシュレス決済が浸透していた点や、セルフ注文ができる店が多い点などが便利だった。また、日本と物価はあまり変わらないが、地下鉄やバスなどは国が運営しているためとても安く利用できた。大学寮はシャワーとトイレの仕切りがない洗濯物が干しづらいなど不便な点もあったが、私は寝るためくらいにしか利用していなかったため問題はなかった。



### 研修プログラムを通して学んだこと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回の研修プログラムを通して、現地の学生や他の参加者と交流していく中で、最初は私自身英語力や韓国語力に自信がなかったため会話が成立するのか盛り上がるのかとても不安だった。しかし、話したいコミュニケーションをとりたく仲良くなりたいという思いさえ持っていれば拙い英語や韓国語でも伝えたいことは伝えることを学んだ。



また、韓国に興味があるという共通点が参加者皆にあつたり英語が第一言語でない参加者も多か

ったりしてお互いがお互いの伝えたいことを汲み取ろうとして良いコミュニケーションをとれたような気がした。しかし、もっと深い話をもっとスムーズに話したかったという後悔もあるので、引き続き英語力特にスピーキング能力の向上を目指して今後の大学での学びや本学での留学生との交流も積極的にしていこうと感じた。

以上

## 夏季海外短期研修を終えて

文教育学部 人間社会科学科

2年 本宮 悠賀

### 研修に参加した動機

私が研修に参加したのは二つ理由があります。一つは韓国という国に興味があり行ってみたいからです。最初は韓国の音楽、特に K-POP を聞くようになったのがきっかけでした。そこから、韓国語や韓国の文化、食事など様々なことを知っていき、韓国にもっと興味を持つようになりました。そして、今回短期研修で韓国に 2 週間滞在できるということで、自分の興味をもっていた韓国という国に行ってみたいと思い参加しました。

二つ目は、日本で知ることができる情報に限界を感じたからです。韓国について関心を持ち始めてから、日本にやってきた韓国の方と関わる機会があり韓国人の友人ができました。その友人たちから話を聞いてみると、現地のお話をたくさん聞いて楽しかったのですが、自分がネットから得ていた情報と違う話を聞いたりすることで、今まで日本でネットなどのメディアで紹介されてきた韓国と実際の韓国は少し違っていると感じるようになりました。そこで、実際に現地に行って現地の様子や暮らしについて知りたいと考え参加しました。

### 事前に準備したこと

私は韓国語の勉強を中心にしました。1 年生の頃には第二外国語で韓国語を 1 年間勉強し、基礎的なハングルの書き方や発音、単語やよく使うイディオムなどを学びました。留学直前の 2 年生前期にはお茶の水女子大学で行われている、タンデムというイベントを利用しました。ここでは、韓国からお茶の水女子大学に留学している方と 1 対 1 で韓国語の会話練習を 1 週間に 1 回行いました。ここでは、単語はもちろんですが、会話の中で自分の話したいことをどうやって自分の知っている単語の中から説明するか、また相手から韓国語で話された時に知っている単語を聞き取る練習を主に行いました。

また、去年梨花女子大学の夏季海外短期研修に参加した人から現地の寮の様子や、交通の話などを聞く機会が国際交流センターで開催されていたので、参加しました。また、韓国人の友人から話を聞いて必要な物を揃えました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業がある日は午前中の 9 時から 11 時 45 分まで韓国語の授業があつて、1 時間 15 分のお昼休憩をはさんだ後に、午後 1 時から 1 時間、Special lecture がありました。Special lecture では韓国の基本的な情報や経済、食文化や環境、伝統的な音楽についての授業が英語で行われました。

韓国語のクラスではレベル別にクラス分けがされ、1 課から 3 課までの文法を習いました。普段の

授業の後には宿題が出され、文を書いて添削をしてもらいました。最終日には今まで習った文法の確認のテストが行われました。先生は 2 人いて先生たちと連絡先を交換できたので、質問したいことがあれば自由に質問出来ました。また、授業中の説明は基本的に韓国語で時々英語で説明される形式でした。先生方がゆっくりわかりやすい単語を使って喋ってくれたので、韓国語を聞きとる練習の機会になり自信にも繋がりがやすかったです。

#### 研修プログラムの内容(課外活動について)

放課後にはアクティビティが用意されていました。ロッテワールドへ遊びに行ったり、テコンドーを習ったり、石にスタンプを掘ったり、アートギャラリーや伝統的な王宮に行ったりしました。また、抽選に当たると韓国の現地学生と一緒に昼食や夕食が食べられる機会もありました。

一日休みの日もあり、そういった日には授業などはなかったのもので特にソウル市内の様々なところを観光しました。また、2days trip が企画されており、釜山と慶州に 1 泊 2 日の旅行に行きました。ここでは、釜山の市場やビーチに行き、慶州では古墳などに行きました。その旅行では、普段話したことがなかった人たちとも話をする機会があり、色んな人と会話することが出来ました。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

留学生に一人に一人のバディが付いていて、生活などで困ったことがあれば相談できるようになっていました。寮には共用のキッチンがありそこで食べている人たちもいて、通りがかった人たちも合流して一緒にご飯を食べることもありました。シャワー室もありましたが、暗証番号が分からず使えませんでした。大学の敷地内にはコンビニやカフェなどがあり、大学から出なくても食べ物を買うことは可能でした。また、大学の正門を出てすぐの通りにはカフェや洋服屋さん、雑貨屋さんなどが並んでいました。

交通機関は基本的には電車移動が多かったですが、バスも沢山走っていて利用しました。また、街にレンタル自転車が沢山置いてありスマホアプリからレンタルして乗りました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回、短期研修で 2 週間だけ韓国で過ごしたことで、同じアジア圏でも文化や国民性には違いがあることを知りました。日本の特に東京では、そこに住む人や過ごす人たちはお互いがお互いに興味がないという印象を受けましたが、韓国では困っている人を気に掛けてあげるような雰囲気を感じました。実際に滞在中にお店で注文できずに困っている時や、道に迷っている時に声をかけてくれて助けてもらうことがたくさんありました。また、文化的な面ではトイレの仕方だけを見てもトイレトペーパーが便器に流せない場所があるなど違いがありました。そういった文化や国民性の違いを実際に体験して感じたことで異文化を理解するということに対して、学んだことがありました。今までは、異文化理解する対象は自分とは何もかもが違う人達という意識が強かったように思います。肌の色や髪の色などの外見だけで区別してしまえば、アジア圏にいる韓国人や中国人との文化的

な差異は自分にとって些細なものという意識があったように感じます。特に、日本ではしばしば韓国と日本は似ているとよく聞きます。しかし今回、韓国に行って自分との違いを目の当たりにして、どんなに見た目が似ていようとも環境が違うだけで大きな差があるのだと気が付きました。また、一緒に行った日本人の学生どうしても、海外という普段とは違う環境でそれぞれの考え方の違いや行動の違いがありました。日本を離れて海外に行くことで、同じアジアに住む人との差異や同じ日本人であっても違うことが分かりました。

もう一つ異文化理解について学んだことは、異国で異文化を理解するとき自分は「マイノリティ」であったということです。今まで外国人と関わる時には自分自身が日本から出たことがなく、日本にやってきた人たちと関わるので、自分が常に「マジョリティ」の立場であったと感じます。しかし今回韓国に行き、もしかしたら日本にいれば気が付かなかつたり、些細な事だと思ふようなことでも、自分自身が現地にいることで「マイノリティ」という立場にいると感じ明確に差を感じやすかったと思います。このことから、今まで異文化理解ということに関して、自分が異文化を理解したら受け入れてもいいし、受け入れなくてもいいという意識でいたことに気が付きました。そして、異国の地で過ごす時には異文化が「マジョリティ」である時には、その異文化を理解したうえで好意的に思っていなくても受け入れて順応しないと生活ができないのだと感じました。

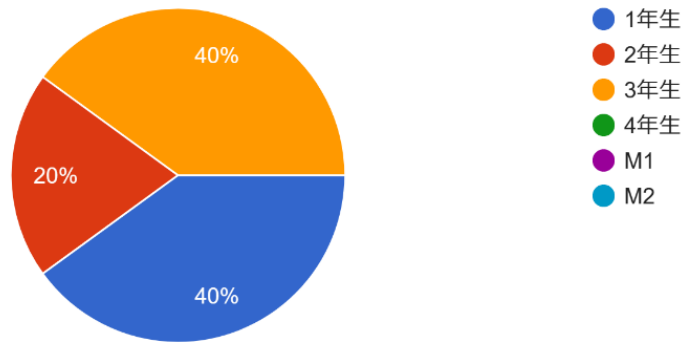
今回韓国に行ったことで気づいた異文化についての新たな理解をこれからの大学生活や就職した後で出会う外国人や、外国からきていなくても違う環境で生きてきた人たちと接する中で十分に生かして、相手の立場になって考えられる人間になりたいと感じました。

以上

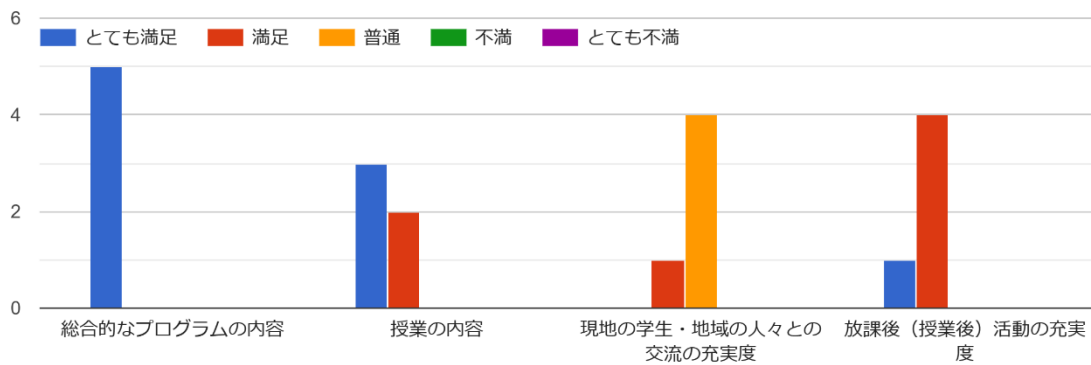


### 研修参加時の学年

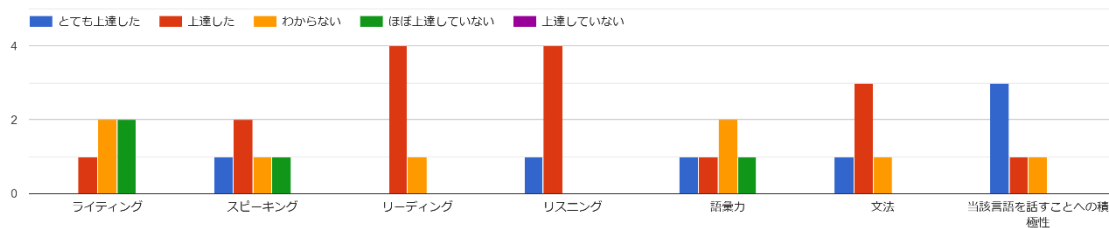
5件の回答



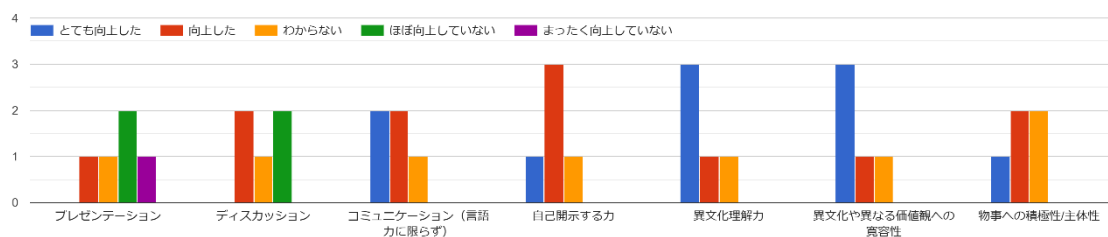
### 参加したプログラムの満足度について



### 海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・必ず放課後にアクティビティが用意されており、韓国について知る機会が沢山あったこと。
- ・英語圏への留学ではなかったため、本当に様々な国の方と交流できた。アメリカやフランスなど普段は関わりの少ない国の文化や考え方を身近で感じることができた。
- ・様々な国からの留学生と交流することができ、韓国語だけではなく英語を使う機会も豊富にあったこと。
- ・いろいろな国の学生と交流できた。経験できないような韓国の文化を体験できた。自由時間が多く行きたい場所に沢山出向くことができた。
- ・様々な国の学生が参加しているので、韓国に行きながら世界中の多様なバックグラウンドを持つ友人ができる点。

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください。

- ・基礎英語や中級英語では当たり前ですが、英語が読めて話せることが前提に進んでいきますが、韓国語の授業では、そもそも韓国語をすべて理解できない状況なので、できる限り韓国語を理解できるように先生側が配慮していると感じました。英語の授業でライティングの授業中では、基本日本語で説明されますが、韓国語に触れる機会を増やそうとしてくれて、できる限り先生たちは韓国語で教えてくれていました。
- ・生徒が積極的に発言している点
- ・黒板に向かうのではなく、円になって座るため他の学生とコミュニケーションが取りやすかった点。
- ・授業中の説明も全て韓国語で行われる点。
- ・ほとんどスライドによる授業だった点。机の並べ方が勉強しやすい形だった点。(コの字型など)
- ・コの字型に椅子が配置されており、全員の表情が見える状態で授業が進む点。

### 語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください

- ・日常的に使いそうな単語を入れておく。できれば、ネイティブの人と会話練習などをしてもらおう。
- ・単語だけでも覚えておくと便利だと思う。生活で使うフレーズを覚えておけば一人になったときも

困らないと思う

- ・単語をたくさん覚えていく。(私は数の言い方が分からず困る場面がありました)
- ・現地の学生も英語は十分に話せるので、現地の学生と韓国語で話したいという人以外は英語力を伸ばしておいた方が良いと思う。
- ・韓国語は、買い物ができるくらいの会話力を身につけておくと良いと思います。英語は、友人との会話に遅れを取らないくらいリスニング力とスピーキング力があれば申し分ないですが、基本、アジア圏の子は英語が母国語ではないので何とかできます。

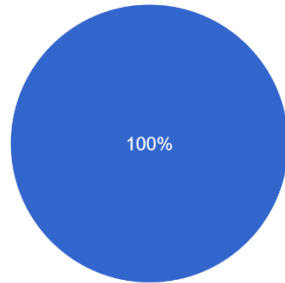
渡航先に持って行った方がいいものを教えてください。

- ・カード社会なので、クレジットカードかデビットカードがあると決済が便利だと思います。
- ・痛み止めと胃薬があれば何が起きても対応できると思う。
- ・コンセントの変換プラグ、ハンガー、お風呂場用のスリッパ、ドライヤーなど(大学近くのダイソーでいろいろ買えるのであまり心配しなくても大丈夫だと思います！)
- ・寮には何もないので、トイレトペーパーや足拭きタオルハンガー洗剤なども忘れずに持って行ったほうがいいのかも。ただ大学の近くに安く日用品を揃えられる店もあるので現地調達も良いと思う(実際私はそうした)
- ・粉末洗剤と柔軟剤。現地のダイソーでは大きな液体洗剤しか売っていなかったもので、持参した方が便利だと思います。

渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください。

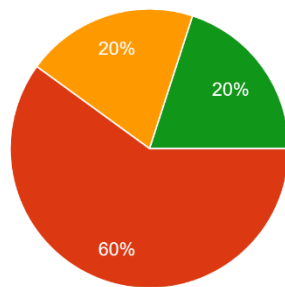
- ・Instagram などの SNS や、韓国人の友だちから韓国の様子を聞いていました。
- ・インスタで調べていた
- ・前年度の報告書やインターネットなど
- ・ガイドブックはあまり使わず、SNS で情報を入手した。普段から TikTok をみるタイプではないが TikTok は特に役立った。
- ・外務省のたびレジを登録して、メールを受け取る設定にしていました。

大学寮の部屋の構成を教えてください  
5件の回答



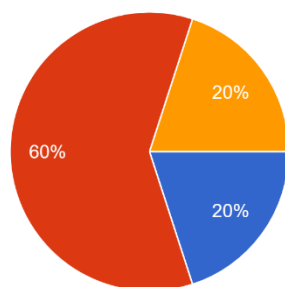
- 1人部屋
- 2人の相部屋
- 3人以上の相部屋

大学寮の満足度について  
5件の回答



- とても満足
- 満足
- 普通
- やや不満
- とても不満

大学寮周辺の安全について  
5件の回答



- とても安全である
- 安全である
- 普通
- 安全ではない
- 全く安全ではない

#### 大学寮でよかったこと

- ・キッチンが共用だったので、そこにいと自然と他の人とも話せたこと。
- ・特に可もなく不可もなくだったが、共用のキッチンに色々揃っていて便利だった
- ・部屋が広く、清潔だったため快適に過ごすことができた。
- ・プログラムの参加者がほぼ全員住んでいるので交流しやすかった。大学の中にあるので安全。
- ・フロアに1つある共用キッチンで、電子レンジや電子ケトルなどが使用できたこと。

#### 大学寮で不便だったこと

- ・お風呂やトイレなど水回りが少し不便だったが異文化として受け入れるべき
- ・お風呂の仕様が日本とは異なり、少し戸惑った。洗濯機が学生数に対して少なく、順番待ちになることがあった。
- ・トイレとシャワーが同じ空間に設置されており、間仕切りがないので水浸しになる。ハンガーやトイレトペーパーがなかった。足りない物は現地のダイソーで手頃な価格で購入できるので、特に不便はなかった。また、一見綺麗に見えるが、結構土ほこりで汚れていた印象がある。寮の問題ではないが、ちょうどソウル市内で女性を標的にしたテロ予告が多発していた時期でもあり、大学の最寄駅も犯行予告を受けたことがあったため、その間は友人たちと離れず早めに帰宅するなどの対策は行った。

#### 「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・東京にいる人たちはお互いに興味が無いという話を聞いてもよく分からなかったが、韓国では周りを気遣って助けようとする文化があるように感じて、東京の話も少し理解出来たこと。
- ・水回りが発展している。まだまだ現金文化が根付いている
- ・日本の人は他国の人と比較すると消極的な面がやはりあると感じた。また、日本語を勉強していたり、日本に行ったことがある方も多く、想像していたより日本は世界の中でも知られているのかなと思った。
- ・清潔な国だなと感じた。東京に住んでいるとせっかちな人が多い印象だったが韓国に比べるとゆったりとしている。店員の愛想が良い。真面目。
- ・韓国と比べると、公共交通機関(バスなど)の対応は優しい方なのだ気がついた。ただ、ひとベースで捉えると、韓国の人の方が人情を感じる場合が多かった。日本人は業務で決められたことはきっちり行いが、プライベートの場面で行動するかは別問題なのかもしれないと考えた。

#### 「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・外から来た人には冷たい印象があったので、滞在中見ず知らずの人に助けられたことが数回あり、外から来た人に対して排除する訳ではないと気づけたこと。
- ・カード文化のため、機械で注文から支払いまですることがおおかった。人に関しては、基本的に

優しく接してくれる。少しだけせっかちな人が多いようにも感じた。

・明るく気さくな方が多いと感じた。大学全体も含め留学生を受け入れる、歓迎する雰囲気があり嬉しかった。街並みや風景は東京ととてもよく似ていたが、カフェが多かったり一つ一つのお店があまり混んでいなかったりするなどの違いがあった。

・日本語が話せる人が街中に多くいた。全体的に優しい。自分たちの文化に誇りを持っている。せっかち。

・反日の人もいなくはないが、たまたま入ったレストランで「日本、好きだよ！」と声をかけてくれる人がいたり、思っていたより新日的な印象を受けた（正確には、大統領が変わったタイミングだったので、新日的な声を公表できるようになっただけかも）。ただ、国宝の説明文など公的な文章は反日的だったので、立場による歴史的事実の受け取り方の違いと難しさを感じた。

「自分」（コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など）について気づいたことを教えてください

・自分は異文化を受け入れることができると思っていたが、シャワー室がトイレと一緒にいることや、トイレトペーパーを流せないところもあるという文化を受け入れるには時間がかかったので、何でもいい訳ではなくて自分の中で基準があるということ。

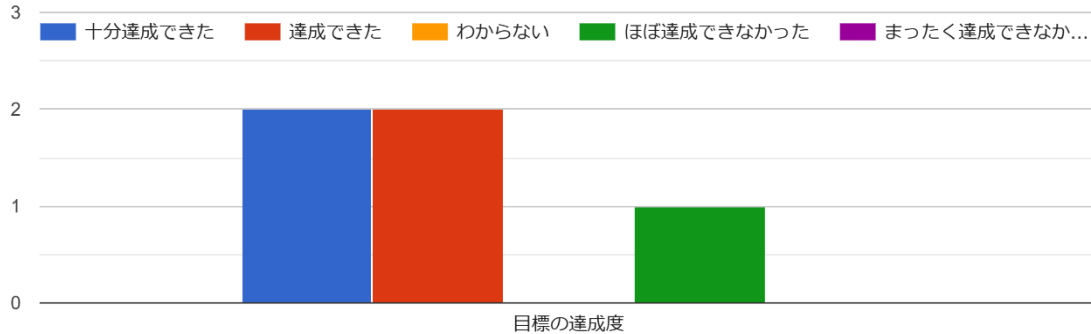
・コミュニケーションを取る際にわからない単語を頑張って伝えようとする大切さに気付いた。はじめは話せるか不安があるときに無意識に話しかけるのをやめてしまうことがあって、自分の伝えようとする意欲が足りていないことにも気づかされた。

・普段はあまり積極的なタイプではないが、滞在期間はとにかくいろいろな場所へ行ったり、人と会うことを意識していた。その結果、新しいものを見たり、様々な国の学生たちと友達になったりすることができ、貴重な経験を積むことができた。

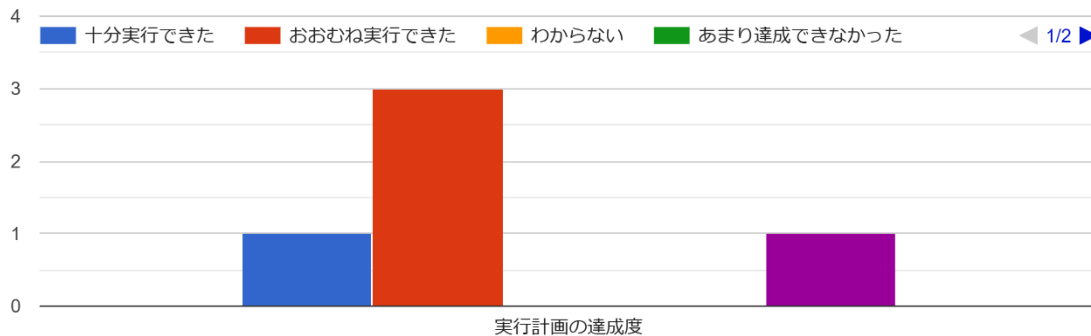
・英語力に全く自信がないまま、渡航したが話そう伝えようという気持ちがあれば拙い英語でも十分会話できた。中学3年生の時にイギリスに短期留学したことがあり、そこでは日本人も少なく異文化に初めて触れ衝撃を受けて思考も変化し帰国後も引きずったが、今回は近い国ということもありあまり衝撃を受けたことはなかった。

・留学自体初めてだったため、最初は自分の英語が通じるのか、友達ができるのか不安だったが、英語の能力云々よりも伝えようとする姿勢が大切であることに気がついた。また、留学以前はその土地のものに手を加えることはあまり良いと思っていなかった（例：日本の握り寿司が海外ではカリフォルニアロールやちらし寿司になっているなど）のだが、現地の人のお好みに合わせた応用を効かせることで、さらなる土壌を見出すことができるのだと日本を離れて初めて気がついた。

海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



今回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・異文化理解が必要な時、異文化理解をしなければその場所で生きていけないという状況にある人もいないのではないかということを知った。これから生きていく上で、そういったことを知っておけば自分とは異文化の人と出会った時に自分の文化を押し付けるだけでなく、相手の立場に立って理解しやすくなると思う。
- ・わからないことを放置するのではなく、自ら聞くことやできないことをすぐに諦めるのではなく、別の方法を探す習慣などが今後にならなると考えている。
- ・自分から積極的に動くことで自分の世界を広げることができること。

- いろいろ心配することがあっても、思い切って飛び込んでみると案外何とかなるということ。
- 自分で行動を起こさないと何も変わらないということ。逆に自分で行動を起こせばいろいろな経験や出会いにつながるということ。
- 海外の大学院進学や外資系企業への就職を現実的に考えるようになった。英語圏への留学を希望していた中、個人の都合で非英語圏の韓国に17日間という短期滞在をすることになったのだが、同様に非英語圏出身で英語を母国語としない学生と多く話すことができ、自分の英語学習のモチベーションとなった。





## 開南大学（台湾）

研修期間：2023年8月17日～8月30日（2週間）

滞在：大学寮

研修内容：英語、中国語、中国文化研修（中国語と英語コース選択）

## 研修プログラム

○食事付き

	09:00-10:30 10:40-12:10	13:00-14:30 14:40-16:10	備考	朝食	昼食	夕食
0817 TH	到着	開会式・歓迎会/ 中国語/英語①②/ 夜市散策:中壢夜市 (17:30-20:30)	タクシー 空港→大学学生寮		○	
0818 FR	中国語/英語③④	文化体験1 参拝・縁結び祈願体験、 中正紀念堂見学	専用バス 大学→霞海城隍廟・中 正紀念堂		○	
0819 SA	中国語/英語⑤⑥	桃園芸術エリア散策				
0820 SU	中国語/英語⑦⑧	自由時間 (台湾人学生と の交流等)				
0821 MO	日帰り旅行1 十分老街→天燈上げ体験→海悦樓(昼食)→九份 老街		専用バス 大学→十分・九份		○	
0822 TU	中国語/英語⑨⑩	文化体験2 臺灣客家茶文化館見学、 ティーバッグ作り体験	専用バス 大学→臺灣客家茶文化 館		○	
0823 WE	中国語/英語⑪⑫	文化体験3 パイナップルケーキ作り 体験、淡水老街散策	専用バス 大学→郭元益糕餅博物 館・淡水老街		○	
0824 TH	日帰り旅行2 松山文創園區→鼎泰豊(昼食)→101 景觀台→故 宮博物院		専用バス 大学→台北		○	
0825 FR	中国語/英語⑬⑭	自由時間 (台湾人学生と の交流等)				
0826 SA	横山書道美術館、グロリアアウトレット					
0827 SU	自由時間 (台湾人学生との交流等)					
0828 MO	中国語/英語⑮⑯	発表準備				
0829 TU	中国語/英語⑰⑱	中国語/英語⑲⑳ 成果発表/修了式	帰国準備		○	
0830 WE	帰国	帰国	タクシー 大学→空港			

## 台湾での密度の濃い時間

生活科学部 食物栄養学科

2年 青木 聡華

### 研修に参加した動機

台湾はその独特な食文化が有名ということで、以前から興味がある国でした。もともと台湾の夜市を訪れる学科の研修があり、それに参加したかったのですが、コロナ禍を理由になくなってしまいました。残念でしたが、今回の開南大学の研修内容を見たところ食に関する体験を多くできるプログラムだったので、参加を決めました。また、現地の学生との交流時間も多く、貴重な経験になると思い、参加しました。

### 事前に準備したこと

事前の準備として、台湾の歴史についての本を読みました。研修では中正記念堂など歴史にまつわるスポットを巡ることもあったので、軽くでも触れておいてよかったと思っています。また現地の食文化について調べたり、動画を見たりしました。

### 研修プログラムの内容(授業について)

私が受講していた英語のクラスは、中国語と同様ほぼ毎日授業があり、前半は発音、後半は間違いやすい文法について学びました。最後の成果発表としてクラスみんなで英語の歌を歌い、ダンスをしました。発音については、口の中の動きを詳しく学び、一人ずつテストされました。これほど丁寧に発音を学べなかったのが、今までの英語の授業と一味違い、楽しかったです。また、先生がアメリカから来た方で、アメリカ人の視点で台湾の文化や食についてお話ししてくださりました。台湾人でも日本人でもない方が台湾をどのように捉えているのかを知ることができ、楽しい時間だったと思います。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

午前に授業がある日は、午後から大学のある桃園周辺に外出し、授業のない日は台北周辺を観光しました。2週間にわたるプログラムだったので、非常に多くの場所を巡ることができました。その中でも特に印象に残っているのは夜市です。夜市は台湾の至る所にあり、週2回開かれており、名物の観光スポットです。台北最大の士林夜市は観光客が多く、信じられないくらいの店の数と広さがありました。そこで名物の胡椒餅やゴーヤジュースなど、珍しいものをお腹いっぱい食べたのが楽しかったです。一方、大学の近くの夜市は士林夜市とは異なり地元の方が多く、人々の



強い熱気を感じました。人々の生活と夜市が密接につながっていることを肌で感じ、印象に残っています。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

毎日の生活と外出先のサポートを、日本語を学ぶ現地の学生がしてくれました。学生の皆さんはとっても親切で、何もわからない私にも日本語で丁寧に説明してくれました。食事や外出先でもつきっきりで対応してくれて、その方達のおかげで楽しい生活を送ることができ、感謝しています。特に、私のグループを担当してくれた学生さんは来年お茶大に留学予定の方だったので、日本や台湾の話題だけでなく、お茶大についてもお話し、深い交流をすることができました。毎日一緒にご飯を食べ、水族館に行ったりプリクラを撮ったりと、2週間とても仲良くなりました。

#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

研修プログラムの中で、恐れずに日本語で話したり、外国人である私たちにフレンドリーに話しかけに来てくれたりする台湾の学生の積極性に驚きました。特に、躊躇せずに自己開示をしてくれるので、研修前には想像もしないほど仲が深まったと思います。私は自分を社交的な方だと思っているのですが、それでも時々周囲からの目が気になって静かになってしまう時や、バカにされるのではないかと思って外国語を使うのを躊躇ってしまう時があります。そんな風に自分を押し殺すよりも、台湾の学生のように前面に出して行った方がお互いのバリアが外れ、深い関係を気づくことができると身にもって感じました。これからの大学生活では、適当な範囲で積極的に自己開示をし、色々な人と交流して行きたいと思います。

以上

## 2023 年度開南大学夏期中国語/英語・台湾文化研修報告書

文教育学部 言語文化学科 中国語圏言語文化コース

4 年 奥村 英里

### 事前に準備したこと

- ・中国語学習の追い込み(使用した教材:時事中国語の教科書 2023、ステップアップ中国語 4～6 月号+6～8 月号)
- ・台湾華語に触れる(使用した教材:台湾華語でぐるっと台湾めぐり)
- ・英会話練習(遠山健の英会話入門 2023 年夏号)
- ・前乗りと後泊の旅行程計画(8/13～8/15 の前乗りでは台北滞在と花蓮旅行、8/30～9/6 の 1 週間で台中・台南・高雄・台東を巡る計画を立てた。)
- ・持ち物の用意(バスグッズや化粧品は日本からすべて持っていくこととした。他には SiM カード、保険証明書など。)

### 現地での授業について

私は華語 B のクラスに参加した。授業のレベルは HSK3 級～4 級程度とみられ、5 級を取得して 6 級の勉強をしている身としては物足りなかったが、オールチャイニーズで授業が進行するため、中国語のシャワーを浴びることができるという満足感があった。また、指示が聞き取れなかったり、テキストの文章の意味が分からなかったりする他の参加者に教えるような立場となり、中国語を教えるという貴重な経験をすることができた。繁体字で中国語を学ぶということが初めてであったため、当初は戸惑うこともあったが、街中でも繁体字に触れるので、1 週間程度で違和感が消え、読むことに関しては非常にスムーズになった。

台湾産のフルーツを食べたり、台湾茶を飲んだり、婚礼の際に出されるお菓子を食べたりと台湾の文化を体験しながら授業が進んだ。繁体字を書く練習の時間も設けられ、授業の最初には前回の課の単語の聞き取り小テストが行われていた。校外学習の前日にはレポート課題が出され、体験したことを中国語で作文し、次の授業で発表することになっていた。

### 課外活動について

プログラム中に訪れた場所は以下の通り。

- ・中壠夜市
- ・霞海城隍廟&中正紀念堂
- ・桃園芸術エリア
- ・十分老街&九份老街
- ・臺灣客家茶文化館

- ・郭元益糕餅博物館&淡水老街
- ・松山文創園區&101 景觀台&故宮博物院
- ・横山書道美術館&グロリアアウトレット

台北と桃園の観光地を中心に、大学が手配してくださった団体バスに乗って回った。午前中は授業で午後から課外活動の場合は桃園周辺を訪れることが多く、丸一日課外活動の場合は台北まで足を延ばすことが多かった。これ以外にも、チームごとの自由時間が半日を2度、丸1日を1度与えられ、私達のチームは台湾鉄道桃園駅周辺を散策したり、台北を訪れて買い物やカフェ巡りを楽しんだりした。

### 生活全般について

8月16日から8月30日まで、開南大学学生第2宿舎に滞在した。4人1部屋で、シャワーやトイレ等は部屋にはなく、同じ階に暮らしている学生全員で共有であった。机が組み合わされたロフトベッドで眠ることになるが、マットレス等の寝具は一切自分で用意する必要があったので、初日に台湾人のチューターに大型スーパーに連れて行ってもらい、現地調達した。(なお、他にもスリッパやタオルなど現地調達したものを寮内に捨てて帰ることができ、大変助かった。)

台湾では朝ご飯を外食する文化があり、コンビニを利用しつつ時折大学近くの朝ごはん屋さんで足を延ばした。朝ご飯に限らず、ローカルな食堂であれば基本的に1食400~600円程度で非常に満足度の高い食事ができるため、食べることには苦労しなかった。ただ、ドリンクの量が多かったり、全てが甘い味付けだったりすることには慣れるのに時間を要した。

また、現金文化が根強く、クレジットカード等が使用できない店も多い。クレジットカードが使えてもVISAは使えないことが度々あり、台湾に長期滞在するのならばマスターカードを1枚持つておくとうまいと感じた。

### 同プログラムを終えて、今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

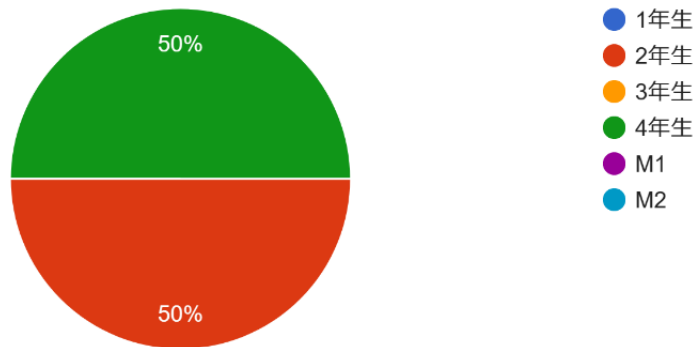
今回の滞在を通して、実際に台湾の人々と中国語で交流することで、優しくしてもらえることが増えたり、トラブルを自力で解決できたりと、英語以外の現地語を話せるメリットを体感することができた。自分で読んでわかったり、自分で話を聞いて理解できたりすると、見える景色の解像度が高まると実感した。

ただし、今の自分の中国語力で旅行には何ら困らないという自信がついた一方、ビジネスの場面で使えるようになるにはまだまだ長い道のりであるとも感じた。1年以上語学資格試験を受験していなかったが、次のステップに向けて本腰を入れようと思うきっかけができた。HSK6級取得を目指し、中国語のレベルに磨きをかけていきたいと思う。

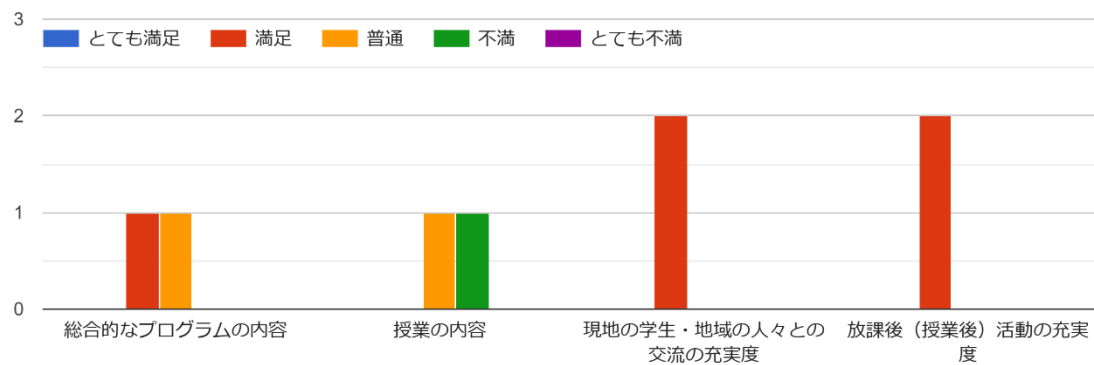
以上

### 研修参加時の学年

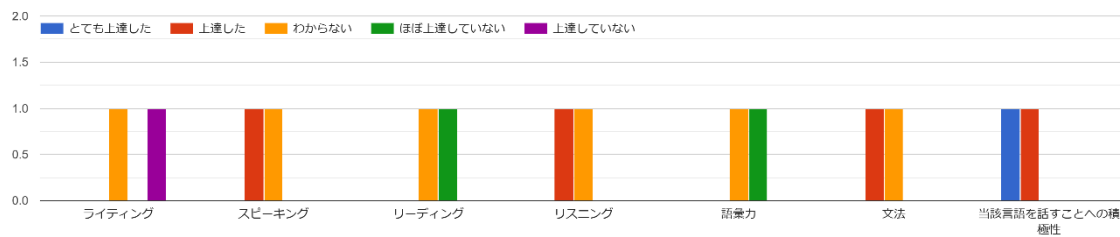
2件の回答



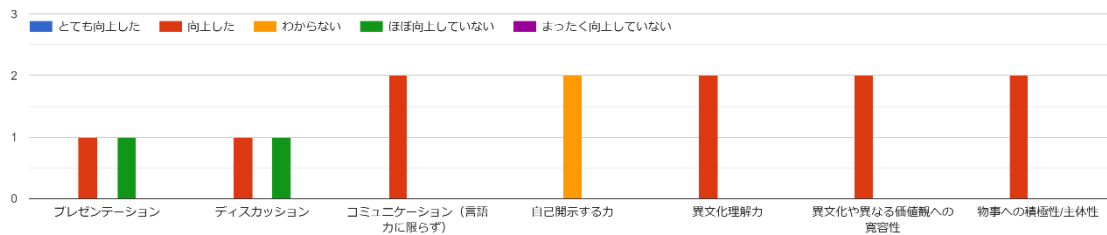
### 参加したプログラムの満足度について



### 海外短期語学研修に参加する前と比較して語学力は上達しましたか？



海外短期語学研修前と比較して、語学力以外のスキルは向上しましたか？



### 参加した海外短期語学研修プログラムのよかった点

- ・短い期間で台北と桃園を知り尽くせるようなプログラムだった点と、中華圏の大学生生活を体験できるような宿舍生活ができた点。
- ・現地の学生と毎日交流する時間があり、十分に文化交流できたこと。

### 日本の語学の授業と異なるところを教えてください。

- ・オールチャイニーズでおこなわれたこと、繁体字での中国語学習であったこと。
- ・英語の発音を細かく習った。

### 語学力において留学前までに準備しておいた方がいいことを教えてください

- ・旅行で使うフレーズや単語を勉強していくべき。例えば「チェックアウトしたい」「大人 1 名分の切符を買いたい」などは、単語や言い回しを知らないとつぎに口から出てこない。
- ・英語に関しては特にいらなと思う。

### 渡航先に持って行った方がいいものを教えてください。

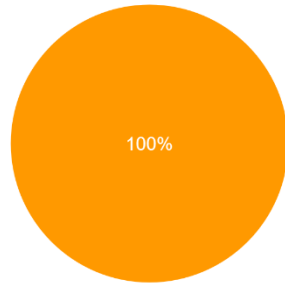
- ・冷房が効きすぎていることが多いので羽織るもの必須。水分だけでなく円分も補給しないとあまりの暑さに倒れかけるので、塩分補給タブレットがあるとよい。
- ・ティッシュペーパー(トイレトペーパーがないから) 帽子(日差しが強い)

### 渡航先の情報をどのように入手していたかおしえてください。

- ・地球の歩き方を読んでいた。
- ・YouTube で台湾の様子をよく観ていました。

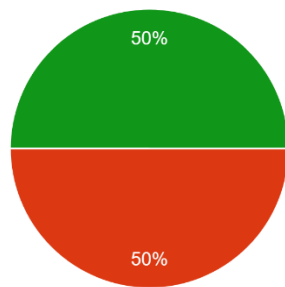


大学寮の部屋の構成を教えてください  
2件の回答



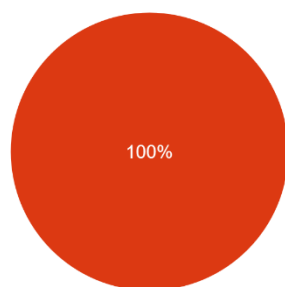
- 1人部屋
- 2人の相部屋
- 3人以上の相部屋

大学寮の満足度について  
2件の回答



- とても満足
- 満足
- 普通
- やや不満
- とても不満

大学寮周辺の安全について  
2件の回答



- とても安全である
- 安全である
- 普通
- 安全ではない
- 全く安全ではない

#### 大学寮でよかったこと

- ・4人一部屋という普段なら体験できない貴重な集団生活を送れること。
- ・普段関わることのない他の参加者と沢山話をできたこと。

#### 大学寮で不便だったこと

- ・コロナ罹患者がいるのになかなか隔離をしてくれず、コロナに対する意識の違いかもしれないが、大変怖い思いをした。
- ・洗濯機が2個しかないので、洗濯を気軽にできない。

#### 「日本」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・規律が整っている。提供されるサービスの質が高く、社会システム基盤が盤石。
- ・日本人は周りをよく気にするねと言われ、改めて日本では人の目を気にする風潮があることを実感しました。

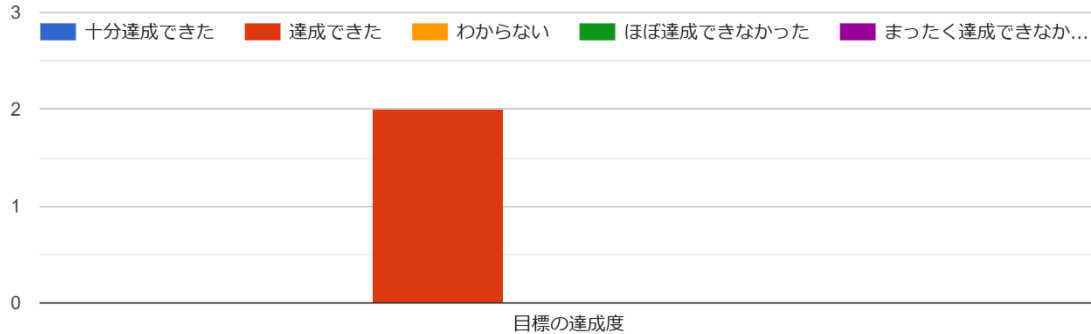
#### 「滞在国」(文化、ひと)について気づいたことを教えてください。

- ・コミュニケーションに積極的。全体的に寛容な風土がある分、社会規律がはっきりしていない場面も多く、「それは大丈夫なの？」というグレーな行為が目につく。
- ・日本の料理店が想像していたより多い。フロア全部が日本料理のショッピングセンターもあった。

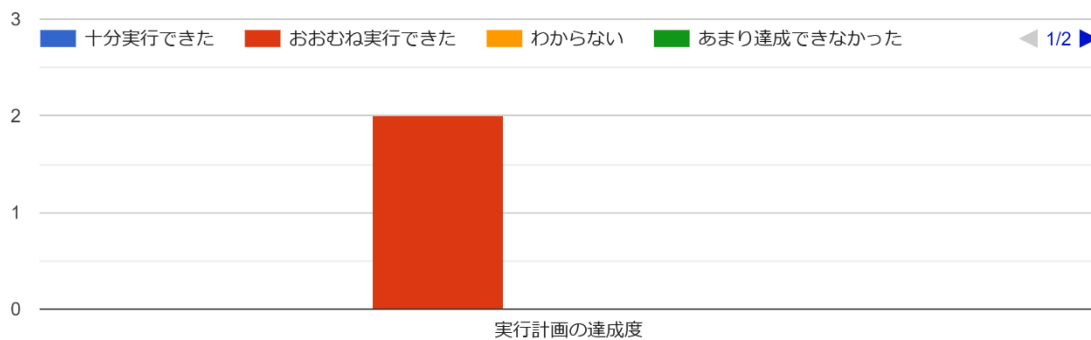
#### 「自分」(コミュニケーション力、異文化理解力、性格、発想の変化など)について気づいたことを教えてください

- ・ひとり時間を持たないと想像以上に苦痛。衛生面が案外気にならない。
- ・臭豆腐や豚の血など様々な食材に挑戦した。食の面では、積極的に異文化理解を試みた。

海外短期語学研修前に設定した目標はどのくらい達成できましたか？



目標達成のために立てた実行計画はどのくらい実行できましたか？



今回参加した短期研修プログラムを通して学んだことで、今後の大学生活、就活、卒業後の人生に活かそうなことは何ですか？

- ・台湾の会社と取引することがあれば、台湾人の気質や台湾の地理がある程度理解できたので、スムーズに対応できると思う。
- ・積極的に人に関わりに行くことが大切だと感じた。私は自分をどちらからという社会的な人だと思っていたが、台湾の学生さんたちはもっと気さくに話しかけてくれた。今回のように期間の決まったプログラムでは、いつも以上に、相手を知ろうとする気持ちを押し出していく必要がある。これは、これからの大学生活や卒業後、人脈を広くするのに重要だと思う。





## フランス語研修（フランス）

研修機関：グルノーブル大学

研修期間：2023年9月4日～9月29日（4週間）

滞 在：ホームステイ、または、大学寮

研修内容：フランス語研修

Allons étudier le français en France !

参加者募集中

## フランス語夏期短期留学プログラム

仏語圏言語文化コースは、以下のとおりフランス語夏期短期留学プログラムの参加者を募集します。基礎からフランス語を学びたい人、上級を目指す人、異文化に触れたい人、どんな人も歓迎しますので、ふるってご応募ください。

### ◆ 現地での研修期間

2023年9月4日(月)～9月29日(金) 4週間

### ◆ 研修機関

グルノーブル・アルプ大学附属フランス語教育センター  
(CUEF)

### ◆ 研修内容

週20時間(1日4時間)のフランス語授業と文化アクティビティ(ホームステイまたは大学寮滞在)

\* 事前にレベル分けテストを受けていただきます。

### ◆ 研修費用

ホームステイの場合(朝・夕食込) : 2875ユーロ(約41万円)

大学寮滞在の場合(食事なし) : 2415ユーロ(約34万円)

\* 上記には授業料、登録料、滞在中の保険、文化アクティビティ参加費、空港までの送迎費を含みます。

\* 航空券は別料金(旅行エージェントによるお勧めプランを利用、または各自で手配)

\* JASSO奨学金(8万円)、お茶の水女子大学奨学金(5万円)が支給される可能性があります

### ◆ 対象

本学の正規課程に所属する学部生・大学院生(フランス語力は問わない)

\* 学部生の場合、本研修を修了することにより、仏語圏言語文化実習I(2単位)を取得できます。

### ◆ 応募締め切り

2023年5月26日(金)

☆☆☆ 説明会開催します! ☆☆☆

4月26日(水) 17:00-17:30 Zoom

事前登録フォーム:

<https://forms.gle/Y8DPvLzCYjZaPEF99>

この日都合がつかない方にはZoom録画の視聴を可能にしますので、フォームの備考欄からお知らせください。



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

お茶の水女子大学  
仏語圏言語文化コース



## 2023 年度夏期フランス語学研修報告

文教育学部 言語文化学科

2 年 柳川 七海

### 研修に参加した動機

仏語圏言語文化コースに所属しており、1 年次からフランス語及びフランス文化についての授業をとっていたので、将来的に現地へ行きたいと考えていたが、私は今まで一度も海外に行ったことがないので初めから長期留学をすることは拒まれた。本プログラムは 1 ヶ月という短期でありながら、フランス語語学上達の集中授業を現地の大学で受講することができると伺い、留学を考えていながら不安を覚えている自分の状況にぴったりだと考えたから。

### 事前に準備したこと

1 年次に引き続き、2 年次も受講できるフランス語の授業は全て受講した。さらに私はホームステイを予定していたため、日常会話表現や身の回りの物など日常的に使用する単語が必要になると考えたので、会話集や単語帳を購入し、できる限り覚えていくようにした。

### 研修プログラムの内容(授業について)

授業は実践的な内容重視であった印象が強い。たとえば一つのテーマについて 2 人 1 組で会話表現を考え、台本なしで発表したり、自身の体験を一人ずつ何も見ずに発表したりすることもあった。またリーディングではただ個人で解答し、答え合わせをするのではなく、友人同士で話し合う時間を設け、互いの意見交換の時間を設けていた。リスニングでは、問われている質問についてだけでなく、どのような描写や言いたいことは何かなどを生徒に質問したり、文章そのものを聞いて書き取らせたりしていた。さらに授業内にアクティブさも取り入れていた。たとえば否定形の構造を教えるために文章構造を体の動きに当てはめ、感覚的に身につけさせようとしていた。(たとえば主語 = 右手、動詞 = 頭、目的語 = 左手を発声と同時に動かし、さらに ne = 左肩、pas = 右肩を同様に動かすことで、動詞を否定形で挟む構造を体感的に覚えさせる。)

毎日 4 時間の授業を週 5 で行っていたが、毎時間実践形式のため、頭をフル回転させた濃い時間を過ごしていたと考えている。

### 研修プログラムの内容(課外活動について)

大学が企画をしてくださり、素晴らしい景色を数多く見物することができた。またホストファミリーの家族に会ったり、ホストファミリーの友人たちとのパーティーに参加したりすることで本場のフランス人の生活を体験することができた。言葉の壁があるのでもちろん完全に理解できたわけではないが、会話内容の傾向やテンポ、食事スタイル、休日の過ごし方など全てが日本とは違っていた。大まか

に述べれば、良くも悪くも全てのことにに関して寛容であること、社会について強い関心があることを特に感じた。例えばレストランで注文を 30 分以上取りに来なくても、何の文句もない。学校の教育内容や物価、政治などについて他国と比較しながら意見交換をよくしていた。

私はもちろん美しい景色や街並みを見物することも素敵だったが、現地のフランス人達が何に関心を持ち、どのような暮らしをしているかの方が興味深く、実際に暮らさなければ分からないことなので、とても勉強になったと考えている。

#### 生活全般について(滞在先についても含める)

グルノーブルでの生活は、豊かな自然と美しい街並みに囲まれながら、学びと感謝に溢れていた。大学での授業はもちろんだが、私はフランスでのトラムの乗り方、生活リズム、ドアの開け方まで何もかもを知らなかった。まるで赤ん坊のような私にホストファミリーは優しく丁寧に接してくれ、カタコトのフランス語にも耳を傾けてくれた。フランス語語学力上達を目的に留学したが、それだけでなく、思いやりや温かさといった、人間の内面の重要な部分を学ぶことができ、私の人生においてかけがえのない経験になったと考えている。



#### 研修プログラムを通して学んだことと、その学びを今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

この研修プログラムを通して、私が一番学んだことは「やってみる勇氣」だと考えている。日本から飛行機で 15 時間も離れた異国の地での生活は大きな不安や苦勞を伴い、時にやめてしまいたいと思う瞬間もあったが、研修を終えた今、達成感と感謝で心が溢れている。今後の大学生活、キャリア、人生において戸惑い不安を覚える場面に直面したとしても、自分が興味を持ちやってみたいと思っていることなら、躊躇わず飛び込んでみようという勇氣が、私の中で確かに湧いているのを感じる。フランスが与えてくれたこの勇氣を忘れず、これから自分の人生を謳歌していきたい。

以上



## フランス短期留学を終えて

文教育学部 人文科学科

3年 安藤 承子

### 事前に準備したこと

1ヶ月間の滞在に向けて、最低限の日用品などを買いそろえました。私はホームステイを選択していたので、ホストファミリーへのお土産も購入し、それをフランス語で説明できるよう多少準備をしました。

また、CUEF から指示されたプレイズメントテストも受験し、現地ではその結果に基づいてフランス語のクラスが決まっていました。

### グルノーブル・アルプ大学 CUEF プログラム内容について

フランス語の授業は週 5 日、1 日 4 時間の講義でスケジュールされていました。9 月の第 1 週目は日本人専用プログラムという、日本人 6~7 人のみのクラスで学び、フランス語の基本的な会話表現を学習しました。2 週目以降はインターナショナルクラスに変わり、私のクラスには日本・ロシア・シリア・ウクライナ・ベトナムと多国籍なバックグラウンドを持つ学生が在籍していました。海外から来る学生は皆積極的で、私もその姿勢に触発されながら躊躇うことなく発言するように心がけました。

授業以外には CUEF が主催するエクスカージョンが用意されており、休日にグルノーブル郊外へ出かけたりしました。自分一人では訪れる機会がないような場所に行くこともでき、どれも素敵な思い出です。

### 現地学生との交流について

現地学生と交流する機会が特別に設けられている訳ではありませんでしたが、お昼にカフェに並んでいる時やバスを待っている際など、ちょっとした時間で簡単な会話をする機会はたくさんありました。個人的な感覚では、グルノーブル大学の留学生と親しくなれる機会が多い印象です。実は、滞在中にグルノーブル大学の DUEF という別のコースで学んでいる韓国人留学生と仲良くなり(廊下で偶然聞こえた韓国語に私が反応し、もしかすると韓国の方ですか・・・?と声をかけたことがきっかけでした(笑))、それ以降一緒にランチに誘ってもらったり、素敵なカフェに連れて行ってもらったりしました。また、大学が主催していたエクスカージョンに参加した際にはアメリカからの留学生と交流する機会があり、丸 1 日一緒に過ごした日もあります。フランス語を超えて多言語での交流が出来たことも、語学留学ならではの非常に印象に残っています。

## フランス短期留学プログラムを終えて、今後の大学生活やキャリアにどう生かしていくか

今回の短期留学は、大学院での長期留学を見据えて、語学力の向上及び現地での生活を経験するという目的のもとで参加しました。海外での生活は毎日が刺激的で学ぶことも多いですが、振り返ってみると、やはり苦勞を伴う経験も多かったです。留學生活を送っている最中も感じていましたが、いきなり1年留学に行くのではなく、このタイミングで1ヶ月の留學生活を体験できたことが非常にありがたく、感謝の言葉しかありません。この経験を元に、今後もより一層勉學に励んで参りたいと思います。

## 最後に(感想)

滞在先のホストファミリー、留學生の友人、先生方など、様々なご縁に恵まれてとても充実した留學生活を送ることができました。私のフランス留学を後押ししてくれた両親をはじめとし、桜蔭会の皆様、大学関係者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 留學中の様子(写真)



↑フランス最終日、ホストファミリーと3人で写真を撮りました。



↑インターナショナルクラスの友人たちと。年齢も国籍も様々です。

以上

## 編集後記

2019年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、これまで、「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」とされていましたが、2023年5月8日から「5類感染症」になりました。国はこれまでのように行動制限を求めることができなくなり、感染対策は今後、個人の判断に委ねられることになりました。

本学でも、これまでオンラインで実施してきた留学説明会や留学経験者による報告会などを対面で行えるようになりました。学生に提供する情報や内容はこれまでオンラインで行ってきたものと同じですが、やはり、学生を目の前にして説明することが出来、説明会終了後に学生からも質問を気軽に受けられたり、雑談が出来たり、日常が戻ってきたのだなど実感をしている2024年の冬にこの編集後記を書いています。

また、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」への移行に先駆けて、2023年4月29日を以て、日本の水際措置も実質終了を迎えたことは、留学、特に短期間の海外渡航を希望する学生や留学をサポートする私たちに大きな影響を与えました。国際的な人の移動に制限がかけられていた異常事態を脱したのです。とはいえ、為替や原油高の影響で、留学にかかる費用はコロナ禍前に比べ著しく高騰し、学生にとってはすぐに手が届くものではなくなったと思います。

このような状況の中、2023年度夏季海外短期研修に参加した学生たちが経験したことを振り返り、また同じくこれから海外短期研修に参加する学生のために執筆し、それらをまとめたのがこの報告書です。この報告書を読むと、参加した学生たちは、各自で立てた目標達成のために主体的に留学に取り組んでいることがわかります。この主体性が、「留学」成功のカギを握っています。また、現地の学生、教員、研修と一緒に参加したお茶大生、そして自分自身と向き合い、国、文化や所属を超えて対話をした経験が「正解のない」時代とその社会で生き抜く力の一助になると信じています。

そのカギとなる経験を共有してくれた参加した学生たちには心から感謝しています。

最後になりますが、コロナ禍を経て、辛抱強くそして大変有意義なプログラムを提供して下さった海外協定校担当者の努力と多大なる配慮に敬意と感謝を表します。また、本学の学生渡航業務全般をお引き受け下さいましたSTAトラベル大山様はじめスタッフの皆さまには本当にお世話になりました。ありがとうございました。最後に、いつも迅速に学生対応をして下さった石渡久和アカデミック・アシスタント、そして、学内広報や申請及び本報告書の編集作業を一手に引き受け下さった崔進栄アカデミック・アシスタントに深く感謝申し上げます。

リサーチアドミニストレーター  
長塚尚子

## 2023 年度夏季 海外短期研修報告書

発行日 2024 年 1 月

発行 お茶の水女子大学 国際教育センター  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1  
TEL: 03-5978-5913

研修・編集担当 国際教育センター  
リサーチ・アドミニストレーター 長塚 尚子  
アカデミック・アシスタント 崔 進栄